ぬきん-でる【抜き出る】(動下一)[文]ぬきん・づ(下二) 他よりも特に優れる。ずばぬける。「―・でた才能」

ぬき-んで【抜き手】(名) 泳法の一。両手を交互に水上に抜き出し、水をかくようにして泳ぐ。

ぬき-んで【抜き出】(名) 他よりも特に優れていること。ずばぬけていること。「―の成績」

ぬき-ん-ば【抜き刃】(名) 鞘から抜いた刀。抜き身。

ぬき-ん-ば【抜き歯】(名) 抜いた歯。また、抜いた歯のように作った入れ歯。

ぬき-ん-ば【抜き羽】(名) 矢羽根の一。鷲の羽の左側を用いたもの。

ぬき-ん-ば【抜き場】(名) 相撲で、土俵際で相手を抜いて勝つ技。

ぬき-ん-ば【抜き場】(名) 劇場で、客席の後ろの通路。

ぬき-ん-ば【抜き場】(名) 能楽で、舞台

「石を―」❷たてつづけにものをすること。「いかにも―にふりつのることをまづ述べる。

さいかち-ぐり [栗] (名) 【植】(実は)栗の実の様の一種、四季常緑又は落葉の小喬木で、手たの様の葉を出し、春夏の交に穂状の花を開き、莢果を結ぶ。

さいかち-ごり [石伏] (名) 【魚】鯉科の淡水魚。

さいかち-ずみ (名) ❶さいかちの実。❷猪肌の皮のなめしたもの。「―のかわぶくろ」

さいかち-づく (自カ下一) 先端が曲がる。

さいかち-まめ [大角豆] (名) ❶【植】豆科に属する植物、蔓は左巻にして花は蝶形、花は紫色又は白色にして花柱は螺旋状をなす。莢(さや)は細長くして種を有す。❷「いんげんまめ」の一名。(唐語の訛音)

さいかち-もの [捧物] (名) 献上の品物。

さいかち-や [雑] (他) 「さいとこ」の訛。

さいかち-よもぎ [雑草] (名) さかんにはびこりやすい。

さいかち-ぐさ [雑草] (名) 【植】雑草(ざっそう)などに生ずる一種の草。

さいかち-は [雑談] (名) さわぎ。

さいかち-なみ [細波] (名) 細かくさう波。さざなみ。近江国の古歌「大津」に掛けうる語。

さいかち-の-は [雑葉] (名) 小竹の葉。

さいかち-の-ね [雑葉根] (名) 【植】「こうのはぜんそう」に同じ。

さいかち-の-み [雑実] (名) 竹の果実。ぜんそう。

さいかち-は [雑葉] (名) さゝの葉。

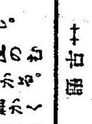
さいかち-はら [雑原] (名) 竹の生(は)えたる野。

さいかち-はり [雑] (名) さしもはりになるもの。又、ものを刺すこと。「―にさされたる様な」

さいかち-ぶし [雑節] (名) 【植】「ちがやの異称」秋なほ風にをなびく」

さいかち-ぶし-ぐり [伯労] (名) 【動】「もずの異称」

さいかち-リンダウ [雑竜胆] (名) 秘所の名。(龍胆(りんどう)の葉を竹の葉の如くなら)ざく上に三つの花をつけるもの。



源氏物々の秘所なり。

さいかち-る [刺] (自ラ四) つきたつ。

さいかれ [小石] (名) 「さいれいしの略言。

さいかれ-し [小石] (名) 小さき石。こいし。(細石(さゐれし)の転)「―の―のいはほとなりて苔のむすまで」

さいかれ-がは [小石川] (名) 小石の上を流る、小川。

さいかれ-さう [小石草] (名) 【植】茎の異称。

さいかれ-みづ [小石水] (名) 小石の上を流る、水。

さいかれ-ながし [涓滴] (名) さゝながさゝやかなる。

さいかん-くわ [山茶花] (名) 【植】山茶科に属する灌木、葉は小形にして厚く、冬は十月頃に紅白の花を開く、花はつばきに似て通常大形なり、観賞用として栽培し又(また)園手より油を絞る。(茶梨)

さいき-まんぢゅ (名) 竹筒のはしを斜にそぎたるもの中の米を噴すために込みて中の穀を少しく取り出だすに用ふ。

さいき-まめ [雑子] (名) 【植】酒又は醋(す)などの上に集まる小さき虫。(酢蝨)

さいし [紙] (名) 漉を編く網(す)のごと、縦の孔にさしとはして漉きあるもの。せにさし(漉手)」

さいし [差] (名) ❶ものさし。「曲―」「鯨―」「尺」❷物指。さすがた。おもてうら「曲尺」

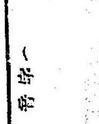
サイラー-サンボウ [断王樹] (名) 【植】「サボテン」の異称。(仙人掌)

さいさり-なみ [涓滴] (名) さゝなみ。

さいさり-んぎ (名) 【植】「あづさ」の異称。「秋なほ風にをなびく」

さいさりむし-どり [伯労] (名) 【動】「もずの異称。

さいさり-リンダウ [雑竜胆] (名) 秘所の名。(龍胆(りんどう)の葉を竹の葉の如くならべて上に三つの花をつけるもの。



源氏物々の秘所なり。

さいさ-る [刺] (自ラ四) つきたつ。

さいさん [小石] (名) 「さいれいしの略言。

さいし [小石] (名) 小さき石。こいし。(細石(さゐれし)の転)「―の―のいはほとなりて苔のむすまで」

さいし-がは [小石川] (名) 小石の上を流る、小川。

さいし-さう [小石草] (名) 【植】茎の異称。

さいし-みづ [小石水] (名) 小石の上を流る、水。

さいしゃ [斎王] (名) 天皇の御代理として伊勢神宮に奉仕せられた内親王。

さいしゃ [斎舎] (名) 斎王の住まわれた御殿。

さいしゃ [斎者] (名) 斎戒する人。

さくいん【索引】(名) 書物の中の語句や事項などを探しやすいように、一定の順序に並べて、その所在を示したもの。

さくいん【索引】(名) 索引目録(名)

さくいんもくろく【索引目録】(名) 索引(名)

さくいんをつける【索引を付ける】(句) 索引を作る。

さくいんをひく【索引を引く】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをふくむ【索引を含む】(句) 索引が付いている。

さくいんをふす【索引を付す】(句) 索引を作る。

さくいんをふる【索引を振る】(句) 索引を作る。

さくいんをほどこす【索引を施す】(句) 索引を作る。

さくいんをもうける【索引を設ける】(句) 索引を作る。

さくいんをもつ【索引を持つ】(句) 索引が付いている。

さくいんをよる【索引を寄る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を依る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を拠る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を由る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を縁る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を倚る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を憑る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を凭る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を靠る】(句) 索引を使って、必要な語句を探す。

さくいんをよる【索引を頼

ひらがな

ひらがな[名]漢字の一部分を省略して作った日本独自の文字。[反]漢字。

ひらき[名]開くこと。[例]門の—。

ひらく[動五]①閉じていたものを広げる。[例]本を—。②新しく始める。[例]店を—。③開通する。[例]道が—。④開ける。[例]窓を—。⑤開墾する。[例]荒地を—。⑥開花する。[例]桜が—。⑦開催する。[例]会を—。⑧開ける。[例]道が—。⑨開通する。[例]道が—。⑩開墾する。[例]荒地を—。⑪開花する。[例]桜が—。⑫開催する。[例]会を—。

ひらける[動下一]①開く。[例]道が—。②発展する。[例]文明が—。③開ける。[例]視界が—。④開墾される。[例]荒地が—。⑤開花する。[例]桜が—。⑥開催される。[例]会が—。

ひらたい[形]①平たい。[例]—皿。②平凡だ。[例]—話

さしひかえる　さしひく　さしまねく　さしみ　さしもの　さしゅ　さしゅう　さしょう　さしょく　さしわたし　さす　さすが　さすらい　さすらう　さする　させつ　させる　させん　さそい　さそう　さそく　さだか　さだまる　さだめる　さつ　さつい　さつえい　さつおん　さつがい　さつき　さっき　さっきょく　さっきょり　さっこん　さっし　さっしゃ　さっしゃりょく　さっしゅ　さっしょ　さっしょう　さっしょく　さっすい　さっする　さっそう　さっそく　さっそくじょう　さっそくとう　さっそくとうじょう　さったば　さったばこ　さったばこいれ　さったばこにれ　さったばこにれいれ　さったばこにれいれきせる　さったばこにれきせる　さったばこにれきせるいれ　さったばこにれきせるいれ　さったばこにれきせるいれ

ござる　動詞「ござる」の連体形。

ござる　動詞「ござる」の連用形。

ござる　動詞「ござる」の終止形。

ござる　動詞「ござる」の已然形。

ござる　動詞「ござる」の命令形。

ござる　動詞「ござる」の未然形。

ざつがく【雑学】(名)　雑誌の広告文などで見受ける雑学。

ざっかく【雑穀】(名)　米・麦・豆以外の穀物。

ざっかぐら【雑貨蔵】(名)　雑貨を入れておく蔵。

ざっかしょう【雑貨商】(名)　雑貨を売る商人。

ざっかてん【雑貨店】(名)　雑貨を売る店。

ざっかん【雑感】(名)　雑感を述べる。

ざっき【雑木】(名)　雑木の林。

ざっきばやし【雑木林】(名)　雑木林を切り開く。

ざっきょ【雑魚】(名)　雑魚の群れ。

ざっきょう【雑業】(名)　雑業に従事する。

ざっきょう【雑教】(名)　雑教を排斥する。

ざっきょう【雑鏡】(名)　雑鏡を見る。

ざっきん【雑巾】(名)　雑巾を絞る。

ざっきんがけ【雑巾掛け】(名)　雑巾掛けをする。

ざっきんしぼり【雑巾絞り】(名)　雑巾絞りをする。

ざっきんずし【雑巾ずし】(名)　雑巾ずしを食べる。

ざっきんで【雑巾で】(名)　雑巾でふく。

ざっきんばち【雑巾鉢】(名)　雑巾鉢を洗う。

ざっきんよせ【雑巾よせ】(名)　雑巾よせをする。

ざっく【雑区】(名)　雑区に住む。

ざっくばらん(形動)　雑駁な人柄。

ざっくり(副)　雑駁に話す。

ざっくりと(副)　雑駁に切る。

ざっくりばら(名)　雑駁な人。

ざっくりばらん(形動)　雑駁な話。

ざっくりばらんに(副)　雑駁に話す。

ざっくりばらんな(形動)　雑駁な人。

ざっくりばらんの(形動)　雑駁な話。

ざっくりばらんを(形動)　雑駁な人を。

ざっくりばらんが(形動)　雑駁な人が。

ざっくりばらんで(形動)　雑駁な人で。

ざっくりばらんだ(形動)　雑駁な人だ。

ざっくりばらんです(形動)　雑駁な人です。

ざっくりばらんでした(形動)　雑駁な人でした。

ざっくりばらんでない(形動)　雑駁な人でない。

ざっくりばらんでなかった(形動)　雑駁な人でなかった。

ざっくりばらんでありました(形動)　雑駁な人でありました。

ざっくりばらんでありません(形動)　雑駁な人でありません。

ざっくりばらんでありませんでした(形動)　雑駁な人でありませんでした。

ざっくりばらんでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょう。

ざっくりばらんでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうだ。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうです。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでない。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでなかった。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありました。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありません。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありませんでした。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょう。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうか。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうが。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうと。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうに。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうを。

ざっくりばらんでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうでありましょうで(形動)　雑駁な人でありましょうでありましょうでありましょう

手綱の末綱等、疎縒より麁由し麁製品を麁(ア)て令
地く荒り山すものゝあれば、「麁麻品より麁由すもの
のもあり、「麁麻紙」。 ——**せん**【麁麻下賤】(名)
家の柄成くしてさま下賤に似たる下賤。 ——**しょく**
ぶつ【麁麻織物】(名) 麁麻織品等より麁由すも
等、麁なて上品なり。 ——**おもう**【麁麻上布】(名) 麁麻を麁(ア)て内部に用ふる苧麻織の
上布。又、麁麻より麁由すも上布。 ——**おも**【麁麻
汁】(名) 「かこまめぬ」に同じ。 ——**すき**【麁麻
杉】(名) 【植】「やくすぎ」に同じ。 ——**びは**
【麁麻琵琶】(名) 琵琶の一種、其音響は大
の。 ——**ぶし**【麁麻節】(名) 麁麻より麁由すもの
節。 ——**ふき**【麁麻蕗】(名) 【植】蕗科に
属する大、葉深く、皆根四周に叢生し、春は
ほたに似て毛あり、ふきもどき。 ——**もめん**【麁麻
綿】(名) 麁麻織品等代川地方にて多く麁由すも綿糸
甘皮を綿糸が如く細長くして綿かしたるに始
まるといふ、岡部中上流に位して麁田綿に似る。 ——
りょうそく【麁麻領巾】(名) ❶麁布若くは麻
布、❷東京にて、麁地を以て造りたる下等の領巾。
ざつ-む【雑務】(名) いろ〳〵の雑事なる非務、かれ
これとりまぜたる麁務。
ざつもの【雑物】(名) ❶雑類のいろ〳〵ごちまぜ
たる物、❷雑茶なるもの。
†**ざつ-や**【猟矢】(名) 狩猟に用ふる矢、即ちまちゆ
みに装(つ)て矢(番矢、雑箭)。
†**ざつ-ゆみ**【猟弓】(名) 「まちゆみ」に同じ。
ざつ-りゃく【雑掠】(名) 下の人を強く殺すこと。
ざつ-わ【雑話】(名) さまざまの談話。よもやまの
はなし。

さて(副) (然而の略)それから、其通りで、そのまゝ
で、さうあつて、さればして、「四はさて四が、四はさては一
もあるぞなに」
さて【扨、偖】(接) 上の語を受けて新に下に移るとき
又は頭に局面をかへて論ずるときなどに用ふる
語。「之を合はて即ち可し」(和訳)
さて-で【又手】(名) 「さてあるの略言」。 ——**あみ**
【又手網】(名) 魚をすくひ取る
具、前方踏(ア)して手許頭(ア)まり、
網を張りて柄をつけたるもの。
くわあみ。すくひあみ。(小網、狭網)

[さてあみ]

(さて)い【査定】(名) 其事項をよく
とりしらべて決定すること。 ——**あん**【査定案】
(名) 厘案を査定して図案をつくり、これを討議に
附したもの。
(さとい)うけつ【左堤右挈】(名) ❶両手に物を
さげもつこと。❷左右よりたすくること、又耳にたす
けもつこと。
さて-おく【扨置】(他、カ四) 其儘にしおく
こと。すてゝおく。
さて-さて【扨扨】(感) 「さてさて」を重ねたる語。深く
感じたる時に発する語。「一をかしかりける女かな」(宇治)
(さと)つ【雑談】(名) ❶つまらぬ。❷まとまりの
ない話。
さて-は【扨】(接) およびとして。「山伏三人、一人
一人」
さて-も【扨】(感) さればこそ、それならば、「一人が山立は」
【扨】(感) 「さてさてに同じ。「一人の山立は」
【扨】(感) 「さてさてに同じ。「一美しき人

(さと)や【雑役】(名) 雑多の役務。
(さと)よう【雑用】(名) 雑多の用事。
さと-わ【雑話】(名) 「ざつわ」に同じ。

さとう【砂糖】(名) 甘蔗の汁を煮つめて製したる
甘味品。
さとう-きび【砂糖黍】(名) 【植】禾本科に属する
大、茎深緑色の花を開く、茎はいと
ほたに似て毛あり、ふきもどき。 ——**もめん**【砂糖
綿】(名) 麁麻織品等代川地方にて多く麁由すも綿糸
甘皮を綿糸が如く細長くして綿かしたるに始
まるといふ、岡部中上流に位して麁田綿に似る。 ——
りょうそく【砂糖領巾】(名) ❶麁布若くは麻
布、❷東京にて、麁地を以て造りたる下等の領巾。
ざつ-う【雑用】(名) 雑多の用事。
ざつ-ぐ【雑具】(名) 雑多の道具。
ざつ-こく【雑穀】(名) 米麦以外の穀物。
ざつ-ざつ【雑雑】(副) 雑多なるさま。
ざつ-し【雑誌】(名) 雑多の記事を掲載したる
書籍。
ざつ-しゅ【雑種】(名) 雑多の種類。
ざつ-しょく【雑色】(名) ❶雑多の色、❷雑多の
種類。
ざつ-ぜい【雑税】(名) 雑多の税。
ざつ-ぞう【雑草】(名) 雑多の草。
ざつ-ぞう【雑造】(名) 雑多の造作。
ざつ-ぞく【雑俗】(名) 雑多の俗。
ざつ-だん【雑談】(名) 雑多の談話。
ざつ-ちょう【雑帳】(名) 雑多の帳簿。
ざつ-ちょう【雑調】(名) 雑多の調。
ざつ-ちょう【雑徴】(名) 雑多の徴税。
ざつ-ちょう【雑腸】(名) 雑多の腸。
ざつ-ちょう【雑調】(名) 雑多の調。
ざつ-ちょう【雑徴】(名) 雑多の徴税。
ざつ-ちょう【雑腸】(名) 雑多の腸。

さとう【茶湯】(名) 茶の湯。
(さとう)ぎ【茶店】(名) 茶屋。
(さとう)みせ【茶店】(名) 茶屋。

さと【里】(名) ❶人の住(ス)む土地。❷古昔、都又は
城の下に包括せられたる人家五十戸ある地の称、
❸その中の一人。❹実又は養子の関係。
家に預(ア)かりはべりまするも。❺妓楼を出だして、子供を他
家に預(ア)けやるも。
さと【郷】(副) 「さと」に同じ。「一本お求むる」
さと-いぬ【里犬】(名) 人里に住(ス)む普通の犬、山
犬などの獣。
さと-いも【里芋】(名) 【植】天南星科に属する芋、
葉は大形にして長き葉柄を有し、四季花序は長き
仏炎状をなす、地下茎は塊状をなし葉柄と共に食用
に供せらる、子芋多くして親芋少し。
(さと)うた【差等】(名) 差等。
(さと)がしら【座頭】(名) ❶音曲、雑芸の首席者、座組
の一番上手にして口銭に至り断へ取り且つ座中を統(ス)
ぶる者、又は楽屋、席亭などを請ひ又は楽屋、
席亭などを統(ス)ぶる者。(俗称)——**くずれ**【座頭
崩】(名) 【仏】くずれの一種、髪は剃らず、頭部は稍や
高く、両鬢は三寸許に達す、我国にては紀
伊・土佐・肥前等の外に産ず。
さと-かぜ【里風】(名) 里にて風呂屋などに
行き許可。「初」。
さと-かた【里方】(名) 実又は養子若しくは奉公人
などの「よく里に行くこと。

さと-おくり【里送】(名) 娘人の嫁して後、始
て父母の家に至る儀式、婚礼後三日目に行ふを例と
す。さとがへり。(国語訳)
「里などの動」
さと-おとす【里落】(名) 人家疎なる所にある郷落。山
落。
さと-ご【里子】(名) さとにやりたる子、又さとに
引きうけたる子。
さと-ごころ【里心】(名) 奉公人などの自己の里
に帰りたくなる心。
さと-ことば【里言葉】(名) ❶遊里にて、特別に
つかふ言語。❷ひなかことば。いなかことば。
さと-ざくら【里桜】(名) 【植】桜の一種、花は山桜
より大形にして、雄蕊又は雌蕊なり。「託。
さとし【諭】(名) ❶さとすこと。訓論。❷おつげ。訓
さと-し【聡】(形シク) ❶才智多し、怜悧なり。
かしこし、さかし。❷さとるとし、とし。
さと-す【諭】(他、サ四) ❶言ひ聞かせて合得
せしむ、説きさかせてさとらしむ。❷をしへみちびく。
「り。

†**さと-ずみ**【里炭】(名) 里になるとその身な
他に「時、主上の御住居ありし御所の称。
さと-どころ【里所】(名) 現又は奉手などに、さとよ
りつまをめに来りたる人。
†**さとっ-こ**【里子】(名) 「さとこ」に同じ。
さと-どおり【里通】(名) さとなり。近所。
†**さと-とおがみ**【里流】(名) 里にやりたる子供が
其まゝ、其家の養子女になること。「(ナ)る。
さと-なる【里馴】(自、ラ下二) 里に馴
さと-なれ【里馴】(名) さとなること。
「里馴」(自) 「さとなる」の訛。
さと-ぬし【里主】(名) 「さとの主」に同じ。

†**さと-の-かど**【里門】(名) 古昔、さとの入り口に
ありし矮柴の木戸。(国語)
さと-の-むすめ【里之子】(名) 嫡妻王の従侍の
郷士にして正従八品の官なり、チルドンの上にして
郷方の次に位せしもの。さとむすめ。
さと-ばらい【里坊】(名) 人里に建(タ)ふる仏舎。
さと-はなれ【里離】(名) ❶人里を離れてあること。
又、其所。❷己が里を離れおること。
†**さとび-ことば**【里言葉】(名) ❶なまこと。
方言。❷いやしきことば。俚語。
さと-びと【里人】(名) ❶なかものゝくにもの。
❷同郷の人。
さと-びらき【里開】(名) さとがくり。(園芸)
†**さと-ぶせ**【里伏】(自、ハ四) 「伏(ス)」に同じ。
ひなぶせ。
さと-おち【里我持】(名) さとこの養育料。
さとり【悟覚】(名) ❶推究して知ること。察して知
ること。❷迷妄解けおりて智慧啓
発すること。❸かんがへること。「を開く」
の-みち【悟道】(名) 【仏】迷妄を脱して真如に
入る道、即ち仏祖の称。 ——**しょ**【悟書】(名) 悟道
のある僧。
さと-る【悟覚】(他、ラ四) ❶迷妄を排して
智慧をひらく、まよひをはりて理に通ずること。❷かんが
へて知ること。かくこと。
さと-る【悟覚】(他、ラ四) 推究して知る、察
して覚ること。かんがへつく。
†**さと-わ**【里山】(名) 里のある地。
さとわらべ【里童】(名) 里の童子。
さ-なか【最中】(名) さいちゅう。もなか。

さなぎ【蛹】(名) 蚕蛾、蝶、蛾等の幼虫が繭又は
土中にて変化して成虫となる前の状態。
さなぎ-だけ【蛹茸】(名) 【植】「まはかぐらの略言」。
さなぎ-まい【蛹舞】(名) 【植】「まはかぐらの略言」。
さなぎ-もち【蛹茸】(名) 【植】「まはかぐらの略言」。
さなぎ-ゆ【蛹湯】(名) 蚕蛾の繭を煮て糸を
取る湯。
さなぎ-ゆき【蛹雪】(名) 蚕蛾の繭の如く白き雪。
さなぎ-ゆり【蛹百合】(名) 【植】百合科に属する
多年草、茎は直立して高さ二尺許、葉は互生して
細長く、夏秋の交茎頂に白色の花を開く、花被
六片、雄蕊六、雌蕊一、蒴果卵形、種子は扁平
にして翼あり、鱗茎は食用に供す、ひめゆり。
さなぎ-わた【蛹綿】(名) 繭を煮て糸を取りたる
後の繭殻を引き伸ばしたる綿。
さなだ【真田】(名) ❶さなだひもの如き扁に編み
たるもの「組糸」「家業」。❷さなだひもの略
言。 ——**おり**【真田織】(名) 真田紐又は綿糸に
て真田紐の如きさまに織りたる織物。 ——**ひも**【真田紐】(名) 真田氏が刀の柄に用ふ。 ——**むし**【真田虫】(名) 【動】扁形類に属する蠕形動物、昇桃動物の
腸内に寄生し、扁平にして細長く、許多の節からなり、其形恰も真田紐に似たるより名づく、其一
節は一匹づゝの虫に相当す、(俗称)
さなえ【早苗】(名) 苗代より田へ移し植うる
頃の稲の苗(稚)。——**とり**【早苗取】(名) 【動】
「ほとゝぎす」の異称。
†**さなみ**【小波】(名) 「さゝなみ」に同じ。「かく
さくさなみの一にはりそて」
さなり【座敷】(名) 座敷。席次。
さなりおり【座敷】(名) ❶さゝなみ。座敷。
席のさま。❷まにあはせなはだり。「一の部たいよ。
さに-づら【丹】(枕) 「君」「妹」「少女」「紅葉」「色」
などに係るうたの詞。

さかな【魚】(名) 水中に住む脊椎動物の総称。

さかなや【魚屋】(名) 魚を売る店。また、その人。

さかば【酒場】(名) 酒を飲ませる店。

さかばしら【逆柱】(名) 木目が逆になっている柱。

さかばやし【酒林】(名) 杉の葉を球状に束ねて軒先につるした酒屋の看板。

さかびたし【酒浸し】(名) 酒に浸すこと。

さかぶね【酒船】(名) 酒を入れる船。

さかぶね【逆舟】(名) 逆風で進む舟。

さかぶね【逆船】(名) 逆風で進む船。

さかぶみ【逆踏み】(名) 逆に踏むこと。

さかべ【坂辺】(名) 坂のあたり。

さかほこ【逆鉾】(名) 逆さまに立てる鉾。

さかまく【逆巻く】(動カ五) 逆巻く。

さかまく【逆巻く】(動カ五) 逆巻く。

さかまた【逆股】(名) 逆に曲がった股。

さかまつ【逆松】(名) 逆さまに植えた松。

さかみち【坂道】(名) 坂になっている道。

さかみち【逆道】(名) 逆の道。

さかむかい【逆向かい】(名) 逆向き。

さかむき【逆向き】(名) 逆向き。

さかめ【逆目】(名) 逆目。

さかめ【逆目】(名) 逆目。

さかもぎ【逆茂木】(名) 逆茂木。

さかもぎ【逆茂木】(名) 逆茂木。

さかもと【酒元】(名) 酒の元。

さかもり【酒盛】(名) 酒盛り。

さかもり【酒盛】(名) 酒盛り。

さかや【酒屋】(名) 酒を売る店。

さかや【酒屋】(名) 酒を売る店。

さかやき【月代】(名) 月代。

さかやき【月代】(名) 月代。

さかやき【月代】(名) 月代

ざつぶん[雑文]（名）学術・小説などの外の文章。

ざつぶん-ぜい[雑税]（名）雑多な税金。

ざつぶん-だん[雑談]（名）「ざつだん」に同じ。

ざつぶん-ち[雑地]（名）一揆の領地の附属地。

ざつぶん-ちゃ[雑茶]（名）ばんちゃ。

ざつ-ブン[雑文]（名）数人で集まって作る句。（連歌）

ざつぶん-にん[雑人]（名）種々の人。

ざつぶん-びん[雑便]（名）中に種々の物を含みたる肥料。糞尿又は塵土などの類。

ざつぶん-ぴゃう[雑兵]（名）❶卑しき歩卒。はしたもの。❷理由なくして殺害の罪。

ざつぶん-ぼく[雑木]（名）ざつぼく。

ざつぶん-むき[雑務]（名）種々雑多の事務。ざつむ。

ざつぶん-もつ[雑物]（名）❶種々の混雑なる物。いろ〳〵のつまらぬ物。❷鳥の糞にて、皮又は田などを肥やすもの。

ざつぶん-やく[雑役]（名）❶雑用の役。❷種々の用に供ふる駄馬。

ざつぶん-やう[雑用]（名）❶種々入りまじりたる用事。いろ〳〵の雑多なる用事。❷種々の費用。いろ〳〵のつひえ。

サフラン[砂羅]（名）薬の香の名。ともいひ、又御香ともいふ。各種の如きも一種の香料。

ざぶとん[座布団]（名）坐するに敷く物。

ざぶ-ね[座船]（名）兎角の船などに折ちたる頭。

ざぶ-ぶね（仙・さ四）風にさらす。

サボテン[覇王樹]（名）【植】仙人掌科に属する植物。幹頭のものは、幹扁平にして緑色を呈し、花は夏時に開き、観賞用となし、又垣根にもする。「ナンヨウボチ」（仙人掌）

さ-ほど[左程]（名・副）それほど。さほどか。

さほ-ひめ[佐保姫]（名）春の神の称。佐保は大和国の地名にして、奈良の都より東に当れるよりいふ。「をさめ来るこ」

ざぼん[作注]（名）「さぼてん」に同じ。「例の一に」

ザボン[右論]（名）《スペイン語 Sabao》「シャボン」に同じ。

ザボン[朱欒]（名）【植】蜜柑の一種。果頭は大形にしてくわりんに似る。普通は偏かに酸味を帯ぶれど、四国又は九州に生ずるものは、固くして精（たう）く、黄色にして香気多く、甚だ美味なり。「香欒」「生欒」

さま[方]（名）其ありさま。かた。「隣一」「上一」「様」

さま[様]（名）ありさま。てい。いきかた。

—さま[様]（接尾）人の名の下に添へて敬意を表する語。「公方一」「御所一」「おまく一」「太郎一」

さ-まで[左程]（名）❶それまで。ひま。❷城の濠（ほり）などにある空地。「矢一」（慶応）

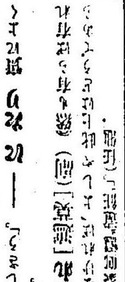
さまた-げ[妨]（名）❸「さまたげ」に同じ。「さまたげ」に同じ。「一を見る」

さまた-げる[妨]（他・が下二）❶その一しお餅に用ふる語。「其間」で今この一」「一を見る」

さまだ-かた[様形]（名）やうすがた。かたち。

さまだ-し[様子]（名）❶事情。わけ。❷容貌。❸ありさま。

さまだ-し[様子]（他・さ四）❶事情を探る。❷容貌を飾る



[ひょう]

ひょう【表】(名) 中央軍の左方にある軍。

ひょう【俵】(名) 藁(わら)を編んで作った袋。米・炭などを入れる。

ひょう【評】(名) 批評。

ひょう【票】(名) 投票用紙。

ひょう【標】(名) 目印。

ひょう【豹】(名) ネコ科の哺乳類。

ひょう【雹】(名) 雷雲から降る氷の粒。

ひょう【氷】(名) こおり。

ひょう【瓢】(名) ひさご。

ひょう【憑】(名) 神霊などが乗り移ること。

ひょう【兵】(名) 軍人。

ひょう【屏】(名) 屏風。

ひょう【漂】(名) 漂白。

ひょう【標】(名) 木の枝。

ひょう【病】(名) 病気。

ひょう【表】(名) 一覧表。

ひょう【費】(名) 費用。

ひょう【標】(名) 標識。

ひょう【評】(名) 評判。

ひょう【票】(名) 投票。

ひょう【標】(名) 目標。

ひょう【豹】(名) 豹柄。

ひょう【雹】(名) 雹害。

ひょう【氷】(名) 氷河。

ひょう【瓢】(名) 瓢箪。

ひょう【憑】(名) 憑依。

ひょう【兵】(名) 兵士。

ひょう【屏】(名) 屏風。

ひょう【漂】(名) 漂流。

ひょう【標】(名) 標本。

ひょう【病】(名) 病気。

ひょう【表】(名) 表紙

さらさら[更更](副) ❶きよらかに洗われた感じ。「—と洗う」❷物事のよどみなく運ぶさま。「—と筆を走らせる」

さらし-ぐち[晒口](名) 晒した布の端。

さらし-こ[晒粉](名) ❶水にさらして白くした米の粉。❷消石灰に塩素を吸収させて製した白色の粉末。一種の臭気を有し、木綿・麻布・紙類を漂白するに用いる。(晒白粉)

さらし-て[晒手](名) ❶晒した布。❷晒布を商う人。

さらし-もの[晒者](名) 昔、罪の刑に行はれた罰。人。

さらし-や[晒木綿](名) 晒した綿布。

さらし-や[晒屋](名) 布を晒す家。又は人。

さらし-ろ[晒](名) さらして白色にした布。

さらさ-えば[更科](名) 「さらさえば」の略言。

さらさえば[更科蕎麦](名) 信濃国更科郡より出だす蕎麦切。風味を名品とす。

サラ-あめ[沙糖飴](名)【植】龍舌蘭科に属する木。葉は長く厚くして光沢あり、花は四弁白色なり。シャラ。なつつばき。

さらし-こ[渡来](名) 六月頃に渡り来る渡り鳥。

さらし-す[晒](他サ四) ❶日光にあてて白くする。❷布・木綿・糸などを漂白剤に浸して白くする。

さらし-ぬの[晒布](名) ❶晒した布。❷麻・苧などの繊維を水に浸して日にあてて其色を白くしたる布。❸世人に示すために晒して「雪を—」❹さらしの刑に行ふ。

さらす[不手](副) 流れ去る様に。「かたみを—一緒になろう」

さらば[不然者](連) 「さもあらばの略。

サラ-えらめ[梁漏斛箱](名)【植】(「サラ」は梵語 sala 樹の名)「サラえらめ」に同じ。仏説に、牟尼世尊林に於て涅槃に入る、其棺木の四方に各二本の高樹あり、故に娑羅双樹と云ふ。其方のものを常と無常とに、西方のものを楽と無楽とに、北方のものを我と無我とに、東方のものを浄と不浄とに配当す。但し一は世れ一は成り、釈迦牟尼の涅槃に入りし日(ひ)は陰暦二月十五日にして、此時は相合して一樹となり、四枯(かれ)て枝葉は白色を呈して垂れ、恰も白鶴の群れ集まるに似たりと云ふ。「この花の色、蓋し娑羅の理をあらはしし」

さらら-あ[新地](名) 何も無き空地。手を入れぬ土地。「—に家を建つ」

さらら-う-くぶだけ(白カ四) さらら-う-く。

さらら-で[不然](連) そからでさにあらで。

さらら-なり[不然](副) そからなにに。

さらら-に[更](副) ❶一向に。すこしも。すこしたりとて。❷新たに。重ねて。——**めいはず** 勿論なり。いふまでもなし。

さらら-ば-かは[不然顔](名) 何事もそ顔つきをすること。

さらら-ば-たに(副) そやうにもちにさくさまざまに。

さりさ(接) 然ありとも。そうありとも。「一人にはあとも」

サリチル-さん[——酸＝Salicylic acid](名)【化】白色針状の結晶物。冷水に溶解し難けれど、熱湯又は「アルコホル」等には能く溶解す。防腐剤なり。又解熱薬・利尿薬として用ひらる。

さりーはおおう[作然](連) そかあるながらそうて はあるがそれかしなおう(雅然) 「木綿の合羽」

さりーば(名) 芝居にて「たて」の時に用ふる合物・鐘・鼓。

さりーふみ[去文](名) 「さりぶみ」(去状)に同じ。

さりーん[紗綸](名) 紗綾(ちりめん)の類の縮物。経糸(たていと)に絹糸、緯糸(よこいと)に綿糸を用ひたるもの。

さる[猿](名) ❶【動】哺乳類中猿猴類に属する獣。形狼人類に近く、体は直立し能く坐(ざ)り能く立ち、四肢皆な手の如く、各五本の指を具へ、尾は短く、面と脊とは共に赤く、頬(ほお)に食物を貯ふる袋あり、性怜悧狡猾にして、能く他の模倣をなす。我国各山に産すれど北海道には産せず。ましら。まさる。(雅語)(古語)❷成熟せざる小さきもの。又はよく模倣するものをののしりていふ語。「野郎め、—の様な奴だ」❸日の上又は下の縁に縦匿したる具。日を閉(とざ)すに、これを戸居又は板扉に挿(さ)して支(ささ)へとなすもの。〜——**めのかぶとおり** 猿は木に上下すること巧なれど、時には誤りて落つるが如く、其道にたけたるもの、時にはあやまりてまぐれにもあることもあるにたとふ。

さる[申](名) ❶十二支の一、第九位にあたるもの。❷時の名。昔時の夕の七つ、今の午後四時。❸方角の名。即ち西南西。

さ-る[去](自ラ四) ❶離れ行く、立ちのく、はなる。❷(ある時を)へだてる。とおざかる。「一年と十歩」❸(ある時を)へだてる。とおざかる。「一年と十歩」❸(ある時を)へだてる。とおざかる。「一年と十歩」❸(ある時を)へだてる。とおざかる。「一年と十歩」

さる-あめ[猿飴](名) 猿の形を作りたる飴。

さるい(名) 「さるいち」の略。

さるい-ち[猿市](名) 猿を売る市。

さるい-まわし[猿回](名) 猿に芸を教へて見せ物とする人。

さるお-がに[猿尾蟹](名) 【動】蟹の一種。

さるか[猿蚊](名) 【動】蚊の一種。猿は平地にして五方内外の猿猴を具し、上面は暗褐色にして下面は灰白色なり。果実は小形にして食用とし、又、柑橘を接ぐ砧に供せらる。さんかなりが。

さるか[猿蟹](名) 猿と蟹。

さるか-がっせん[猿蟹合戦](名) 猿と蟹との争闘を題材とせる昔話。

さるか-ばし[猿橋](名) 甲斐国大月駅の東方、桂川に架せる橋。

さるか-ばし[猿梯子](名) 猿の通ふ様な険しき梯子。

さるか-やま[猿蟹山](名) 猿蟹合戦の場所。

さるき[猿木](名) 猿の通ふ様な険しき木。

さるき-ばし[猿木橋](名) 猿木の如き橋。

さるき-みち[猿木道](名) 猿木の如き道。

さるぐつわ[猿轡](名) 猿の口に似せて作りたる轡。

さるこ[猿子](名) 猿の子。

さるこ-ばし[猿小橋](名) 猿の通ふ様な小橋。

さるこ-みち[猿小道](名) 猿の通ふ様な小道。

さるさ[猿酒](名) 猿が貯へ置くと伝へらるる酒。

さるさ-ばし[猿酒橋](名) 猿酒の如き橋。

さるさ-みち[猿酒道](名) 猿酒の如き道。

さるさわ[猿沢](名) 猿の多く住む沢。

さるさわ-いけ[猿沢池](名) 奈良興福寺の南にある池。

さるさわ-ばし[猿沢橋](名) 猿沢池の上にある橋。

さるさわ-みち[猿沢道](名) 猿沢の如き道。

さるし[猿師](名) 猿を捕ふる人。

さるし-ばし[猿師橋](名) 猿師の如き橋。

さるし-みち[猿師道](名) 猿師の如き道。

さるしま[猿島](名) 猿の多く住む島。

さるしま-ばし[猿島橋](名) 猿島の如き橋。

さるしま-みち[猿島道](名) 猿島の如き道。

さるしり[猿尻](名) 猿の尻。

さるしり-ばし[猿尻橋](名) 猿尻の如き橋。

さるしり-みち[猿尻道](名) 猿尻の如き道。

さるす[猿酢](名) 猿酒の如き酢。

さるす-ばし[猿酢橋](名) 猿酢の如き橋。

さるす-みち[猿酢道](名) 猿酢の如き道。

さるせ[猿瀬](名) 猿の多く住む瀬。

さるせ-ばし[猿瀬橋](名) 猿瀬の如き橋。

さるせ-みち[猿瀬道](名) 猿瀬の如き道。

さるた[猿田](名) 猿の多く住む田。

さるた-ばし[猿田橋](名) 猿田の如き橋。

さるた-みち[猿田道](名) 猿田の如き道。

さるたひこ[猿田彦](名) 【神】天孫降臨の時、天の八衢に出でて天孫を導きたる神。

さるたひこ-ばし[猿田彦橋](名) 猿田彦の如き橋。

さるたひこ-みち[猿田彦道](名) 猿田彦の如き道。

さるつき[猿月](名) 陰暦十月の異名。

さるつき-ばし[猿月橋](名) 猿月の如き橋。

さるつき-みち[猿月道](名) 猿月の如き道。

さるつち[猿土](名) 猿の多く住む土地。

さるつち-ばし[猿土橋](名) 猿土の如き橋。

さるつち-みち[猿土道](名) 猿土の如き道。

さるつる[猿鶴](名) 猿と鶴。

さるつる-ばし[猿鶴橋](名) 猿鶴の如き橋。

さるつる-みち[猿鶴道](名) 猿鶴の如き道。

さるて[猿手](名) 猿の手。

さるて-ばし[猿手橋](名) 猿手の如き橋。

さるて-みち[猿手道](名) 猿手の如き道。

さるとり[猿取](名) 猿を捕ふること。

さるとり-ばし[猿取橋](名) 猿取の如き橋。

さるとり-みち[猿取道](名) 猿取の如き道。

さるな[猿菜](名) 猿の食ふ菜。

さるな-ばし[猿菜橋](名) 猿菜の如き橋。

さるな-みち[猿菜道](名) 猿菜の如き道。

さるに[猿煮](名) 猿の肉を煮たる料理。

さるに-ばし[猿煮橋](名) 猿煮の如き橋。

さるに-みち[猿煮道](名) 猿煮の如き道。

さるぬ[猿縫](名) 猿の縫ふ様な細かき縫目。

さるぬ-ばし[猿縫橋](名) 猿縫の如き橋。

さるぬ-みち[猿縫道](名) 猿縫の如き道。

さるね[猿根](名) 猿の多く住む山。

さるね-ばし[猿根橋](名) 猿根の如き橋。

さるね-みち[猿根道](名) 猿根の如き道。

さるの[猿野](名) 猿の多く住む野。

さるの-ばし[猿野橋](名) 猿野の如き橋。

さるの-みち[猿野道](名) 猿野の如き道。

さるは[猿歯](名) 猿の歯。

さるは-ばし[猿歯橋](名) 猿歯の如き橋。

さるは-みち[猿歯道](名) 猿歯の如き道。

さるひ[猿火](名) 猿の多く住む火。

さるひ-ばし[猿火橋](名) 猿火の如き橋。

さるひ-みち[猿火道](名) 猿火の如き道。

さるひき[猿引](名) 猿を捕ふる人。

さるひき-ばし[猿引橋](名) 猿引の如き橋。

さるひき-みち[猿引道](名) 猿引の如き道。

さるひこ[猿彦](名) 猿の多く住む山。

さるひこ-ばし[猿彦橋](名) 猿彦の如き橋。

さるひこ-みち[猿彦道](名) 猿彦の如き道。

さるひと[猿人](名) 猿の多く住む人。

さるひと-ばし[猿人橋](名) 猿人の如き橋。

さるひと-みち[猿人道](名) 猿人の如き道。

さるひめ[猿姫](名) 猿の多く住む山。

さるひめ-ばし[猿姫橋](名) 猿姫の如き橋。

さるひめ-みち[猿姫道](名) 猿姫の如き道。

さるふね[猿船](名) 猿の多く住む船。

さるふね-ばし[猿船橋](名) 猿船の如き橋。

さるふね-みち[猿船道](名) 猿船の如き道。

さるぶね[猿舟](名) 猿船に同じ。

さるぶね-ばし[猿舟橋](名) 猿舟の如き橋。

さるぶね-みち[猿舟道](名) 猿舟の如き道。

さるへ[猿辺](名) 猿の多く住む辺。

さるへ-ばし[猿辺橋](名) 猿辺の如き橋。

さるへ-みち[猿辺道](名) 猿辺の如き道。

さるほ[猿穂](名) 猿の多く住む穂。

さるほ-ばし[猿穂橋](名) 猿穂の如き橋。

さるほ-みち[猿穂道](名) 猿穂の如き道。

さるま[猿麻](名) 猿の多く住む麻。

さるま-ばし[猿麻橋](名) 猿麻の如き橋。

さるま-みち[猿麻道](名) 猿麻の如き道。

ぬりえ [絵画] 輪郭線だけの絵に色を塗ること。また、その絵。

ぬりかべ [妖怪] 道を通せんぼする妖怪。

ぬりがみ [塗り紙] (名) 漆を塗った紙。

ぬりかわ [塗り革] (名) 漆を塗った革。

ぬりき [塗り木] (名) 漆を塗った木。

ぬりぐすり [塗り薬] (名) 皮膚に塗る薬。

ぬりこめる [塗り込める] (他下一) ①壁などを塗って、中に入れる。②閉じ込める。

ぬりこめる [塗り籠める] (他下一) 塗って閉じ込める。

ぬりしき [塗り敷き] (名) 塗った上に敷くこと。また、敷いたもの。

ぬりしょく [塗り色] (名) 塗った色。

ぬりたて [塗り立て] (名) 塗ったばかり。

ぬりたてる [塗り立てる] (他下一) 塗って仕上げる。

ぬりつぶす [塗り潰す] (他五) 塗って見えなくする。

ぬりつぼ [塗り壺] (名) 漆を塗った壺。

ぬりて [塗り手] (名) ①塗る人。②塗る道具。

ぬりなおす [塗り直す] (他五) 塗り直す。

ぬりばし [塗り箸] (名) 漆を塗った箸。

ぬりばち [塗り鉢] (名) 漆を塗った鉢。

ぬりばん [塗り盤] (名) 漆を塗った盤。

ぬりひばし [塗り火箸] (名) 漆を塗った火箸。

ぬりぶち [塗り縁] (名) 漆を塗った縁。

ぬりぼん [塗り盆] (名) 漆を塗った盆。

ぬりもの [塗り物] (名) 漆を塗った器物。

ぬりや [塗り屋] (名) 塗装業者。

ぬりわん [塗り椀] (名) 漆を塗った椀。

ぬる [塗る] (他五) ①物の表面に液体などをのばしつける。②化粧する。③(俗)だます。

ぬるい [温い] (形) 温度が低い。

ぬるい [緩い] (形) ①締まりがない。②厳しくない。

ぬるぬる (副) 滑らかで粘り気のあるさま。

ぬるまゆ [温湯] (名) ぬるい湯。

ぬるむ [温む] (自五) 温かくなる。

ぬるめる [温める] (他下一) 温かくする。

ぬれあう [濡れ合う] (自五) 互いに濡れる。

ぬれあと [濡れ跡] (名) 濡れた跡。

ぬれいろ [濡れ色] (名) 濡れたような色。

ぬれえん [濡れ縁] (名) 雨に濡れる縁側。

ぬれおち [濡れ落ち] (名) 雨に濡れて落ちること。

ぬれかみ [濡れ髪] (名) 濡れた髪。

ぬれぎぬ [濡れ衣] (名) 無実の罪。

ぬれごと [濡れ事] (名) 男女の情事。

ぬれしょうじ [濡れ障子] (名) 濡れた障子。

ぬれそぼつ [濡れそぼつ] (自五) びっしょり濡れる。

ぬれそぼる [濡れそぼる] (自五) びっしょり濡れる。

ぬれた [濡れた] (連体) 濡れている。

ぬれて [濡れ手] (名) 濡れた手。

ぬれてであわ [濡れ手で粟] (名) 苦労なしに利益を得ること。

ぬれば [濡れ羽] (名) 濡れたような黒い羽。

ぬれぶすま [濡れ衾] (名) 涙で濡れた夜具。

ぬれぼし [濡れ干し] (名) 濡れたものを干すこと。

ぬれもの [濡れ物] (名) 濡れた物。

ぬれる [濡れる] (自下一) ①水などがかかる。②(俗)色っぽい。

ぬわ [奴婆] (名) 女の召使い。

ね [音] (名) 五十音の第三段第五音。

ね [値] (名) 値段。

ね [根] (名) ①植物の地下部。②物事の基本。③(接尾)助数詞。

ね [寝] (名) 寝ること。

ね [嶺] (名) 山の頂上。

ね [峰] (名) 山の頂上。

ね [子] (名) 十二支の第一。

ね [ね] (終助) 念を押す。

ねあがり [値上がり] (名) 値段が上がること。

ねあげ [値上げ] (名) 値段を上げること。

ねあせ [寝汗] (名) 寝ている間にかく汗。

ねあたり [寝当たり] (名) 寝ている間に当たること。

ねあつ [寝圧] (名) 寝ている間の圧力。

ねあて [値当て] (名) 値段を当てること。

ねあて [寝当て] (名) 寝ている間に当てること。

ねあな [根穴] (名) 根の穴。

ねあぶら [寝油] (名) 寝る前につける油。

ねあらい [根洗い] (名) 根を洗うこと。

ねあらい [寝洗い] (名) 寝ている間に洗うこと。

ねあらし [寝荒らし] (名) 寝ている間に荒らすこと。

ねあらし [寝嵐] (名) 寝ている間に吹く風。

ねあらそい [根争い] (名) 根の争い。

ねあらそう [根争う] (自五) 根を争う。

ねあり [寝あり] (名) 寝ていること。

ねあり [根あり] (名) 根があること。

ねあり [値あり] (名) 値段があること。

ねあるき [寝歩き] (名) 寝ている間に歩くこと。

ねあわせ [寝合わせ] (名) 寝ている間に合わせること。

ねい [寝い] (名) 寝ること。

ねいき [寝息] (名) 寝ている間の呼吸。

ねいす [寝椅子] (名) 寝るための椅子。

ねいた [寝板] (名) 寝るための板。

ねいちばん [寝一番] (名) 寝ている間の一番。

ねいっぱい [寝いっぱい] (副) 寝ている間いっぱい。

ねいと [寝糸] (名) 寝るための糸。

ねいり [寝入り] (名) 寝入ること。

ねいりばな [寝入りばな] (名) 寝入ったばかり。

ねいる [寝入る] (自五) 寝入る。

ねいろ [音色] (名) 音の色。

ねうえ [根上] (名) 根の上。

ねうえ [寝上] (名) 寝ている上。

ねうし [子丑] (名) 子と丑。

ねうち [値打ち] (名) 値打ち。

ねうつ [寝打つ] (自五) 寝ている間に打つ。

ねうら [根裏] (名) 根の裏。

ねうら [寝裏] (名) 寝ている間の裏。

ねえ [ねえ] (感) 呼びかけ。

ねえさん [姉さん] (名) 姉。

ねおい [根追い] (名) 根を追うこと。

ねおき [寝起き] (名) 寝起き。

ねおくり [寝送り] (名) 寝ている間に送ること。

ねおくれ [寝遅れ] (名) 寝坊。

ねおし [寝押し] (名) 寝ている間に押すこと。

ねおち [寝落ち] (名) 寝ている間に落ちること。

ねおとし [寝落とし] (名) 寝ている間に落とすこと。

ねおび [寝帯] (名) 寝るときの帯。

ねおもい [寝思い] (名) 寝ている間の思い。

ねおもり [寝守り] (名) 寝ている間の守り。

ねおり [寝織り] (名) 寝ている間の織り。

ねおろし [寝下ろし] (名) 寝ている間に下ろすこと。

ねかい [寝かい] (名) 寝ること。

ねかえり [寝返り] (名) 寝返り。

ねかえる [寝返る] (自五) 寝返る。

ねかえる [根返る] (自五) 根が返る。

ねかえる [値返る] (自五) 値が返る。

ねかえる [値帰る] (自五) 値が帰る。

ねかえる [寝帰る] (自五) 寝ている間に帰る。

ねかえる [寝かえる] (自下一) 寝かせる。

ねかえる [寝かす] (他五) 寝かせる。

ねかす [寝かす] (他五) 寝かせる。

ねかた [寝方] (名) 寝方。

ねかた [根方] (名) 根の方。

ねかた [値方] (名) 値の方。

ねがい [願い] (名) 願い。

ねがいあげる [願い上げる] (他下一) 願い上げる。

ねがいあげる [願い挙げる] (他下一) 願い挙げる。

ねがいあげる [願い揚げる] (他下一) 願い揚げる。

ねがいあげる [願い出る] (他下一) 願い出る。

ねがいごと [願い事] (名) 願い事。

ねがいさげる [願い下げる] (他下一) 願い下げる。

ねがいでる [願い出る] (他下一) 願い出る。

ねがいでる [願い出る] (他下一) 願い出る。

ねがいでる [願い出る] (他下一) 願い出る

三角関数の性質の理解・関係を論ずる数学。三角形の辺の長さ・角の大きさなどの関係を扱う。

さんかくてん【三角点】(名) 三角測量の基準として設けた点。

さんかくとう【三角筋】(名) 肩の外側にある三角形の筋肉。

さんかくとう【三角州】(名) 河口に土砂が堆積してできた三角形の土地。デルタ。

さんかくなみ【三角波】(名) 風向きが急に変わって生じる、三角形の波。

さんかくにく【三角肉】(名) 牛肉の一部位。

さんかくひ【三角比】(名) 直角三角形の辺の長さの比。

さんかくぶき【三角武器】(名) 三角形の武器。

さんかくぼう【三角帽】(名) 三角形の帽子。

さんかくほう【三角法】(名) 三角関数を用いて図形の計量を行う方法。

さんかくめん【三角面】(名) 三角形の面。

さんかくやま【三角山】(名) 三角形の山。

さんかくりょう【三角陵】(名) 三角形の陵。

さんかくれい【三角錐】(名) 三角形を底面とする錐体。

さんかくれい【三角嶺】(名) 三角形の嶺。

さんかくろ【三角炉】(名) 三角形の炉。

さんかくわん【三角湾】(名) 三角形の湾。

さんかげき【参加劇】(名) 観客が参加する劇。

さんかしゃ【参加者】(名) 参加する人。

さんかする【参加する】(動サ変) 仲間に入る。加わる。

さんかつ【三割】(名) 十分の三。

さんかつ【参画】(名) 計画に参加すること。

さんかつする【参画する】(動サ変) 計画に参加する。

さんかつばい【三割配】(名) 三割の配当。

さんかつぶ【三割歩】(名) 三割の歩合。

さんかつぼう【三割棒】(名) 三割の棒。

さんかつぼうし【三割帽子】(名) 三割の帽子。

さんかつぼうしき【三割棒式】(名) 三割の棒式。

さんかつぼうしきの【三割棒式の】(連体) 三割の棒式の。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式のもの】(名) 三割の棒式のもの。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の物】(名) 三割の棒式の物。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の者】(名) 三割の棒式の者。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の人】(名) 三割の棒式の人。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の方】(名) 三割の棒式の方。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の所】(名) 三割の棒式の所。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の場】(名) 三割の棒式の場。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の時】(名) 三割の棒式の時。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の日】(名) 三割の棒式の日。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の月】(名) 三割の棒式の月。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の年】(名) 三割の棒式の年。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の世】(名) 三割の棒式の世。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の代】(名) 三割の棒式の代。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の国】(名) 三割の棒式の国。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の都】(名) 三割の棒式の都。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の町】(名) 三割の棒式の町。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の村】(名) 三割の棒式の村。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の家】(名) 三割の棒式の家。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の店】(名) 三割の棒式の店。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の会】(名) 三割の棒式の会。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の社】(名) 三割の棒式の社。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の学】(名) 三割の棒式の学。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の校】(名) 三割の棒式の校。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の寺】(名) 三割の棒式の寺。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の院】(名) 三割の棒式の院。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の庵】(名) 三割の棒式の庵。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の堂】(名) 三割の棒式の堂。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の殿】(名) 三割の棒式の殿。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の宮】(名) 三割の棒式の宮。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の神】(名) 三割の棒式の神。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の仏】(名) 三割の棒式の仏。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の法】(名) 三割の棒式の法。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の僧】(名) 三割の棒式の僧。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の尼】(名) 三割の棒式の尼。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の王】(名) 三割の棒式の王。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の帝】(名) 三割の棒式の帝。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の皇】(名) 三割の棒式の皇。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の后】(名) 三割の棒式の后。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の妃】(名) 三割の棒式の妃。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の姫】(名) 三割の棒式の姫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の子】(名) 三割の棒式の子。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の孫】(名) 三割の棒式の孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の曾孫】(名) 三割の棒式の曾孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の玄孫】(名) 三割の棒式の玄孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の来孫】(名) 三割の棒式の来孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の昆孫】(名) 三割の棒式の昆孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の仍孫】(名) 三割の棒式の仍孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の雲孫】(名) 三割の棒式の雲孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の耳孫】(名) 三割の棒式の耳孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の末孫】(名) 三割の棒式の末孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の裔孫】(名) 三割の棒式の裔孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の胤孫】(名) 三割の棒式の胤孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の嗣孫】(名) 三割の棒式の嗣孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の継孫】(名) 三割の棒式の継孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の養孫】(名) 三割の棒式の養孫。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の猶子】(名) 三割の棒式の猶子。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の甥】(名) 三割の棒式の甥。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の姪】(名) 三割の棒式の姪。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の従兄弟】(名) 三割の棒式の従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の従姉妹】(名) 三割の棒式の従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の再従兄弟】(名) 三割の棒式の再従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の再従姉妹】(名) 三割の棒式の再従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の三従兄弟】(名) 三割の棒式の三従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の三従姉妹】(名) 三割の棒式の三従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の四従兄弟】(名) 三割の棒式の四従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の四従姉妹】(名) 三割の棒式の四従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の五従兄弟】(名) 三割の棒式の五従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の五従姉妹】(名) 三割の棒式の五従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の六従兄弟】(名) 三割の棒式の六従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の六従姉妹】(名) 三割の棒式の六従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の七従兄弟】(名) 三割の棒式の七従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の七従姉妹】(名) 三割の棒式の七従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の八従兄弟】(名) 三割の棒式の八従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の八従姉妹】(名) 三割の棒式の八従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の九従兄弟】(名) 三割の棒式の九従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の九従姉妹】(名) 三割の棒式の九従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の十従兄弟】(名) 三割の棒式の十従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の十従姉妹】(名) 三割の棒式の十従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の百従兄弟】(名) 三割の棒式の百従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の百従姉妹】(名) 三割の棒式の百従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の千従兄弟】(名) 三割の棒式の千従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の千従姉妹】(名) 三割の棒式の千従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の万従兄弟】(名) 三割の棒式の万従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の万従姉妹】(名) 三割の棒式の万従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の億従兄弟】(名) 三割の棒式の億従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の億従姉妹】(名) 三割の棒式の億従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の兆従兄弟】(名) 三割の棒式の兆従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の兆従姉妹】(名) 三割の棒式の兆従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の京従兄弟】(名) 三割の棒式の京従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の京従姉妹】(名) 三割の棒式の京従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の垓従兄弟】(名) 三割の棒式の垓従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の垓従姉妹】(名) 三割の棒式の垓従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の秭従兄弟】(名) 三割の棒式の秭従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の秭従姉妹】(名) 三割の棒式の秭従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の穣従兄弟】(名) 三割の棒式の穣従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の穣従姉妹】(名) 三割の棒式の穣従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の溝従兄弟】(名) 三割の棒式の溝従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の溝従姉妹】(名) 三割の棒式の溝従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の澗従兄弟】(名) 三割の棒式の澗従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の澗従姉妹】(名) 三割の棒式の澗従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の正従兄弟】(名) 三割の棒式の正従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の正従姉妹】(名) 三割の棒式の正従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の載従兄弟】(名) 三割の棒式の載従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の載従姉妹】(名) 三割の棒式の載従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の極従兄弟】(名) 三割の棒式の極従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の極従姉妹】(名) 三割の棒式の極従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の恒従兄弟】(名) 三割の棒式の恒従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の恒従姉妹】(名) 三割の棒式の恒従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の清従兄弟】(名) 三割の棒式の清従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の清従姉妹】(名) 三割の棒式の清従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の浄従兄弟】(名) 三割の棒式の浄従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の浄従姉妹】(名) 三割の棒式の浄従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の阿従兄弟】(名) 三割の棒式の阿従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の阿従姉妹】(名) 三割の棒式の阿従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の僧従兄弟】(名) 三割の棒式の僧従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の僧従姉妹】(名) 三割の棒式の僧従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の祇従兄弟】(名) 三割の棒式の祇従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の祇従姉妹】(名) 三割の棒式の祇従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の劫従兄弟】(名) 三割の棒式の劫従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の劫従姉妹】(名) 三割の棒式の劫従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の那従兄弟】(名) 三割の棒式の那従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の那従姉妹】(名) 三割の棒式の那従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の由従兄弟】(名) 三割の棒式の由従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の由従姉妹】(名) 三割の棒式の由従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の他従兄弟】(名) 三割の棒式の他従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の他従姉妹】(名) 三割の棒式の他従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の不従兄弟】(名) 三割の棒式の不従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の不従姉妹】(名) 三割の棒式の不従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の可従兄弟】(名) 三割の棒式の可従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の可従姉妹】(名) 三割の棒式の可従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の思従兄弟】(名) 三割の棒式の思従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の思従姉妹】(名) 三割の棒式の思従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の議従兄弟】(名) 三割の棒式の議従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の議従姉妹】(名) 三割の棒式の議従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の量従兄弟】(名) 三割の棒式の量従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の量従姉妹】(名) 三割の棒式の量従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の知従兄弟】(名) 三割の棒式の知従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の知従姉妹】(名) 三割の棒式の知従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の無従兄弟】(名) 三割の棒式の無従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の無従姉妹】(名) 三割の棒式の無従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の辺従兄弟】(名) 三割の棒式の辺従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の辺従姉妹】(名) 三割の棒式の辺従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の際従兄弟】(名) 三割の棒式の際従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の際従姉妹】(名) 三割の棒式の際従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の限従兄弟】(名) 三割の棒式の限従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の限従姉妹】(名) 三割の棒式の限従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の極従兄弟】(名) 三割の棒式の極従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の極従姉妹】(名) 三割の棒式の極従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の窮従兄弟】(名) 三割の棒式の窮従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の窮従姉妹】(名) 三割の棒式の窮従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の尽従兄弟】(名) 三割の棒式の尽従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の尽従姉妹】(名) 三割の棒式の尽従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の終従兄弟】(名) 三割の棒式の終従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の終従姉妹】(名) 三割の棒式の終従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の始従兄弟】(名) 三割の棒式の始従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の始従姉妹】(名) 三割の棒式の始従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の初従兄弟】(名) 三割の棒式の初従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の初従姉妹】(名) 三割の棒式の初従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の元従兄弟】(名) 三割の棒式の元従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の元従姉妹】(名) 三割の棒式の元従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の本従兄弟】(名) 三割の棒式の本従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の本従姉妹】(名) 三割の棒式の本従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の末従兄弟】(名) 三割の棒式の末従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の末従姉妹】(名) 三割の棒式の末従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の枝従兄弟】(名) 三割の棒式の枝従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の枝従姉妹】(名) 三割の棒式の枝従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の葉従兄弟】(名) 三割の棒式の葉従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の葉従姉妹】(名) 三割の棒式の葉従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の花従兄弟】(名) 三割の棒式の花従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の花従姉妹】(名) 三割の棒式の花従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の実従兄弟】(名) 三割の棒式の実従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の実従姉妹】(名) 三割の棒式の実従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の種従兄弟】(名) 三割の棒式の種従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の種従姉妹】(名) 三割の棒式の種従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の根従兄弟】(名) 三割の棒式の根従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の根従姉妹】(名) 三割の棒式の根従姉妹。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の幹従兄弟】(名) 三割の棒式の幹従兄弟。

さんかつぼうしきのもの【三割棒式の幹従姉妹】(名) 三割の棒式の幹

かんごふ【看護婦】(名)［三］病人の看護をする女性。

かんこん【冠婚】(名)［三］成人の儀礼と婚礼。

かんこんそうさい【冠婚葬祭】(名)［三］成人の儀礼・婚礼・葬儀・祖先の祭礼など、一生の重要な儀式。

かんさい【関西】(名)［三］箱根の関所より西の地方。

かんさい【艦載】(名)［三］軍艦に兵器・飛行機などを積み載せること。

かんさつ【観察】(名)［三］物事をよく見て、その本質や変化などを知ること。

かんさつ【監察】(名)［三］官吏の職務の執行を監督すること。

かんさつ【鑑札】(名)［三］官庁が営業などを許可したしるしとして交付する札。

かんさつ【監査】(名)［三］監督し検査すること。

かんさつ【鑑察】(名)［三］よく見て判断す

ぬんぴ　[ぬんぴ]　(名)　[三]　[雑]　(名)　[三]　[雑]　(名)　[三]　[雑

おとなボキ—おとなボキ

おとなボキ【三十六歳】(名)【医】

おとなボキ【三十六歳】(名)【医】

おとなボキ【三十六歳】(名)【医】

ふねんせい【不燃性】(名) 燃えないこと。「—の建材」

ふねんだま【不燃弾】(名) 燃えない性質の爆弾。

ふねんとう【不燃糖】(名) 糖尿病患者などが摂取しても体内で燃焼しない糖類。

ふのう【不能】(名) 出来ないこと。「無—」

ふのう【不納】(名) 納めないこと。「滞納—」

ふのう【不能】(名) 能力がないこと。「運転—」

ふのうしょぶん【不能処分】(名) 法律行為をする能力のない者に対する処分。

ふのうりつ【不能率】(名) 能率が悪いこと。

ふのうりょく【不能力】(名) 能力がないこと。

ふのうりょくしゃ【不能力者】(名) 法律行為をする能力のない者。

ふのうりょくしゃしょぐう【不能力者処遇】(名) 不能力者に対する処遇。

ふのうりょくしゃせいど【不能力者制度】(名) 不能力者に関する制度。

ふのうりょくしゃとう【不能力者等】(名) 不能力者その他。

ふのうりょくしゃほご【不能力者保護】(名) 不能力者を保護すること。

ふのうりょくしゃほごせいど【不能力者保護制度】(名) 不能力者保護に関する制度。

ふのうりょくしゃほごほう【不能力者保護法】(名) 不能力者保護に関する法律。

ふのうりょくしゃほごほうあん【不能力者保護法案】(名) 不能力者保護法の案。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかい【不能力者保護法案委員会】(名) 不能力者保護法案を審議する委員会。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろく【不能力者保護法案委員会議事録】(名) 不能力者保護法案委員会の議事録。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょう【不能力者保護法案委員会議事録抄】(名) 不能力者保護法案委員会議事録の抄録。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほん【不能力者保護法案委員会議事録抄本】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄の写本。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつ【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすう【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数数数】(名) 不能力者保護法案委員会議事録抄本の冊数の数。

ふのうりょくしゃほごほうあんいいんかいぎじろくしょうほんさつすうかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかずかず【不能力者保護法案委員会議事録抄本冊数

ひんぱん【頻繁】(名)　頻度・回数などが非常に多いこと。「―な連絡」

ひんぴょう【品評】(名)　品物のよしあしを評価すること。「―会」

ひんぷ【貧富】(名)　貧しいことと富んでいること。「―の差」

ひんぷ【貧婦】(名)　貧しい女の人。

ひんぷく【品副】(名)　品詞の旧称。

ひんぷく【貧福】(名)　貧しいことと富んでいること。

ひんぷん【紛】(名)　細かくて多いもの。「―をまぶす」

ひんぺい【貧弊】(名)　貧しくて疲れていること。

ひんぺん【頻変】(名)　頻繁に変わること。

ひんぽう【貧乏】(名)　貧しいこと。「―暇なし」

ひんぽう【品方】(名)　品詞の旧称。

ひんぽう【貧法】(名)　貧民救済の法律。

ひんぽう【貧報】(名)　貧しいという知らせ。

ひんぽう【貧報】(名)　貧しいという報い。

ひんぽう【貧房】(名)　貧しい家。

ひんぽう【貧棒】(名)　貧しい人。

ひんぽう【貧暴】(名)　貧しくて乱暴なこと

さんぽ[名]〔三省堂〕「三歩」

さんぽ[名]〔三省堂〕「散歩」

さんぽ[名]〔三省堂〕「残骸」

さんぽ[名]〔三省堂〕「産婆」

さんぽ[名]〔三省堂〕「参謀」

さんぽ[名]〔三省堂〕「山腹」

さんぽ[名]〔三省堂〕「山峰」

さんぽ[名]〔三省堂〕「山麓」

さんぽ[名]〔三省堂〕「三方」

さんぽう[名]〔三省堂〕「三宝」

さんぽう[名]〔三省堂〕「山砲」

さんぽう[名]〔三省堂〕「山房」

さんぽう[名]〔三省堂〕「山宝」

さんぽう[名]〔三省堂〕「山法

（さんぶ）[三部]（名）四方にて、す・国・尺の称。
（さんぶ）[三部]（名）祖・神・国の称。
（さんぶ）[三部所]（名）東京・京都・大阪の称。「え。
（さんぶ）[参謀]（名）徳川時代に、江戸に駐劄せし
（さんぶ）[散布]（名）散り布くこと。散らし布くこと。
（さんぶ）[産婦]（名）子を孕（はら）みて、已に臨月となりたる婦人。子を産みたる婦人。うぶめ。
（さんぶ）[産婦]（名）おしたるもんな。
（さんぶ）[産婦]（名）嬰（ミドリ）を国（ミ）ち婦人。

（さんぶ）[讃歌]（名）キリスト教にて、神又は教主の徳を讃美する歌。
（さんぶ）[三神]（名）三人の能事家、即ち機関天鳥・神皇産霊・高皇産霊の称。「とと。
（さんぶ）[参神]（名）参詣の際にする礼拝。
（さんぶ）[参神指教]（名）参詣の際にする指教。
（さんぶ）[参神礼]（名）天皇に直属して、神の祀祭に参列し、国防及用兵に関する一切の計画を参与し、参謀本部を統督し、参謀将校、陸軍大学校其他軍大将又は公使館附武官等を統督する職名。陸軍大将又は中将を以てこれに充つ。「国防及用兵に関する命令を立案し、親裁を経（へ）てこれを陸軍大臣に移す。——ちょう[参謀長]（名）神
（さんぶ）[参神将校]（名）参謀将校を統督し、参謀に関する部務を総理する官。陸軍にては軍政・兵備・動員・編制・情報・地理・交通・測量・防衛・戦史・統帥・図書・諸学校・陸軍文庫・陸軍墓地・陸軍埋葬・陸軍病院・陸軍衛戍・陸軍監獄・陸軍倉庫・陸軍糧秣廠・陸軍被服廠・陸軍火薬庫・陸軍兵器廠・陸軍造兵廠・陸軍砲兵工廠・陸軍幼年学校・陸軍士官学校・陸軍戸山学校・陸軍騎兵実施学校・陸軍野戦砲兵射撃学校・陸軍工兵学校・陸軍輜重兵学校・陸軍測量学校・陸軍気球学校・陸軍飛行学校・陸軍経理学校・陸軍獣医学校・陸軍軍楽隊・陸軍教導団・陸軍憲兵学校

ぬんぷ 名 [南風] 南から吹く風。みなみかぜ。

ぬんぷ 名 [南部] 南の方の地域。

ぬんぷ 名 [南北] 南と北。

ぬんぷ 名 [南北朝] 日本の歴史で、一三三六年から一三九二年までの、吉野の南朝と京都の北朝とが対立していた時代。

ぬんぷ 名 [南北朝時代] 南北朝。

ぬんぷ 名 [南北朝時代] 南北朝。

ぬんぷ 名 [南北朝時代] 南北朝

よくう【翼宇】(名) 飛行機。

よくう【翼雨】(名) 風雨のように激しく飛ぶ矢。

よくう【翼雨】(名) 風雨のように激しく飛ぶ矢。

あらい【荒井】(名)　荒れ果てた井戸。

あらいあげ【洗い上げ】(名)　洗濯をすること。

あらいおとす【洗い落す】(他五)　洗って汚れなどを取り去る。

あらいおろし【洗い下し】(名)　洗濯したばかりの衣服。

あらいがえし【洗い返し】(名)　洗濯をやり直すこと。

あらいがき【洗い垣】(名)　竹を細かく編んだ垣。

あらいかた【洗い方】(名)　洗濯をすること。また、その人。

あらいかみ【洗い髪】(名)　洗ったままの髪。

あらいきよめる【洗い清める】(他下一)　洗って清くする。

あらいぐすり【洗い薬】(名)　洗って使う薬。

あらいぐま【洗い熊】(名)　アライグマ科の哺乳類。

あらいこ【洗い粉】(名)　洗濯に使う粉末。

あらいざらい【洗いざらい】(副)　すべて。残らず。

あらいざらし【洗いざらし】(名)　洗ってさらすこと。

あらいさる【洗い去る】(他五)　洗って取り去る。

あらいしお【洗い塩】(名)　洗って精製した塩。

あらいすすぐ【洗い濯ぐ】(他五)　洗って濯ぐ。

あらいそそぐ【洗い注ぐ】(他五)　洗って水を注ぐ。

あらいだし【洗い出し】(名)　洗って出すこと。

あらいだす【洗い出す】(他五)　洗って出す。

あらいたて【洗いたて】(名)　洗ったばかり。

あらいたてる【洗い立てる】(他下一)　洗いたてる。

あらいつける【洗い付ける】(他下一)　洗いつける。

あらいつぶす【洗い潰す】(他五)　洗って潰す。

あらいつぼ【洗い壺】(名)　洗濯に使う壺。

あらいつや【洗い艶】(名)　洗って出る艶。

あらいとおす【洗い通す】(他五)　洗い通す。

あらいとり【洗い取り】(名)　洗って取ること。

あらいとる【洗い取る】(他五)　洗って取る。

あらいなおす【洗い直す】(他五)　洗い直す。

あらいながす【洗い流す】(他五)　洗って流す。

あらいなし【洗い梨】(名)　洗って食べる梨。

あらいなす【洗い成す】(他五)　洗って仕上げる。

あらいにく【洗い肉】(名)　洗った肉。

あらいぬき【洗い抜き】(名)　洗って抜くこと。

あらいぬく【洗い抜く】(他五)　洗って抜く。

あらいのこす【洗い残す】(他五)　洗い残す。

あらいはく【洗い白く】(副)　洗って白く。

あらいはじめる【洗い始める】(他下一)　洗い始める。

あらいはり【洗い張り】(名)　洗って張ること。

あらいはる【洗い張る】(他五)　洗って張る。

あらいひたし【洗い浸し】(名)　洗って浸すこと。

あらいひたす【洗い浸す】(他五)　洗って浸す。

あらいひやす【洗い冷す】(他五)　洗って冷やす。

あらいふく【洗い服】(名)　洗える服。

あらいふるす【洗い古す】(他五)　洗って古くする。

あらいぼし【洗い干し】(名)　洗って干すこと。

あらいほす【洗い干す】(他五)　洗って干す。

あらいまぜる【洗い交ぜる】(他下一)　洗い交ぜる。

あらいまわす【洗い回す】(他五)　洗い回す。

あらいみず【洗い水】(名)　洗った水。

あらいもの【洗い物】(名)　洗う物。洗った物。

あらいやすい【洗い易い】(形)　洗いやすい。

あらいやすめる【洗い休める】(他下一)　洗い休める。

あらいよう【洗い様】(名)　洗い方。

あらいよせる【洗い寄せる】(他下一)　洗い寄せる。

あらいわける【洗い分ける】(他下一)　洗い分ける。

あらう【洗う】(他五)　水で汚れを落とす。

あらう【荒う】(他五)　荒くする。

あらうま【荒馬】(名)　荒い馬。

あらうみ【荒海】(名)　荒い海。

あらえびす【荒夷】(名)　荒い夷。

あらおとこ【荒男】(名)　荒い男。

あらおり【荒織り】(名)　荒く織ること。

あらかい【荒飼い】(名)　荒く飼うこと。

あらかう【荒飼う】(他五)　荒く飼う。

あらかき【荒垣】(名)　荒い垣。

あらかじめ【予め】(副)　前もって。

あらかた【荒方】(副)　大体。

あらかべ【荒壁】(名)　荒い壁。

あらかみ【荒神】(名)　荒い神。

あらかわ【荒川】(名)　荒い川。

あらき【荒木】(名)　荒い木。

あらきだ【荒木田】(名)　荒い木田。

あらくさ【荒草】(名)　荒い草。

あらくち【荒口】(名)　荒い口。

あらくま【荒熊】(名)　荒い熊。

あらくも【荒雲】(名)　荒い雲。

あらくれ【荒くれ】(名)　荒くれること。

あらくれる【荒くれる】(自下一)　荒くれる。

あらけずり【荒削り】(名)　荒く削ること。

あらけずる【荒削る】(他五)　荒く削る。

あらこ【荒子】(名)　荒い子。

あらごえ【荒肥】(名)　荒い肥。

あらごし【荒漉し】(名)　荒く漉すこと。

あらごなし【荒ごなし】(名)　荒くごなすこと。

あらごなす【荒ごなす】(他五)　荒くごなす。

あらごなれ【荒ごなれ】(名)　荒くごなれること。

あらごなれる【荒ごなれる】(自下一)　荒くごなれる。

あらごめ【荒米】(名)　荒い米。

あらごめかす【荒米かす】(他五)　荒く米かす。

あらごめかせる【荒米かせる】(他下一)　荒く米かせる。

あらごめかせる【荒米かせる】(他下一)　荒く米かせる

あいうえお【青魚】(名)　背が青く腹が銀白色の魚の総称。いわし・さば・さんま・ぶり・かつおなど。

あおうま【青馬】(名)　毛色が青毛の馬。

あおうみがめ【青海亀】(名)　甲羅が青黒色のウミガメ。

あおうめ【青梅】(名)　青い梅の実。

あおおに【青鬼】(名)　青色の鬼。

あおかび【青黴】(名)　青緑色のかび。

あおがや【青茅】(名)　青い茅。

あおき【青木】(名)　山野に自生する常緑低木。

あおぎり【青桐】(名)　アオギリ科の落葉高木。

あおくさい【青臭い】(形)　①青草のにおいがする。②未熟である。

あおぐろい【青黒い】(形)　青みがかった黒色である。

あおげば【仰げば】(連語)　仰ぐと。

あおさ【青海苔】(名)　緑藻類アオサ科の海藻。

あおざかな【青魚】(名)　青魚の項参照。

あおざめる【青ざめる】(動)　顔色が青くなる。

あおじゃしん【青写真】(名)　①青地に白く陰画を写す写真。②将来の計画。

あおしんごう【青信号】(名)　青色の信号。

あおすじ【青筋】(名)　青く浮き出た血管。

あおぞら【青空】(名)　青く晴れた空。

あおだいしょう【青大将】(名)　ナミヘビ科の大形の蛇。

あおだち【青立ち】(名)　穀物が実らないで青いまま立っていること。

あおだに【青谷】(名)　青葉の茂った谷。

あおたん【青痰】(名)　青色の痰。

あおちゃ【青茶】(名)　緑茶。

あおっぱな【青っ洟】(名)　青色の鼻汁。

あおてんじょう【青天井】(名)　①青く晴れた空。②相場に上限のないこと。

あおとうがらし【青唐辛子】(名)　青い唐辛子。

あおどうがらし【青唐辛子】(名)　青唐辛子の項参照。

あおどうふ【青豆腐】(名)　①青黒い豆腐。②こんにゃくの異名。

あおどし【青年】(名)　青年の項参照。

あおな【青菜】(名)　青い葉菜。

あおにさい【青二才】(名)　青年の項参照。

あおにび【青鈍】(名)　青みがかった鈍い色。

あおのり【青海苔】(名)　青海苔の項参照。

あおばえ【青蠅】(名)　青色のハエ。

あおばな【青洟】(名)　青色の鼻汁。

あおばな【青鼻】(名)　青洟の異名。

あおばん【青番】(名)　青色の番号札。

あおびかり【青光り】(名)　青く光ること。

あおびょうたん【青瓢箪】(名)　青い瓢箪。

あおぶくれ【青膨れ】(名)　青く膨れること。

あおぶち【青斑】(名)　青色の斑点。

あおぶどう【青葡萄】(名)　青い葡萄。

あおぶな【青鮒】(名)　青色のフナ。

あおべか【青べか】(名)　青く塗ったべか。

あおぼし【青星】(名)　青く輝く星。

あおまめ【青豆】(名)　青い豆。

あおみ【青味】(名)　青みがかった色。

あおみがかる【青味がかる】(動)　青味がかった色になる。

あおみどろ【青味泥】(名)　青色の泥。

あおむく【仰向く】(動)　上を向く。

あおむけ【仰向け】(名)　仰向くこと。

あおむし【青虫】(名)　青色の虫。

あおもの【青物】(名)　①青い物。②野菜。

あおやぎ【青柳】(名)　青い柳。

あおやぎ【青柳】(名)　青柳の項参照。

あおやぎ【青柳】(名)　青柳の項参照。

あおやぎ【青柳】(名)　青柳の項参照

あいうくわ-へいげつ【盆花開月】(名) ㊀其美稱。にうたれて、花ためにはぎひ月ためにかくるゝ。(轉)婦人の寧節の極めて艶麗なるにいふ語。

あいう-ぐん【州郡】(名) 州と郡と。又、地方。

あいう-けい【周經】(名) きはり。周圍。

あいう-けい【秋景】(名) 秋のけしき。

あいう-げう【秋曉】(名) 秋のよあけ。

あいう-げつ【秀傑】(名) 衆人にすぐれ出でたること。

あいう-げつ【秋月】(名) 秋の夜の月。〔又、其人。

あいう-げふ【就業】(名) 業務につくこと。わざにとりかゝること。

あいう-げふ【修業】(名) 或學術又は技藝等をさめならふこと。——**あいようしょ**【修業證書】(名) 學校より其生徒に與ふる修業の證明書。

あいう-げふ【醞業】(名) かにくき生業。ももに醫業などの稱。——**ふ**【醞業婦】(名) ずごく。醫業婦。

あいう-けん【州縣】(名) 州と縣と。轉じて、地方。

あいう-げん【祝言】(名) ㊀祝賀の言。めでたき。㊁よめいり。婚禮。

あいう-ご【醞語】(名) 恥づべきことば。聞きにくきことば。

あいう-ごく【收獄】(名) 捕へて獄につなぐこと。

あいう-ごく【囚獄】(名) ひとや。牢獄。〔囚屋〕。——**し**【囚獄司】(名) 昔時、刑部省に屬せしつかさ、囚獄一切の事を掌りしもの。

あいう-さい【周歲】(名) まる一年。周年。

あいう-さい【秀才】(名) ㊀才學の秀でたる人。㊁支那にて、科擧の試驗に放第せしもの、稱。㊂文章科業生。

あいう-さい【秋霜】(名) ㊀秋季にふる霜。㊁刑罰の嚴なるとの比喩。又は施威のきびしかなるにいふ語。「一の威」——**れつ**【秋霜烈日】(名) 前條(二)に同じ。

あいう-さう【修造】(名) 修理と造作。

あいう-ざう【收藏】(名) ㊀秋に耕作物をとりこみて、冬にこれをたくはへをさむること。㊁をさむること。ふところ。ぬひ。

あいう-さく【繅錯】(名) 色絲をまぜいろどりて縫ひよすること。(狹義)。

あいう-さふ【周匝】(名) ㊀めぐり。まはり。㊁行きわたりてあること。あまねきこと。(狹義)。

あいう-さん【礞酸】(名)【化】無色柱狀の結晶をなせる有毒の二鹽基酸、廣く植物の液汁に存す、鉛層を寄性「アルカリ」に混じ、熱して礞酸「アルカリ」を製し、強硫酸と共に熱すれば、無水炭酸と酸化炭素とに分解す。

あいう-さん【聚散】(名) あつまるとちること。あつまるとちらうと。「一定なし。

あいう-し【祝詞】(名) 祝賀をのぶることば。賀詞。「一頂。(編史)。

あいう-し【修辭】(名) 歷史を編修すること。「一局」。

あいう-し【修辭】(名) ことばを潤色して、のべかたること。——**がく**「修辭學」(名) 修辭に關する法則を研究する科學。美辭學。——**はふ**【修辭法】(名) 前條(二)に同じ。

あいう-しう【秋收】(名) 秋の農事のとりいれ。

あいう-しう【啾啾】(名、副) さく〳〵。小聲にて泣くさまにいふ語。「鬼哭—」「蟲語—」。

あいう-しう【週日】(名) 一週間の日即ち七日。

あいう-しう【秋日】(名) あきのひ。秋陽。

あいう-しう【秋日】(名) やはらかなるたち。

あいう-しふ【蒐集】(名) よせあつむること。あつめよすること。

あいう-しふ【修習】(名) をさめならふこと。

あいう-しふ【收拾】(名) ㊀ひろひあつむること。㊁とゝのへ用意すること。「祭。

あいう-しゃ【秋社】(名) ㊀秋の社日。㊁秋の穡守。

あいう-しゃ【舟車】(名) ふねとくるまと。「一の利」。

あいう-しゃう【愁傷】(名) ㊀うれひかなしむこと。㊁いたはしきこと。きのどくなること。

あいう-しゃう【周章】(名) うろたへさわぐこと。あわつること。「一狼狽」。

あいう-しゃう【細匠】(名) ぬひはくの職人。

あいう-しゃう【醞狀】(名) みにくきありさま。けがらはしきやうす。

あいう-しゃく【柔弱】(名) 精神の威力弱くして事に堪へざること。身體の精力弱くして勢に堪へざること。よわきこと。

あいう-しゅ【袖手】(名) ㊀手を袖にさし入れてあること。ぬきそで。㊁自ら手を下して事を爲さゞること。「—して傍觀す」。

あいう-しゅ【收取】(名) をさめとること。「め」。

あいう-しゅ【收受】(名) をさめうくること。うけとること。

あいう-しゅう【醞聲】(名) 不名譽の風評。恥づべきうわさ。

あいう-しゅう【秋晴】(名) 秋の快晴。「はれ。

あいう-しゅう【秋霖】(名) 秋のながあめ。

あいう-しゅう【修整】(名) とゝのへなほすこと。「寫眞の—」。

あいう-しゅう【秋風】(名) 秋の風氣。

あいう-しゅう【修正】(名) 宣しからざる箇處をなほして正しくすること。なほし。「地價—」。——**あん**【修正案】(名) 原案を修正して出す案。——**ち**【修正地價】(名) 地價を修正したる場合に、其修正したる額の地價。

あいう-しゅう【收稅】(名) 租稅を徵收すること。

あいう-しゅう【收稅吏】(名) 收稅の事を取扱ふ官吏。

あいう-しゅう【獸性】(名) ㊀けもの、性質。㊁一の動物として人類の有する性質、即ち肉體上の性質。

あいう-しゅう【囚人】(名) 囚人の人別。

あいう-しゅう【獸心】(名) 獸類の如き心、即ち、殘酷又は道理に暗しくは不道理の心。

あいう-しゅう【獸炭】(名)【化】「ハロゲン」(Bromine)(名)【化】「ハロゲン」(Bromine)(名) 臭氣を有する赤褐色の一液體にして、元素の一なり。

あいう-そ【愁訴】(名) 憂苦をうったふること。

あいう-そ【愁訴】(名) 憂苦をうったふること。

あいう-そ【臭素】(名)【化】「ブロミン」(Bromine)(名)【化】「ブロミン」(Bromine)(名) 臭氣を有する赤褐色の一液體にして、元素の一なり。

あいう-そく【州俗】(名) 一國の風俗。

あいう-ぞく【醞俗】(名) みにくき風俗。

あいう-ぞく【醞賊】(名) みにくき體裁、醞態。

あいう-たい【周到】(名) あまねく行きわたること。ぬけめなく行きとゞくこと。綿密、緻密。

あいう-だう【修道】(名) をしへの道ををさむること。——**いん**【修道院】(名) 天主教などの寺院の稱。

あいう-だん【柔道】(名)「おうまゆつ」柔術に同じ。

あいう-だん【愁歎場】(名) 芝居にて、愁歎の仕打ある場合の稱。

あいう-たん【獸炭】(名)【化】「こったん」骨炭に同じ。

あいう-ち【仕打】(名) 仕方。擧動。

あいう-ち【周知】(名) あまねく知ること。

あいう-ち【痩地】(名) 耕作に適せざる土地。やせち。はりふと。はげち。

あいう-ち【治珊】(名) とゝのへをさむること。「千年—」。

あいう-ちく【修竹】(名) 丈夫く長く生長したる竹。

あいう-ちく【修築】(名) をさめ築くこと。

あいう-ちゃう【酋長】(名) 蠻族の長。えびすのをさ。をさ。かしら。「あること。

あいう-ちゃう【修繕】(名) ふるひをつくろふこと。

あいう-ちゃう【愁腸】(名) ぬひあるとばり。

あいう-ちゃう【細帳】(名) よろこび思ふこと。いはひ。

あいう-ちゃく【祝着】(名) そのなか。「ふと。

あいう-ちゅう【袖中】(名) みにくき婦人。醞婦。

あいう-ぢょ【醞女】(名) 寶物の小形にして、袖又は袂(タモト)の中に入れて携(サ)ふるゝほどなるもの。

あいう-ちん【袖珍】(名) 寶物の小形にして、袖又は袂(タモト)の中に入れて携(サ)ふるゝほどなるもの。

あらた（形）[新]（ナリ）　**あらた**（名）[新]　**あらた**（名）[新]　**あらた**（名）[新]

あおい【仰】〔接尾〕〔動詞の連用形に付いて〕…する。…なさる。「言ひ—・ぐ」

あおい【葵】〔名〕❶〔植〕アオイ科の多年草。春、茎頂に淡紅色の花を開く。❷徳川氏の紋所。

あおい【青い】〔形〕❶青色である。「—・空」❷顔色が悪い。「—・顔」❸未熟である。「—・考え」

あおい【蒼い】〔形〕❶青みを帯びている。「—・海」❷顔色が悪い。「—・顔」

あおい【碧い】〔形〕青みを帯びている。「—・瞳」

あおい【藍い】〔形〕濃い青色である。

あおい【煽い】〔動ワ五〕あおぐ。「団扇で—・ぐ」

あおいきん【青黴菌】〔名〕青カビの一種。ペニシリンを産生する。

あおいし【青石】〔名〕❶緑泥石・緑簾石などを含む緑色の石。❷青色の石。

あおいそ【青磯】〔名〕〔植〕緑藻類アオサ科の海藻。

あおいと【青糸】〔名〕青色の糸。

あおいとり【青鳥】〔名〕❶青い鳥。❷幸福の象徴。

あおいな【青菜】〔名〕青い葉菜。

あおいのうえ【葵の上】〔人名〕源氏物語の登場人物。左大臣の娘で、光源氏の正妻。

あおいのうえ【葵の上】〔作品名〕謡曲。五番目物。

あおいのまつり【葵の祭】〔名〕賀茂神社の祭礼。陰暦四月の中の酉の日に行われる。

あおいはな【葵花】〔名〕葵の花。

あおいはな【青い花】〔名〕青い花。

あおいはな【青い鼻】〔名〕❶青く見える鼻。❷鼻汁。

あおいはな【青い華】〔名〕青い花。

あおいはな【青い端】〔名〕❶青い端。❷青い端の着物

ぎょうにん　ぎょうにんざいく　きょうかい　きょうかいれんごう　きょうかん　きょうかんしょく　きょうぎ　きょうぎかい　きょうぎょう　きょうぐう　きょうくん　きょうこう　きょうこうしょく　きょうこうせい　きょうこうぜい　きょうこうだん　きょうこうてき　きょうこうほう　きょうこうりょう　きょうさい　きょうさいかい　きょうさく　きょうさんしゅぎ　きょうさんしゅぎしゃ　きょうさんとう　きょうし　きょうしつ　きょうしゃ　きょうしゅ　きょうしゅう　きょうしゅく　きょうしゅつ　きょうしょう　きょうしょく　きょうじる　きょうしん　きょうしんざい　きょうしんしょう　きょうしんりょく　きょうせい　きょうせいしょぶん　きょうせき　きょうそう　きょうそうきょく　きょうそうしゃ　きょうそうしょく　きょうそうしん　きょうそうせい　きょうそうりょく　きょうそん　きょうだい　きょうだん　きょうちょう　きょうつう　きょうてい　きょうど　きょうどう　きょうどうくみあい　きょうどうせいかつ　きょうどうたい　きょうどうぼきん　きょうはく　きょうはくざい　きょうはくじょう　きょうはくしょく　きょうはくてき　きょうはくりょく　きょうばし　きょうばん　きょうふ　きょうふう　きょうふく　きょうふしん　きょうぶん　きょうべん　きょうぼう　きょうぼうしゃ　きょうぼうしん　きょうぼうせい　きょうぼうてき　きょうぼく　きょうみ　きょうみぶかい　きょうみぶかげ　きょうみぶかそう　きょうみぶかに　きょうみぶかまる　きょうみぶかまれる　きょうみぶかめる　きょうみぶかめろ　きょうみぶかめん　きょうみぶかもう　きょうみぶかもく　きょうみぶかもの　きょうみぶかもり　きょうみぶかもん　きょうみぶかもんく　きょうみぶかもんくい　きょうみぶかもんくいん　きょうみぶかもんくいんかい　きょうみぶかもんくいんかいぎ　きょうみぶかもんくいんかいぎじょう　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかい　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかん　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょく　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほう　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつ　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあん　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんか　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかい　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかいいん　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかいいんかい　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかいいんかいぎ　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかいいんかいぎじょう　きょうみぶかもんくいんかいぎじょうかいかんしょくほうりつあんぶんかい

あしか【足掛】(名) ❶自分の徳分をこえた

あしかけ【足掛】(名) 江戸時代、江戸と地方とを往来する船。

あしかけ【足掛】(名) ❶足をかけること。また、その場所。❷足をかけて相手を倒すこと。❸物事の手がかり。❹(数詞の下に付いて)…にわたること。

あしがき【足掻き】(名) ❶馬が足を動かすこと。また、その足並み。❷もがくこと。あがき。

あしがき【足書き】(名) 本文の下に書き添えること。また、その書き添えたもの。

あしがき【葦垣】(名) 葦を編んで作った垣。

あしがき【脚絆】(名) 旅行や労働のとき、すねを保護するために巻くもの。

あしがた【足形】(名) ❶足の形。❷足跡。

あしがた【葦形】(名) 葦の葉の形。

あしがため【足固め】(名) ❶足腰を丈夫にすること。❷(「足固めの式」の略)昔、宮中で、正月三日に行われた宴会。

あしがら【足枷】(名) ❶罪人の足にはめる刑具。❷自由を束縛するもの。

あしがる【足軽】(名) ❶身軽で、すばやく走ること。また、その人。❷江戸時代、下級の武士。

あしがるがい【足軽貝】(名) 巻き貝の一種。

あしがるたい【足軽隊】(名) 足軽で編成された軍隊。

あしがるばし【足軽橋】(名) 一人が渡れるくらいの狭い橋。

あしがろう【足軽牢】(名) 江戸時代、軽い罪の者を入れた牢。

あしき【悪しき】(連体) 悪い。

あしき【悪しき】(形シク) 悪い。

あしきがわ【悪しき川】(名) 悪い流れの川。

あしきこと【悪しき事】(名) 悪いこと。

あしきこと【悪しき言】(名) 悪口

あきない【商い】(名) 商売。「―が繁盛する」

あきないがら【商い柄】(名) 商売の種類。「―に合った服装」

あきないぐち【商い口】(名) 商売の種類。「―を変える」

あきないさき【商い先】(名) 商売の相手。

あきないにん【商い人】(名) 商人。

あきなう【商う】(動ワ五[ハ])(文)あきな・ふ(ハ四) 商売をする。「呉服を―」

あきなおす【飽き直す】(動サ五[四]) 飽きた状態を改める。

あきなやむ【飽き悩む】(動マ五[四]) 飽きて困る。

あきのかぜ【秋の風】(名) 秋に吹く風。

あきのくれ【秋の暮】(名) 秋の夕暮れ。

あきのこ【秋の子】(名) 秋に生まれた子。

あきのしも【秋の霜】(名) 秋の霜。

あきのたなばた【秋の七夕】(名) 陰暦七月七日の夜。

あきのつき【秋の月】(名) 秋の月。

あきのつゆ【秋の露】(名) 秋の露。

あきのなごり【秋の名残】(名) 秋の終わり。

あきのなぬかのよ【秋の七日の夜】(名) 陰暦七月七日の夜。

あきのひ【秋の日】(名) 秋の日。

あきのひがん【秋の彼岸】(名) 秋分の日を中日とする七日間。

あきのひぐれ【秋の日暮れ】(名) 秋の夕暮れ。

あきのひとよ【秋の一夜】(名) 秋の一晩。

あきのふかまり【秋の深まり】(名) 秋が深まること。

あきのふね【秋の船】(名) 秋の船。

あきのほし【秋の星】(名) 秋の星。

あきのみず【秋の水】(名) 秋の水。

あきのむし【秋の虫】(名) 秋の虫。

あきのもり【秋の森】(名) 秋の森。

あきのやま【秋の山】(名) 秋の山。

あきのよ【秋の夜】(名) 秋の夜。

あきのよなか【秋の夜中】(名) 秋の夜中。

あきのよる【秋の夜】(名) 秋の夜。

あきのわき【秋の湧き】(名) 秋に湧き出ること。

あきのわく【秋の湧く】(動カ五[四]) 秋に湧き出る。

あきのわたり【秋の渡り】(名) 秋に渡ること。

あきのわたる【秋の渡る】(動ラ五[四]) 秋に渡る。

あきのわらい【秋の笑い】(名) 秋の笑い。

あきのわらう【秋の笑う】(動ワ五[ハ]) 秋に笑う。

あきのわれ【秋の我】(名) 秋の我。

あきのわれる【秋の割れる】(動ラ五[四]) 秋に割れる。

あきのわれわれ【秋の我々】(名) 秋の我々。

あきのわれわれる【秋の我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々る。

あきのわれわれわれ【秋の我々我々】(名) 秋の我々我々。

あきのわれわれわれる【秋の我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々る。

あきのわれわれわれわれ【秋の我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々。

あきのわれわれわれわれる【秋の我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々】(名) 秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれる【秋の我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る】(動ラ五[四]) 秋に我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々る。

あきのわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれわれ【秋の我々

あなうま【穴馬】(名) 競馬で、人気はないが、実力があって好成績をあげる馬。

あなうめ【穴埋め】(名) ❶穴をふさいで埋めること。❷欠けたところを補うこと。「赤字を—する」

あなかしこ【穴賢】(感) 女性が手紙の末尾に書く語。

あながち【強ち】(副) 必ずしも。「—悪いとは言えない」

あなぐま【穴熊】(名) ❶クマ科の哺乳類。❷将棋で、王将を隅に囲うこと。

あなぐら【穴蔵】(名) 地面を掘って作った倉庫。

あなご【穴子】(名) 海産の魚。

あなた【彼方】(代) ❶遠くの方向。あちら。❷(二人称) 対等または目下の人に対して用いる。

あなた【貴方】(代) (二人称) 対等または目下の人に対して用いる。

あなたがち【強ち】(副) 必ずしも。「—悪いとは言えない」

あなたこなた【彼方此方】(代) あちらこちら。

あなたさま【貴方様】(代) (二人称) 敬意をこめて言う語。

あなたまかせ【貴方任せ】(名) 他人の力をあてにすること。

あなづり【穴釣り】(名) 穴の中にいる魚を釣ること。

あなどり【侮り】(名) 軽んじること。

あなどる【侮る】(動ラ五) 軽んじる。ばかにする。

あなば【穴場】(名) ❶人に知られていない、よい場所。❷競馬で、穴馬を買うこと。

あなぼこ【穴ぼこ】(名) 穴。くぼみ。

あなぼり【穴掘り】(名) 穴を掘ること。

あなみ【穴見】(名) 穴の中をのぞくこと。

あなむざん【あな無残】(形動ナリ) ひどくむごたらしいさま。

あなや【あな矢】(感) 驚いたときに発する語。

あなやま【穴山】(名) 地下に坑道を掘って鉱物を採る山。

あなり【あなり】(連語) 伝聞の助動詞「なり」の連体形。

あなる【あなる】(連語) 伝聞の助動詞「なり」の終止形。

あに【兄】(名) 男の兄。

あに【豈】(副) (反語の形で) どうして。

あにい【兄い】(名) 兄。

あにうえ【兄上】(名) 兄の敬称。

あにおとうと【兄弟】(名) 兄と弟。

あにき【兄貴】(名) ❶兄。❷兄のように慕う男性。

あにく【あにく】(連語) 伝聞の助動詞「なり」の連用形。

あにじゃ【兄者】(名) 兄の敬称。

あにでし【兄弟子】(名) 同じ師匠に入門した人のうち、先に入門した人。

あにゃく【あにゃく】(連語) 伝聞の助動詞「なり」の連用形。

あによめ【兄嫁】(名) 兄の妻。

あね【姉】(名) 女の兄。

あねいもうと【姉妹】(名) 姉と妹。

あねご【姉御】(名) 姉のように慕う女性。

あねさま【姉様】(名) 姉の敬称。

あの【あの】(連体) ❶話し手・聞き手の両方から遠い物事をさす。❷話し手・聞き手の両方が知っている物事をさす。

あのあたり【あの辺り】(名) ❶あの場所の近く。❷あのころ。

あのう【あのう】(感) 話しかけるときや、ためらいがちに言うときに発する語。

あのかた【あの方】(代) (二人称) 敬意をこめて言う語。

あのくせ【あの癖】(名) 連語 ❶あれほどの。❷あれほどのくせに。

あのくせに【あの癖に】(連語) あれほどのくせに。

あのこ【あの子】(代) (二人称) 目下の女性をさす語。

あのじょ【あの女】(代) (二人称) 目下の女性をさす語。

あのて【あの手】(名) ❶あの方法。❷あの種類。

あのて【あの手】(名) ❶あの方法。❷あの種類。

あのて【あの手】(名) ❶あの方法。❷あの種類

しきん【自謹】(名) ㊀自分の犯したる罪に自分が謹慎し謝すること。㊁自分にて自分の事を褒(ホ)むること。

しきんかいぎ【市参事会】(名) 市の合議制度の執行機関。市参事会員を以てこれを組織し、市を代表し市の行政を執行す。——**かん**【市参事会員】(名) 市参事会を組織する吏員。市長・助役及名誉職参事会員とす。市長は特別の規定あれど、助役及名誉職参事会員は、市会の選挙にのみよる。

++しきん(名) 父の訛。(古昔のおづま言)。

しきん【肉】(名) にく。(俚)。

しきん(名) ㊀けだもの。㊁(動)ししか。鹿。(猪)。㊂(動)ねこ。

しきん【尿】(名) しい。しっこ。小便。(小兒の語)。

しきん【獅子】(名) ㊀(動)食肉類中猫科に屬する猛獣。多くアフリカ・洲又はブラジル國等に産す。頭圓くして大く、眼圓く、腰細くして尾長し、體毛は黄色にして、平素其爪を隠匿す。牡には鬣(タテガミ)ありて牝にはなし。古來獅子は獣中の王といへり。カラしし。㊁しし舞(まひ)の略言。——**うさぎ**【獅子兎】**をもちふ**【獅子兎】**全力**」(獅子は兎を撃殺するにも全身の力をこめてなすとの義)如何なる瑣細の事にても、等閑(なほざり)にせず精神を集注してこれをなすにたとへいふ。

[しきん]

++しきん【四至】(名) ㊀四方のさかひめ。天地—。㊁四方より至ること。

しきん【獅子】(名) 家を嗣ぐ子。あとつぎ。

しきん【支子】(名) ㊀めかけばらの子。㊁わかれ出でたるもの。

しきん【次子】(名) ㊀次の子。次男。㊁二番目の子。

しきん【四子】(名) ㊀四人の子。㊁四番目の子。

しきん【私子】(名) 「わたくしご」に同じ。

しきん【志士】(名) 社會又は國家のために、身を抛(ウ)ちて力を盡くす人。(豪國家、有志者)。

しきん【死士】(名) 決死の士。

しきん【刺史】(名) ㊀支那の一州の長官。㊁鴨じて、國守又は知事の異稱。

しきん【指示】(名) ㊀さしづ。㊁さしをし。

しきん【指揮】(名) さしづ。げぢ。

しきん【市肆】(名) みせや。

しきん【詩史】(名) 詩を以て事件の經過又は個人の傳記等を錄したるもの。「回天—」。

しきん【私資】(名) 自分の資産。

しきん【四肢】(名) 兩手と兩足との稱。

しきん【死屍】(名) 死かばね。死にがら。かばね。父兄の無念を晴(ハラ)すため、楚の莊王の屍を掘り出して、これをむちうちし故事に出づ。死にし人に對して、其行爲又は言説を復讐的に攻撃するにいふ。

しきん【敕救】(名副) つつしめて已(ヤ)まざるさまにいふ語。(豪撃)。

しきん(豪) ㊀警蹕(ケイヒツ)の聲。㊁禁じ止(ト)むる聲。

++しきん【四時】(名) 春・夏・秋・冬の稱。即ち、四季。「一の序」(四度、四節)。

しきん【子事】(名) 其人の子のやうに事(ツカ)ふること。

しきん【師事】(名) 師とあがめて事ふること。

しきん【私事】(名) ㊀自分一己又は一家に關係したる事柄。㊁ないしょごと。かくしごと。

しきん【指事】(名) 漢字の六書の一、其字形面に其意義を表するもの、例へば二の字の如し。

しきん【次子】(名) ㊀次の子。次男。㊁二番目の子。

しきん【兒子】(名) こども。

しきん【侍史】(名) ㊀例に侍(ハベ)る書記。祐筆。㊁人に書を贈るに、侍史を經(ヘ)て差上ぐとの敬意を表して、宛名の下に書く語。

しきん【時事】(名) 當時の世上の事。「—ばし。よく、—に通ず」。

しきん【時時】(副) ㊀をりをり。ときどき。㊁しばしば。

++しきん【紫震殿】(名) 「しゝんでん」の訛語。

しきん【刺繍】(名) ぬひとり。ぬひ。〔獅〕

しきん【志】(名) 【俚】須彌山の四方にある南贍部洲・東勝神洲・西牛貨洲・北俱盧洲の稱。

しきん【四獣】(名) 青龍・朱雀・玄武・白虎の稱。

しきん【獅子】(名) 【植】繖形科に屬する草、形は土當歸(ドタウキ)に似て、毛多く莖滑(ナメラ)かならず、秋の頃、長じて六七尺となり、小形の白花開く、藥用に供せらる。いぬど。

しきん【肉置】(名) にくつき。

しきん【鹿垣】(名) 枝付の儘の木を用ひたるさかもぎ。ろくさい。

しきん【獅子頭】(名) 木にて獅子の頭を刻みたるもの。獅子舞に用ふ。

++しきん【鰓】(自、ハ四) 恐じまる。ちゞまる「くちなはをよろづ恐じかまりたりけり」

++しきん【慴】(自、ま四) ちゞかむ。ちゞむ「恐(オソ)かみたる髪」

しきん【猪狩】(名) 猪などをとる狩。

しきん【啄木組】(名) 啄木組(ククギ)の一種。緋・白・紫及萌黄の四色を以て打ちたる紐。

しきん【獅子】(名) 【俚】もと如來の說法の時に坐するを以て、佛の座を獅子座といふ。

しきん【獅子吼】(名) 【佛】佛の座席。轉じて、高僧の座席。

しきん【獅子座】(名) 【佛】佛の座席。轉じて、高僧の座席。

しきん【獅子吼】(名) 【佛】「ししく」に同じ。

しきん【時時刻刻】(副) 時刻を追ひて、ときどきに。

しきん(他、さ四) ㊀おこらす。

しきん(名) 【佛】佛の座席。轉じて、高僧の座席。

しきん【獅子吼】(名) 【佛】「ししく」に同じ。

しきん【時時刻刻】(副) 時刻を追ひて、ときどきに。

しきん(他、さ四) ㊀おこらす。

しきん【獅子座】

おおさか【大坂】(名) 旧国名の一。今の大阪府の大部分。摂津の一部。

おおさか【大阪】(名) 大阪府の中心都市。

おおさか-ぐち【大坂口】(名) 大阪へ行く道筋。

おおさか-ことば【大坂言葉】(名) 大阪地方の言葉。

おおさか-じょう【大坂城】(名) 大阪市にある城。豊臣秀吉が築いたが、のち徳川幕府が再建。

おおさか-ずもう【大坂相撲】(名) 大阪を中心に興行する相撲。

おおさか-の-じん【大坂の陣】(名) 大坂城をめぐる豊臣氏と徳川氏との戦い。冬の陣と夏の陣とがある。

おおさか-べん【大坂弁】(名) 大阪地方の言葉。

おおさか-まいり【大坂参り】(名) 大阪へ行くこと。

おおさか-もの【大坂者】(名) 大阪の人。

おおさき【大崎】(名) 大きな岬。

おおさき【大咲き】(名) 大きく咲くこと。

おおさき【大先】(名) 大きな先。

おおさき【大幸】(名) 大きな幸福。

おおさき【大崎】(名) 大きな岬。

おおさき【大咲き】(名) 大きく咲くこと。

おおさき【大先】(名) 大きな先。

おおさき【大幸】(名) 大きな幸福。

おおさき-な【大先な】(形動) 大きな先。

おおさき-に【大先に】(副) 大きな先に。

おおさき-の【大先の】(連体) 大きな先の。

おおさき-は【大先は】(副) 大きな先は。

おおさき-も【大先も】(副) 大きな先も。

おおさき-や【大先や】(名) 大きな先や。

おおさき-よ【大先よ】(名) 大きな先よ。

おおさき-を【大先を】(副) 大きな先を。

おおさき-ん【大先ん】(名) 大きな先ん。

おおさき-んな【大先んな】(形動) 大きな先んな。

おおさき-んに【大先んに】(副) 大きな先んに。

おおさき-んの【大先んの】(連体) 大きな先んの。

おおさき-んは【大先んは】(副) 大きな先んは。

おおさき-んも【大先んも】(副) 大きな先んも。

おおさき-んや【大先んや】(名) 大きな先んや。

おおさき-んよ【大先んよ】(名) 大きな先んよ。

おおさき-んを【大先んを】(副) 大きな先んを

かいしゃ【会社】（名）商業・工業・鉱業・運輸業・金融業などの営利事業を行なう組織体。株式会社・合名会社・合資会社・有限会社の四種がある。

かいしゃいん【会社員】（名）会社に勤めている人。

かいしゃく【解釈】（名）物事の意味・内容を理解すること。

かいしゃく【介錯】（名）切腹する人の首を切り落とすこと。

かいしゃく【改釈】（名）改めて解釈すること。

かいしゃく【改悛】（名）悪い行いを改めること。

かいしゃく【懐石】（名）茶の湯で、茶をすすめる前に出す簡単な食事。

かいしゃく【解析】（名）数学で、ある関数の性質を調べること。

かいしゃく【開錫】（名）僧侶が錫杖を鳴らして、仏前で祈ること。

かいしゃく【開釈】（名）仏教の教義を説き明かすこと。

かいしゃく【開析】（名）地質で、河川の浸食作用によって地形が変化す

ぜんしゅ【善主】[名] 善人の主人。

ぜんしゅ【善種】[名] 善人の種族。

ぜんしゅ【善手】[名] 囲碁で、よい手。

ぜんしゅ【禅宗】[名] 仏教の一派。座禅によって悟りを開こうとする。

ぜんしゅ【禅衆】[名] 禅宗の僧侶

さかな【魚】（名）（水中に住む動物の）うお。

さかなへいわ【魚へい】（名）魚を入れる藁製の袋。

さかなや【魚屋】（名）魚を売る店。また、その人。

さかなやま【魚山】（名）魚の形をした山。

さかなん【左官】（名）壁を塗ったり、屋根を葺いたりする職人。

さかなんぼう【左官棒】（名）左官が壁を塗るときに使う棒。

さかなんや【左官屋】（名）左官を職業とする人。

さかなんやま【左官山】（名）左官が壁を塗るときに使う山。

さかなんやまぼう【左官山棒】（名）左官山を使うときに使う棒。

さかなんやまぼうや【左官山棒屋】（名）左官山棒を作る職人。

さかなんやまぼうやま【左官山棒山】（名）左官山棒屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまや【左官山棒山屋】（名）左官山棒山に住む人。

さかなんやまぼうやまやま【左官山棒山山】（名）左官山棒山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまや【左官山棒山山屋】（名）左官山棒山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやま【左官山棒山山山】（名）左官山棒山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまや【左官山棒山山山屋】（名）左官山棒山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやま【左官山棒山山山山】（名）左官山棒山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまや【左官山棒山山山山屋】（名）左官山棒山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山】（名）左官山棒山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやま【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山屋】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山に住む人。

さかなんやまぼうやまや【左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山】（名）左官山棒山山山山山山山山山山山山山山山山山山屋が多く住む山。

さかなんやまぼうやまや【左官山棒山

ほ

ほ[名] 棒に糸をつけ、魚をつる道具。

ほ[名] 帆船の帆柱に張って、風を受ける布。

ほ[名] 火のついたもの。

ほ[名] 穂

おおかぜ【大風】(名)―たい【台】(名)【気】強い風。暴風。―ふき【吹き】(名)風が強く吹くこと。―よけ【―除け】(名)風を防ぐこと。また、そのもの。

おおかた【大方】(名)―の体(てい)―ほとんど。―の予想―ほとんどの人の予想。―は済んだ―ほとんどは終わった。―(副)―ほとんど。―の人は賛成だ。―の予想―ほとんどの人の予想。―は済んだ―ほとんどは終わった。―(副)―ほとんど。―の人は賛成だ。

おおがた【大型】(名)―の台風―大きい台風。―の新人―大きい新人。―(形動)―な―な体格―大きい体格。―な―な体格―大きい体格。

おおがら【大柄】(名)―な人―体の大きい人。―な―な体格―大きい体格。―な―な体格―大きい体格。

おおかわ【大川】(名)―の水―大川の水。―の水―大川の水。

おおきい【大きい】(形)―くて―く―ければ―かろう―かった―く―い―さ―さ―さ

ことばのいろは

ことばのいろは（名）七五調の歌謡の一種。

ことばのかず（名）言語の数。

ことばのくさり（名）言語の連続。

ことばのこころ（名）言語の意味。

ことばのしるべ（名）言語の手引き。

ことばのたね（名）言語の材料。

ことばのつかい（名）言語の使用。

ことばのつかいかた（名）言語の使用法。

ことばのつかいわけ（名）言語の使い分け。

ことばのつかいわけかた（名）言語の使い分けの方

おちや-り[ヤリ]【仕丁】(名) ㊀古昔、役により て使はれたる人ぼろ。つかへのよぼろ。㊁古昔、主殿寮に附屬して、禁中の掃除などの雜役に服せし者。

おちや-り[ヤリ]【市場】(名) 貨物金錢の賣買取引の行はる場所。貨物を提供して購買者を求むる供給者の會合場。いちば。

おちや-り[ヤリ]【視場】(名) 眼の見得る範圍。

おちや-り[ヤリ]【次長】(名) 長官の次位なる官職。

おちや-り[ヤリ]【磁場】(名) 【理】磁氣作用の及ぶ範圍。

おちやらそん-せい[ヤラソンセイ]【市町村制】(名) 市と町村との關係に關する制度。

おちやりょう[ヤリヨウ]**ねつ**[ネツ]【弛張熱】(名) 一日の體溫に著しき差異ある熱。

おちやりょう[ヤリヨウ]**えいぎょう**[エイギヨウ]【貸屋營業】(名) 物品(多くは動産)を擔保に取りて金錢の貸附をなす營業。

おちゆう[チユウ]【市中】(名) 町なか。

おちゆう[チユウ]【仔蟲】(名) 昆蟲の幼化して未だ成蟲に變態せざる間の稱。

おちゆう[チユウ]【四仲】(名) 仲春仲夏仲秋仲冬の稱。

おちゆう[チユウ]【支柱】(名) さゝへばしら。つかひばしら。はしら。

おちゆう[チユウ]【七雄】(名) 支那の戰國時代にて、秦・楚・燕・齊・趙・魏・韓の稱。我國の戰國時代にて、織田信長・毛利元就・今川義元・武田信玄・上杉謙信・北條氏康・豐臣秀吉の稱。

おちゆう[チユウ]【寺中】(名) 寺院の中、寺内。

おちゆう[チユウ]【侍中】(名) 君主のもそばに居て、其諮詢にあづかる役。

おちゆう[チユウ]**しゅじゅう**[シユジユウ]【始中終】(名) はじめとなか(女子)はじめとをはりと。又、事の全體。

おちよ[チヨ]【四女】(名) ㊀四人の女。㊁第四番目の女。

おちよ[チヨ]【士女】(名) をとこをみなと。

おちよ[チヨ]【兒女】(名) ㊀をんなこども。「一の泣き聲」㊁古昔、主殿寮に附屬して、禁中の掃除などの雜役に服せし者。

おちよ[チヨ]【侍女】(名) 男の子と女の子と。

おちよ[チヨ]【次女】(名) 第二番目の女子。

おちよう[チヨウ]【輜重】(名) 軍隊の荷物を運搬する車。こにだ。㊁糧食・秣食・被服其他の軍需品の總稱。——**ゆそう**[輜重輸卒](名) 輜重兵に從屬して、輜重の運搬に從事する兵卒。——**へい**[輜重兵](名) 輜重の運搬及監視に任ずる兵士。——**ゆそう**[輜重輸卒](名) 「ちよう(輜重)ゆそう(輸卒)に同じ。

おちよう[チヨウ]【實用】(名) まめやか。りちぎ。

おちよう[チヨウ]【自重】(名) ㊀自ら自己の品位を保ちて輕率ならざること。㊁自ら自己の擧動を愼(ツヽ)みて敢て卑下せざること。——**しん**[自重心](名) 自家の品位を保たんとする心。又、自己の擧動を愼む心。

おちよく[チヨク]【司直】(名) ㊀法の準道をつかさどると。㊁裁判官。法により て曲直を裁判するをなすこと。

おちよくけい[チヨクケイ]【視直徑】(名) 眼の視角。

おちらい[チライ]【失禮】(名) 「おれいに同じ。

おちりつ[チリツ]【七律】(名) 漢詩にて一句七言の律。

おちりりょん[チリリヨン]【自治吏員】(名) 地方自治團體の吏員。即ち、市長・町長・村長・助役の如きこれなり

おちり-りん[チリリン]【七厘】(名) こんろの類、土製のもの。シチリンの訛。

おちん[チン]【縝珍】(名) 「シェチンの訛。

おつ[ヲツ]【貫】(名) ㊀貫徹。内容。㊁もと、ねもと。「中正無邪謂之一也」。㊂さま。またま。㊃もちまへ。なりたち。㊄うまれつき。きやうとく。㊅ほどだい。いしづゑ。㊆まこと。實情。「以一告」。㊇まごゝろ。誠信。㊈すなほ。淳樸。㊉やくそく。ちかひ。

おつ[ヲツ]【惡】(名) 大いなる一組の琴。長さは八尺一寸のものと七尺二寸のものとありて、幅は皆な一尺八寸なり、絃の數は或は二十七絃或は二十五絃或は二十三絃或は十九絃なり。

おつ[ヲツ]【室】(名) ㊀いへ。家屋。「一を築く」。㊁むろ。又、あな。「氷一」。㊂さま。き。(や。㊃おくがた。㊄一族。一門。㊅ないはう。おくがた。㊆刀劍の鞘。さや。㊇すべて中にものをさめ入るゝ器具の稱。——**にいりほこをさる**【入室操戈】其道を學びて其道を攻撃するにいふ。又、相手方の議論を其まゝ使用して、相手方を攻撃するにいふ。

おつ[ヲツ]【失】(名) ㊀あやまち。あやまり。㊁きず。缺點。

おつ[ヲツ]【濕】(名) ㊀うるほふこと。「一氣」。㊁「えつき(濕疹)」の略言。

おづ[ヲヅ]【倭文】(名) 古代の織物。横絲を青若しくは赤などに染め、亂れたる模樣に織りたるもの。しづり。しづおり。

おづ[ヲヅ]【賤】(名) いやしきと、いやしき者。「一が伏屋」。

おづ[ヲヅ]【垂】(他、た下二) まだらにする。

おづ[ヲヅ]【靜】(接頭) 或語に冠して おづかなる意を表はす語。「一歌」「一心」。

おつ[ヲツ]【貫】(名) ㊀形に對して、内容の稱。㊁名に對して、本體の稱。㊂くわおつ。み。㊃まこと。まんざ

おつえき[ヲツエキ]【貫役】(名) 陸軍軍屬の武官が現役にある「家」。

おつか[ヲツカ]【室家】(名) ㊀いへ。すまひ。㊁うちの一。

おつか[ヲツカ]【膝下】(名) (膝のもとの意) 父母のそば。「一を辭す」。㊂北賀人に手近き所。

おづか[ヲヅカ]【靜】(名) ㊀動かざると。ちつきて亂れざると。おだやか。㊁多言せざると。又、發言せざると。香壇の用をなさざると。ひっそりしたると。世と隔(へだ)りてあると。「閑」。

おつか[ヲツカ]【實家】(名) ㊀我生まれたる家。㊁法】婚姻又は縁組により、其生家の稱。

おつか[ヲツカ]【實價】(名) まことの直段。かけねなきあたひ。「正價」。

おつかい[ヲツカイ]【惡性】(名、副) のこと。

おつかい[ヲツカイ]【十界】(名) 【佛】佛界・菩薩界・緣覺界・聲聞界・天上界・人間界・修羅界・畜生界・餓鬼界・地獄界の稱。

おつかい[ヲツカイ]【十戒】(名) 【佛】五戒の外に、食肉・邪見・盜跡・欺誑又は說過罪・自讃毀他・慳・瞋・謗三寶の五つの戒をそへての稱。

おつかいこつ[ヲツカイコツ]【膝蓋骨】(名) 【生】大腿骨と下腿骨との關節面を蓋(おほ)ふ皿狀の骨。ひざがしら。

おつかり[ヲツカリ]【失効】(名) 効力を失ふこと。

おつかり[ヲツカリ]【膝行】(名) ひざまづきて進むこと。膝を立てゝ進み行くこと。「一頓首」。

おつかり[ヲツカリ]【失行】(名) 道德にかげたるおこなはやく行くこと。

おつかり[ヲツカリ]【疾行】(名) はやりやみ。流行病。

おつかり[ヲツカリ]【執行】(名) ㊀實際に施行すること。㊁【法】強制執行をなし得る効力。「なし。

おつかりょく[ヲツカリヨク]【執行力】(名) 【法】強制執行をなし得る効力。實地に於ける假執行の命令。——**りょく**【執行力】

おつかん[ヲツカン]【執行機關】(名) ㊀或事務を執行するために設置せられたる機關。㊁【法】強制執行の機關。即ち、執達吏・執行裁判所の如きこれなり。——**くわんり**【執行官吏】(名) 或命令又は處分の執行を職とする官吏。——**さいばんしょ**【執行裁判所】(名) 【法】執行機關の一たる裁判所。通常其執行の手續をなす地の區裁判所これに當る。——**しょぶん**【執行處分】(名) 【法】法令の規定通りに執行する行政處分。又、強制執行の處分。——**はんけつ**【執行判決】(名) 【法】外國の裁判所の判決を我國の裁判所が適法なりと認めて、其執行を許したるもの。——**ぶん**【執行文】(名) 【法】判決の正本の末尾に、前記の正本は被告某又は原告某に對し、強制執行のため原告某(又は被告某)に附與すと附記し、これを取扱者たる裁判所書記署名捺印し、且當該裁判所の印を捺(お)したるもの。これによりて執行力ある正本となる。——**めいれい**【執行命令】(名) ㊀法令を執行するための命令。㊁【法】裁判所が支拂命令に付する假執行の命令。——**りょく**【執行力】(名) 【法】強制執行をなし得る効力。

おつかん[ヲツカン]【實効】(名) 實際の効力。

おつかん[ヲツカン]【實行】(名) ㊀實際に行ふこと。實地に爲すこと。㊁【法】犯罪の成立する要素の所爲。例へば殺人犯にて刀を加へたるをいふが如し。刀を振上げたる迄は未だ實行に至らざるなり。——**ちゅうしはん**【實行中止犯】(名) 【法】犯罪の實行あるも、他よりの障礙錯誤に基かず、犯人自ら犯罪の結果を生ずるとを妨げたるもの。例へば人を撲殺せんとして、毒藥を服用せしめし後、自ら撲殺の意思を中止して、其人に解毒劑を服用せしめしが如

つ。「一の親」「一がある」。㊂軍業。功績。「淨瑠の弦を聽げて、これを功一の上に加ふ」。㊃存在すると。現存すると。㊄防禦あると。そなへあると。「一を避け慮を打つ」。㊅器具。器械。又、貨物。荷物。「軍一を開す」。㊆芝居にて、善人に扮するとと。㊇【數】割算にて、割らるゝ數の稱。

おつ-あう[ヲツアウ]【執拗】(名) かたくなに自家の意見を執(と)りて人に從はざると。心ねぢけて意地強きこと。かたいぢ。「頑固。

おつ-あく[ヲツアク]【實惡】(名) 芝居にて、殘忍なる惡人の役。

おつ-い[ヲツイ]【失意】(名) ㊀あてのはづれたると、失望。㊁志を遂げ得ずして不平なると、得意の對。

おつ-い[ヲツイ]【執意】(名) ㊀かたく意見をとりまもること。㊁【心】或目的の寫業を強勢にして思慮を起さしむる心的狀態。若し身體の運動が遂行を始めんとする場合には、これに適應したる四肢の運動神經を刺戰す。

おつ-い[ヲツイ]【實意】(名) ㊀深切なる心。まんせつ。「一を盡さ」。㊁底のこゝろ。ほんね。「本心」。

おつ-いう[ヲツイウ]【執友】(名) きのあうたとも。ともだち。

おつ-いん[ヲツイン]【實印】(名) 個人が一般の事柄に主として使用する自身の印形。多くは官に屆出をなしゐる。

おつう[ヲツウ]【齒痛】(名) 齒のいたみ。「くもの。

おつう[ヲツウ]【私通】(名) 男女ひそかに情を通ずること。

おつう[ヲツウ]【四通】(名) 道路などの四方何れへも通じてあること。——**はったつ**【四通八達】(名) 道路などの如何なる方向へも通じてあること。

おづおづ[ヲヅヲヅ]【靜靜】(名) ものしづかにうたふと。

おづ-うた[ヲヅウタ]【下枝】(名) 下の枝。下えだ。

おづ-え[ヲヅエ]【疾疫】(名) はやりやみ。流行病。

おつ-えき[ヲツエキ]【實益】(名) 實際の効能又は利益。

おつえき[ヲツエキ]【實役】(名) 陸軍軍屬の武官が現役にあること。

おつか[ヲツカ]【室家】(名) ㊀いへ。すまひ。㊁うちの一。

おつか[ヲツカ]【膝下】(名) (膝のもとの意) 父母のそば。「一を辭す」。㊂北賀人に手近き所。

おづか[ヲヅカ]【靜】(名) ㊀動かざると。ちつきて亂れざると。おだやか。㊁多言せざると。又、發言せざると。香壇の用をなさざると。ひっそりしたると。世と隔(へだ)りてあると。「閑」。

おつか[ヲツカ]【實家】(名) ㊀我生まれたる家。㊁法】婚姻又は縁組により、其生家の稱。

おつか[ヲツカ]【實價】(名) まことの直段。かけねなきあたひ。「正價」。

おつかい[ヲツカイ]【惡性】(名、副) のこと。

おつかい[ヲツカイ]【十界】(名) 【佛】佛界・菩薩界・緣覺界・聲聞界・天上界・人間界・修羅界・畜生界・餓鬼界・地獄界の稱。

おつかい[ヲツカイ]【十戒】(名) 【佛】五戒の外に、食肉・邪見・盜跡・欺誑又は說過罪・自讃毀他・慳・瞋・謗三寶の五つの戒をそへての稱。

おつかいこつ[ヲツカイコツ]【膝蓋骨】(名) 【生】大腿骨と下腿骨との關節面を蓋(おほ)ふ皿狀の骨。ひざがしら。

おつかり[ヲツカリ]【失効】(名) 効力を失ふこと。

おつかり[ヲツカリ]【膝行】(名) ひざまづきて進むこと。膝を立てゝ進み行くこと。「一頓首」。

おつかり[ヲツカリ]【失行】(名) 道德にかげたるおこなはやく行くこと。

おつかり[ヲツカリ]【疾行】(名) はやりやみ。流行病。

おつかり[ヲツカリ]【執行】(名) ㊀實際に施行すること。㊁【法】強制執行をなし得る効力。實地に於ける假執行の命令。——**りょく**【執行力】(名) 【法】強制執行をなし得る効力。

おつかん[ヲツカン]【實効】(名) 實際の効力。

おつかん[ヲツカン]【實行】(名) ㊀實際に行ふこと。實地に爲すこと。㊁【法】犯罪の成立する要素の所爲。例へば殺人犯にて刀を加へたるをいふが如し。刀を振上げたる迄は未だ實行に至らざるなり。——**ちゅうしはん**【實行中止犯】(名) 【法】犯罪の實行あるも、他よりの障礙錯誤に基かず、犯人自ら犯罪の結果を生ずるとを妨げたるもの。例へば人を撲殺せんとして、毒藥を服用せしめし後、自ら撲殺の意思を中止して、其人に解毒劑を服用せしめしが如

一字音　一個語方言　十古語

あつ-まり【集まり】(名) 集まること。また、集まったもの。

あつ-まる【集まる】(自五) ❶ 一か所に寄り合う。集合する。「人が—・る」 ❷ 一つのものに帰する。「責任が—・る」 ❸ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」 ❹ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」 ❺ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」

あつ-み【厚み】(名) ❶ 厚さ。「—のある本」 ❷ 厚さの程度。「—を増す」 ❸ 厚さの程度。「—を増す」

あつ-める【集める】(他下一) ❶ 一か所に寄り合う。集合する。「人が—・る」 ❷ 一つのものに帰する。「責任が—・る」 ❸ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」 ❹ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」 ❺ 集まって一つのものになる。「資金が—・る」

あつ-もの【羹】(名) 汁物。吸い物。

あつ-らえ【誂え】(名) ❶ 注文すること。また、注文したもの。「—の服」 ❷ 注文すること。また、注文したもの。「—の服」

あつら-える【誂える】(他下一) ❶ 注文する。「洋服を—・える」 ❷ 注文する。「洋服を—・える」

あつら-え-む-き【誂え向き】(名) ❶ 注文に適していること。「—の仕事」 ❷ 注文に適していること。「—の仕事」

あつら-え-もの【誂え物】(名) ❶ 注文して作らせたもの。「—の家具」 ❷ 注文して作らせたもの。「—の家具」

あつら-え-や【誂え屋】(名) ❶ 注文を受けて作る店。「洋服の—」 ❷ 注文を受けて作る店。「洋服の—」

あつら-える【誂える】(他下一) ❶ 注文する。「洋服を—・える」 ❷ 注文する。「洋服を—・える」

あて【当て】(名) ❶ 目標。「—もなく歩く」 ❷ 期待。「—にする」 ❸ 目標。「—もなく歩く」 ❹ 期待。「—にする」

あて【宛】(名) ❶ 宛先。「—名」 ❷ 宛先。「—名」

あて-が-き【当て書き】(名) ❶ 当てて書くこと。「—の練習」 ❷ 当てて書くこと。「—の練習」

あて-が-はず-れ【当て外れ】(名) ❶ 当てが外れること。「—に終わる」 ❷ 当てが外れること。「—に終わる」

あて-が-わ【当て革】(名) ❶ 当てる革。「—を縫う」 ❷ 当てる革。「—を縫う」

あて-ぎ【当て木】(名) ❶ 当てる木。「—をする」 ❷ 当てる木。「—をする」

あて-こ-む【当て込む】(他五) ❶ 当てにして待つ。「客を—・む」 ❷ 当てにして待つ。「客を—・む」

あて-こ-み【当て込み】(名) ❶ 当てにすること。「—が外れる」 ❷ 当てにすること。「—が外れる」

あて-じ【当て字】(名) ❶ 当てて書く字。「—を使う」 ❷ 当てて書く字。「—を使う」

あて-ず-っぽう【当て推量】(名) ❶ 当てずっぽうに推量すること。「—で言う」 ❷ 当てずっぽうに推量すること。「—で言う」

あて-つ-け【当て付け】(名) ❶ 当てつけること。「—がましい」 ❷ 当てつけること。「—がましい」

あて-つ-ける【当て付ける】(他下一) ❶ 当てつける。「—・けるように言う」 ❷ 当てつける。「—・けるように言う」

あて-な【宛名】(名) ❶ 宛先の名前。「—を書く」 ❷ 宛先の名前。「—を書く」

あて-はま-る【当てはまる】(自五) ❶ 当てはまる。「条件に—・る」 ❷ 当てはまる。「条件に—・る」

あて-はめ【当てはめ】(名) ❶ 当てはめること。「—の問題」 ❷ 当てはめること。「—の問題」

あて-はめ-る【当てはめる】(他下一) ❶ 当てはめる。「—・めて考える」 ❷ 当てはめる。「—・めて考える」

あて-ぶち【当て縁】(名) ❶ 当てる縁。「—をする」 ❷ 当てる縁。「—をする」

あて-ぶり【当て振り】(名) ❶ 当てて振ること。「—の踊り」 ❷ 当てて振ること。「—の踊り」

あて-ま【当て間】(名) ❶ 当てる間。「—に合わせる」 ❷ 当てる間。「—に合わせる」

あて-み【当て身】(名) ❶ 当て身。「—を食らう」 ❷ 当て身。「—を食らう」

あて-もの【当て物】(名) ❶ 当てる物。「—をする」 ❷ 当てる物。「—をする」

あて-や【当て矢】(名) ❶ 当てる矢。「—を射る」 ❷ 当てる矢。「—を射る」

あて-よ【当て世】(名) ❶ 当てる世。「—を過ごす」 ❷ 当てる世。「—を過ごす」

あて-らい【当て雷】(名) ❶ 当てる雷。「—を受ける」 ❷ 当てる雷。「—を受ける」

あて-る【当てる】(他下一) ❶ 当てる。「—・てて書く」 ❷ 当てる。「—・てて書く」

あて-る【宛てる】(他下一) ❶ 宛てる。「—・てて書く」 ❷ 宛てる。「—・てて書く」

あて-る【充てる】(他下一) ❶ 充てる。「—・てて使う」 ❷ 充てる。「—・てて使う

ぎょうかい　ぎょうぎ　ぎょうこう　ぎょうこう　ぎょうこう

あいだ-の-あき【間の空き】(名) 日本画の余白。

あいだ-の-ことば【間の言葉】(名) 間投詞。

あいだ-の-ばん【間の番】(名) 順番の合間。

あいだ-ばかり【間ばかり】(名) 時間の経過を表す語。

あいだ-ばき【間ばき】(名) 相撲で、立ち合いの時に両足を開いて踏ん張ること。

あいだ-ばなれ【間離れ】(名) 人と人との間柄が疎遠になること。

あいだ-ばり【間張り】(名) 障子の骨の間に張る紙。

あいだ-ぶすま【間ぶすま】(名) 襖の間に敷く布団。

あいだ-ぶち【間縁】(名) 畳の縁。

あいだ-ぶみ【間文】(名) 手紙の中に書き添える文。

あいだ-ぼし【間星】(名) 星と星との間。

あいだ-まく【間幕】(名) 芝居で、場面の区切りに引く幕。

あいだ-みず【間水】(名) 井戸水と水道水とを混ぜること。

あいだ-もの【間物】(名) 日用雑貨。

あいだ-やど【間宿】(名) 宿場と宿場との間にある宿。

あいだ-やま【間山】(名) 山と山との間。

あいだ-ゆび【間指】(名) 指と指との間。

あいだ-よう【間用】(名) 間に合わせの用。

あいだ-よう【間様】(名) 間取り。

あいだ-よう【間葉】(名) 胚葉の一。

あいだ-よう【間様】(名) 間柄

ぎょうにん　[名]　職業についている人。

ぎょうにんぐみ　[名]　職業によって人を分けた組

あねば[あねば][品詞]（名）■いろ〳〵の種類。又、いろ〳〵の物質。■それ〴〵の特色を有して、同一ならざること。

＋あねば・おねば・し[あねばおねばし]（形、シク）[品詞]あなまさまれり。ひだかし。

【あね・す】[あねす]（他、さ四）[品詞]爲す。行ふ。

【あね・す・すせそ】[あねすすせそ]（他、さ四）[品詞]爲[為]（他、さ四）[品詞]爲す。行ふ。

【あね・す・すせそ】[あねすすせそ]（他、さ四）[品詞]爲[為]（他、さ四）[品詞]爲す。行ふ。

【あねせ・ぶり】[あねせぶり]（名）[品詞]丁寧なることばづかひ。

【あねせ・ぶり】[あねせぶり]（名）[品詞]丁寧なることばづかひ。

あねば・だま[あねばだま]（名）[品詞]■玉を空中に投[な]げ上げ、これを手に受けて、巧に弄ぶ技術。即ち今の大神樂の剣・弄丸・弄玉。■てだま。

あねば・だま[あねばだま]（名）[品詞]■玉を空中に投[な]げ上げ、これを手に受けて、巧に弄ぶ技術。即ち今の大神樂の剣・弄丸・弄玉。■てだま。

＋あねば・とる[あねばとる]（名）[品詞]女子の隠門。

＋あねば・とる[あねばとる]（名）[品詞]女子の隠門。

あねば・なる[あねばなる]（自、ら下二）[品詞]■おなびて進る。■力なげに他の體によりかゝる。（謡曲）

あねば・なる[あねばなる]（自、ら下二）[品詞]■おなびて進る。■力なげに他の體によりかゝる。（謡曲）

＋あねば・て・る[あねばてる]（級照）（枕）「片に寄らする詞。「一片しは四の、さゝぬりの大櫛の上ゆ」

＋あねば・て・る[あねばてる]（級照）（枕）「片に寄らする詞。「一片しは四の、さゝぬりの大櫛の上ゆ」

＋あねば・の・かぜ[あねばのかぜ]（科戸風）（名）（おなつひと及おなつひめの二柱の神の名より出づ）風の異稱。

＋あねば・の・かぜ[あねばのかぜ]（科戸風）（名）（おなつひと及おなつひめの二柱の神の名より出づ）風の異稱。

あねば・の・うめ[あねばのうめ]（信濃梅）（名）（通）梅にはうめの變種。蕊[しべ]くして花柄長く、花瓣は白色單瓣なり。

あねば・の・うめ[あねばのうめ]（信濃梅）（名）（通）梅の一種。葉は暗綠色なる上面と灰白色なる下面と共に平滑にして五分内外の長さを有する鋸病あり、果實は小形にして其果梗なるときに種鍼を擦[こ]るべし、木材もまた種々の用に供せらる。（牛乳神、碧瀾学）。

あねば・の・き[あねばのき]（科木）（名）（通）田舎科に屬する木。葉は心臓形をなして端と平滑なり、花は小形にして五瓣白色なり、蒴果又は漿果などに用ひらる。

あねば・の・き[あねばのき]（科木）（名）（通）田舎科に屬する木。葉は心臓形をなして端と平滑なり、花は小形にして五瓣白色なり、蒴果又は漿果などに用ひらる。

あねび[あねび]（竹刀）（名）[品詞]製劍の時に用ふるもの、割竹四本をよせて刀形となし、櫻[かば]と鐔[つば]とをはゞにあたる處を皮にて包み、皮の鐶[わ]をはむ

あのぎ[凝]〔名〕あのごり。「一時の—」。
あのぐ[凝]〔他、か四〕㊀縮まる。すくわれる。㊁縮ます。すくう。「袋を—」。㊂きからひもかす。又、あなどりおかす。「風雨を—」「上を—」。㊃たへ忍ぶ。さゝへ得。「飢を—」。
あのごて[篠籠手]〔名〕鐵を篠竹(ささ)を集めたる如くとおてつくりたる籠手。
あのごの[四五]〔副〕彼此と。ぐづ〳〵と。「—いはずに承知せい」。
あのすがき[篠簀]〔名〕篠竹(ささ)をとおてつくりたる簀子(すのこ)。
あのすゑあて[篠脛當]〔名〕鐵を篠竹(ささ)をあつめたるが如くとおてつくりたる脛當。
あのだけ[篠竹]〔名〕【植】「あのごの」に同じ。
あのつくゝあめ[篠衝雨]〔名〕《雅》檢非違使の役所。如く降る雨の總勢極めてはげしき大雨。
あのに[副]《古》「あぬに」の轉。「—吹きしく秋の夕風」。㊁密く。「一降る」。
あのね[羊蹄菜]〔名〕【植】「あぶらぎく」に同じ。
あののめ[東雲]〔名〕《篠目の轉》あけがた。あけぼの。曙天。東白。渡鷹。——**ぐさ**[東雲草]〔名〕【植】「あきがほ」に同じ。
あののめの[篠目]〔枕〕「あくに從らする語。「—はがらはがらと明け行けば」。
あののをふき[篠吹雪]〔名〕草木をわけて強く吹くふぶき。「—寒き夜に」。
あのはこ[清器]〔名〕便器。
あのばゝし[忍]〔形、二〕忘れがたし。こひしたひ。「し」。
あのはら[篠原]〔名〕篠竹(ささ)の多く生えたる地。

あのび[忍]〔名〕㊀隱(かく)れにする。㊁身を隱して敵陣又は人家などに竊(ぬす)かにいり込むといふ術。「忍び」。㊂忍術。「—の一つ」。㊃忍びあるきの略言。——**あるき**[忍歩]〔名〕前條に同じ。——**いる**[忍入]〔自、ら四〕㊀深くたゝ忍ぶ。——**がへし**[忍返]〔名〕塀などの上に殿くる尖(とがり)たる竹又は釘などの櫛。人の忍び入るを防ぐためのもの。「諸國—」。
あのびのもの[忍者]〔名〕㊀人目を避(さ)けてかくれ行くこと。ないしょごと。(密事)。——**ごと**[忍事]〔名〕ひそ〳〵ばなし。——**ごと**[忍言]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。——**ごゑ**[忍聲]〔名〕忍ぶ聲。——**ぢゆう**[忍三重]〔名〕《忍音に重ねて三重。——づくり[忍造]〔名〕忍ぶ。——**ぢゆう**[忍重]〔名〕かくしをとこ。みそかをとこ。——**どころ**[忍所]〔名〕かくれひそむ場所。——**ぬき**[忍抜]〔名〕壁を立てずに柱と柱との間に横に渡す材。——**ね**[忍音]〔名〕忍泣の聲。——**のもの**[忍物]〔名〕(もと忍ぶべき物の意)の内に忍ばせ、隱に結び付けたるが故に此名あり。兜につける頤(あご)

あのぶ[忍]〔名〕㊀隱(かく)れにする。内所にすること。㊁身のぶと。㊂身を隱して敵陣又は人家などに竊(ぬす)かにいり込むといふ術。「忍び」。㊃忍びあるきの略言。——**ぶさ**[忍言]〔名〕【植】「あのぶさ」に同じ。——**ぶし**[忍節]〔名〕人目を避(さ)けてかくれ行くこと。——**ぶさ**[忍歩]〔名〕前條に同じ。——**ぶる**[忍入]〔自、ら四〕㊀深くたゝ忍ぶ。——**がへし**[忍返]〔名〕塀などの上に殿くる尖(とがり)たる竹又は釘などの櫛。人の忍び入るを防ぐためのもの。「諸國—」。
あのぶ[忍]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。
あのぶ[忍]〔名〕㊀人目を避(さ)けてかくれ行くこと。(密事)。——**ごと**[忍事]〔名〕ひそ〳〵ばなし。——**ごと**[忍言]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。——**ごゑ**[忍聲]〔名〕忍ぶ聲。——**ぢゆう**[忍三重]〔名〕《忍音に重ねて三重。——づくり[忍造]〔名〕忍ぶ。——**ぢゆう**[忍重]〔名〕かくしをとこ。みそかをとこ。——**どころ**[忍所]〔名〕かくれひそむ場所。——**ぬき**[忍抜]〔名〕壁を立てずに柱と柱との間に横に渡す材。——**ね**[忍音]〔名〕忍泣の聲。——**のもの**[忍物]〔名〕(もと忍ぶべき物の意)の内に忍ばせ、隱に結び付けたるが故に此名あり。兜につける頤(あご)

[しつかい(い)]

あのぶ[忍]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。
あのぶ[忍]〔名〕㊀人目を避(さ)けてかくれ行くこと。(密事)。——**ごと**[忍事]〔名〕ひそ〳〵ばなし。——**ごと**[忍言]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。——**ごゑ**[忍聲]〔名〕忍ぶ聲。——**ぢゆう**[忍三重]〔名〕《忍音に重ねて三重。——づくり[忍造]〔名〕忍ぶ。——**ぢゆう**[忍重]〔名〕かくしをとこ。みそかをとこ。——**どころ**[忍所]〔名〕かくれひそむ場所。——**ぬき**[忍抜]〔名〕壁を立てずに柱と柱との間に横に渡す材。——**ね**[忍音]〔名〕忍泣の聲。——**のもの**[忍物]〔名〕(もと忍ぶべき物の意)の内に忍ばせ、隱に結び付けたるが故に此名あり。兜につける頤(あご)

あのぶ[忍]〔名〕㊀隱(かく)れにする。内所にすること。㊁身のぶと。㊂身を隱して敵陣又は人家などに竊(ぬす)かにいり込むといふ術。「忍び」。㊃忍びあるきの略言。——**ぶさ**[忍言]〔名〕【植】「あのぶさ」の略言。——**ぶし**[忍節]〔名〕人目を避(さ)けてかくれ行くこと。——**ぶさ**[忍歩]〔名〕前條に同じ。——**ぶる**[忍入]〔自、ら四〕㊀深くたゝ忍ぶ。——**がへし**[忍返]〔名〕塀などの上に殿くる尖(とがり)たる竹又は釘などの櫛。人の忍び入るを防ぐためのもの。「諸國—」。

ほうき 掃除に用いる道具。——を逆さに立てる 非常に怒る。

ほうきぼし 彗星 [名] 太陽系の天体の一つ。

ほうきょく 法曲 [名] 雅楽の曲の一つ。

ほうぎょ 防御 [名] 敵の攻撃を防ぎ守ること。

ほうきょう 豊胸 [名] 胸を豊かにすること。

ほうきょう 法橋 [名] 僧位の一つ。

ほうきょう 法経 [名] 仏教の経典。

ほうきょう 法興 [名] 仏教が盛んになること。

ほうきょう 法教 [名] 仏教。

ほうきょう 法境 [名] 仏教の真理。

ほうきょう 法鏡 [名] 仏教の真理を明らかにすること

ゆかいな——ようかん　ゆきうさぎ　ゆきぐつ　ゆきぐに　ゆきげしき　ゆきしろ　ゆきだるま　ゆきどけ　ゆきのした　ゆきのは　ゆきばれ　ゆきまつり　ゆきみ　ゆきやま　ゆきやまがわ　ゆくえ　ゆくえふめい　ゆくさき　ゆくすえ　ゆくて　ゆくとし　ゆくゆく　ゆげ　ゆけつ　ゆけつき　ゆけつしょく　ゆけつぶつ　ゆけつりょう　ゆけむり　ゆげん　ゆこう　ゆさぶる　ゆさん　ゆし　ゆしゅつ　ゆしゅつぎょう　ゆしゅつぜい　ゆしゅつにゅう　ゆしゅつにゅうきん　ゆしゅつにゅうぜい　ゆしゅつにゅうぼうえき　ゆしゅつにゅうりょう　ゆしゅつぼうえき　ゆしゅつりょう　ゆしょう　ゆじょう　ゆしょく　ゆしん　ゆすい　ゆすいち　ゆすいろ　ゆすぐ　ゆずる　ゆせい　ゆせいかん　ゆせいがん　ゆせいき　ゆせいこう　ゆせいしゃ　ゆせいでんき　ゆせいでんりょく　ゆせいとう　ゆせいひん　ゆせいぼう　ゆせいめい　ゆせいりょく　ゆそう　ゆそうき　ゆそうぎょう　ゆそうしゃ　ゆそうだい　ゆそうにん　ゆそうりょう　ゆそく　ゆたか　ゆたかさ　ゆだね　ゆだねる　ゆだまり　ゆだる　ゆだん　ゆだんたいてき　ゆだんならない　ゆだんのない　ゆだんのならない　ゆだんのならぬ　ゆだんのならん　ゆだんのならんやつ　ゆだんのならんやつだ　ゆだんのならんやつだな　ゆだんのならんやつだね　ゆだんのならんやつだよ　ゆだんのならんやつだわ　ゆだんのならんやつだわい　ゆだんのならんやつだわえ　ゆだんのならんやつだわさ　ゆだんのならんやつだわな　ゆだんのならんやつだわね　ゆだんのならんやつだわよ　ゆだんのならんやつだわよう　ゆだんのならんやつだわよえ　ゆだんのならんやつだわよさ　ゆだんのならんやつだわよな　ゆだんのならんやつだわよね　ゆだんのならんやつだわよよ　ゆだんのならんやつだわよわ　ゆだんのならんやつだわよわい　ゆだんのならんやつだわよわえ　ゆだんのならんやつだわよわさ　ゆだんのならんやつだわよわな　ゆだんのならんやつだわよわね　ゆだんのならんやつだわよわよ　ゆだんのならんやつだわよわわ　ゆだんのならんやつだわよわわい　ゆだんのならんやつだわよわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわな　ゆだんのならんやつだわよわわね　ゆだんのならんやつだわよわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわい　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわえ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわさ　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわな　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわね　ゆだんのならんやつだわよわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわよ　ゆだんのならんやつだわよわ

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

あいさつ【挨拶】（名）（古くは「あいさつ」とも）①人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「朝の―」「―を交わす」「―に困る」②（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」③（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」④（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑤（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」⑥（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、反論・抗議すること。「―に及ばない」⑦（「…に挨拶する」の形で）相手の言動に対して、返事や応答をすること。「―に及ばない」⑧（「…に挨拶する」の形で）訪問・通知などの目的で、相手のもとに出向くこと。「―に伺う」「―に行く」⑨（「…に挨拶する」の形で）仲介・斡旋などの労をとること。「―に立つ」⑩（「…に挨拶する」の形で）抗議・談判などのために、相手のもとに出向くこと。「―に行く」

おおかみ 狼 [名] 犬科の獣。

おおきい 大きい [形] ❶ 物の形・容積・数量などが多い。❷ 程度が甚だしい。

おおきさ 大きさ [名] 大きいこと。

おおきな 大きな [連体] 大きい。

おおく 多く [副] 数量が多いこと。

おおぐち 大口 [名] 大きな口。

おおごえ 大声 [名] 大きな声。

おおさじ 大匙 [名] 大きな匙。

おおさわぎ 大騒ぎ [名] 大勢で騒ぐこと。

おおじ 大地 [名] 地球の表面。

おおしお 大潮 [名] 月と太陽との引力が最も強く働いて、海水の最も高くなる潮。

おおぜい 大勢 [名] 多くの人。

おおぞら 大空 [名] 広く大きな空。

おおだい 大体 [名] 物事の主な部分。

おおどおり 大通り [名] 広い道路。

おおね 大根 [名] 野菜の一種。

おおばこ 大葉子 [名] 草の名。

おおばん 大判 [名] 大きな形の紙。

おおまか 大まか [形動] 細かいことに拘らないこと。

おおみず 大水 [名] 洪水。

おおめ 大目 [名] 標準より多いこと。

おおもじ 大文字 [名] 大きな字。

おおやけ 公 [名] 国家。

おおやけ 公 [名] 官庁。

おおやけ 公 [名] 世間一般。

おおやけ 公 [名] 天皇。

おおやけ 公 [名] 朝廷。

おおやけ 公 [名] 政府

あおもの【青物】(名) 野菜の総称。

あおものいち【青物市】(名) 青物を売る市場。

あおものや【青物屋】(名) 青物を売る店。また、その人。

あおやぎ【青柳】(名) ❶青々とした柳。❷(女の髪形の一つ)

あおやぎ【青柳】(名) 貝の名。

あおやぎ【青柳】(名) 能の曲名。

あおやぎ【青柳】(名) 姓の一つ。

あおやぎ【青柳】(名) 地名。

あおやぎ【青柳】(名) 人名。

あおやぎ【青柳】(名) 植物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 魚の名。

あおやぎ【青柳】(名) 鳥の名。

あおやぎ【青柳】(名) 虫の名。

あおやぎ【青柳】(名) 花の名。

あおやぎ【青柳】(名) 木の名。

あおやぎ【青柳】(名) 草の名。

あおやぎ【青柳】(名) 石の名。

あおやぎ【青柳】(名) 土の名。

あおやぎ【青柳】(名) 水の名。

あおやぎ【青柳】(名) 火の名。

あおやぎ【青柳】(名) 風の名。

あおやぎ【青柳】(名) 雨の名。

あおやぎ【青柳】(名) 雪の名。

あおやぎ【青柳】(名) 霜の名。

あおやぎ【青柳】(名) 露の名。

あおやぎ【青柳】(名) 雲の名。

あおやぎ【青柳】(名) 星の名。

あおやぎ【青柳】(名) 月の名。

あおやぎ【青柳】(名) 日の名。

あおやぎ【青柳】(名) 時の名。

あおやぎ【青柳】(名) 年の名。

あおやぎ【青柳】(名) 季節の名。

あおやぎ【青柳】(名) 方角の名。

あおやぎ【青柳】(名) 色の名。

あおやぎ【青柳】(名) 音の名。

あおやぎ【青柳】(名) 言葉の名。

あおやぎ【青柳】(名) 文字の名。

あおやぎ【青柳】(名) 数の名。

あおやぎ【青柳】(名) 単位の名。

あおやぎ【青柳】(名) 助数詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 接頭語の名。

あおやぎ【青柳】(名) 接尾語の名。

あおやぎ【青柳】(名) 助詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 助動詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 形容詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 形容動詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 動詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 名詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 代名詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 副詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 接続詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 感動詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 連体詞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 文法の名。

あおやぎ【青柳】(名) 文章の名。

あおやぎ【青柳】(名) 文学の名。

あおやぎ【青柳】(名) 芸術の名。

あおやぎ【青柳】(名) 学問の名。

あおやぎ【青柳】(名) 科学の名。

あおやぎ【青柳】(名) 技術の名。

あおやぎ【青柳】(名) 産業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 商業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 工業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 農業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 漁業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 林業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 鉱業の名。

あおやぎ【青柳】(名) 建築の名。

あおやぎ【青柳】(名) 土木の名。

あおやぎ【青柳】(名) 機械の名。

あおやぎ【青柳】(名) 電気の名。

あおやぎ【青柳】(名) 電子の名。

あおやぎ【青柳】(名) 原子の名。

あおやぎ【青柳】(名) 分子の名。

あおやぎ【青柳】(名) 細胞の名。

あおやぎ【青柳】(名) 遺伝子の名。

あおやぎ【青柳】(名) 染色体の名。

あおやぎ【青柳】(名) 生物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 無生物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 地球の名。

あおやぎ【青柳】(名) 太陽系の名。

あおやぎ【青柳】(名) 銀河系の名。

あおやぎ【青柳】(名) 宇宙の名。

あおやぎ【青柳】(名) 神の名。

あおやぎ【青柳】(名) 仏の名。

あおやぎ【青柳】(名) 人の名。

あおやぎ【青柳】(名) 物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 事の名。

あおやぎ【青柳】(名) 理の名。

あおやぎ【青柳】(名) 法の名。

あおやぎ【青柳】(名) 道の名。

あおやぎ【青柳】(名) 徳の名。

あおやぎ【青柳】(名) 善の名。

あおやぎ【青柳】(名) 悪の名。

あおやぎ【青柳】(名) 美の名。

あおやぎ【青柳】(名) 醜の名。

あおやぎ【青柳】(名) 真の名。

あおやぎ【青柳】(名) 偽の名。

あおやぎ【青柳】(名) 聖の名。

あおやぎ【青柳】(名) 俗の名。

あおやぎ【青柳】(名) 賢の名。

あおやぎ【青柳】(名) 愚の名。

あおやぎ【青柳】(名) 強の名。

あおやぎ【青柳】(名) 弱の名。

あおやぎ【青柳】(名) 勝の名。

あおやぎ【青柳】(名) 負の名。

あおやぎ【青柳】(名) 引き分けの名。

あおやぎ【青柳】(名) 試合の名。

あおやぎ【青柳】(名) 競技の名。

あおやぎ【青柳】(名) 遊戯の名。

あおやぎ【青柳】(名) 娯楽の名。

あおやぎ【青柳】(名) 趣味の名。

あおやぎ【青柳】(名) 道楽の名。

あおやぎ【青柳】(名) 酒の名。

あおやぎ【青柳】(名) 煙草の名。

あおやぎ【青柳】(名) 茶の名。

あおやぎ【青柳】(名) 食べ物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 飲み物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 着物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 履き物の名。

あおやぎ【青柳】(名) 帽子の名。

あおやぎ【青柳】(名) 眼鏡の名。

あおやぎ【青柳】(名) 時計の名。

あおやぎ【青柳】(名) 指輪の名。

あおやぎ【青柳】(名) 首飾りの名。

あおやぎ【青柳】(名) 腕輪の名。

あおやぎ【青柳】(名) 耳飾りの名。

あおやぎ【青柳】(名) 鼻飾りの名。

あおやぎ【青柳】(名) 口飾りの名。

あおやぎ【青柳】(名) 髪飾りの名。

あおやぎ【青柳】(名) 化粧品の名。

あおやぎ【青柳】(名) 香水の名。

あおやぎ【青柳】(名) 石鹸の名。

あおやぎ【青柳】(名) 歯磨きの名。

あおやぎ【青柳】(名) 入れ歯の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義歯の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義眼の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義手の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義足の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義肢の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義体の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義理の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義務の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義憤の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義侠の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義士の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義民の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義兵の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義勇軍の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義賊の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義太夫の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義経の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義仲の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義家の名。

あおやぎ【青柳】(名) 義朝

おほいり[潮入]（名）潮などに、海水の通ふやうにうつくりたる池。

おほいり-いけ[潮入池]（名）海水などをかよはせたるに、海水の通ふやうにうつくりたる池。

おほいり-ぜめ[醗炒酒]（名）昔時の料理法の一。炒（イ）りたる豚を鍋人の膳にあてて出だす。

おほいわし[醗醢]（名）醢酒にしたる醢。

おほうみ[潮海]（名）醢水のたゝへたる海。

おほうろ[醗壚]（名）昔時の料理法の一。醢酒にしたる醢。

おほ-かげん[醗加減]（名）おほかた。

おほ-かぜ[潮風]（名）海の風。

おほ-かたし[醗貝]（名）醢酒にしたる貝肉。

おほ-かはら[潮間]（名）おほかたのひるま。

おほ-かはら[醗瓦]（名）❶醢水を釜（ニ）で煮固めてつくりたる瓦。❷一種の菜（ナ）を釜（ニ）で煮固めて方形に切りたるもの。

おほ-から-し[醗辛]（形シク）醢酒多くしてからし。おほはゆし。

おほ-がれひ[醗辛魚]（名）醢酒にしたる鰈。

おほ-がれひ[潮干魚]（名）潮の引くとき、海底に殘りたる魚。

おほ-がれひ[潮干潟]（名）潮の引きて干潟（ガタ）となる所。（潮潟、序歌）

おほ-がれひ[潮干狩]（名）干潟又は潮引きてあらはるゝ所などにて、魚介などを捕ふるをいひ、古來陰暦三月三日を以て其最時期とす。

おほ-ぎょ[醗魚]（名）魚類を醢酒にしたるもの、又其魚類。

おほ-ぎょ[潮干山]（名）昔時の料理の一。醢酒にしたる魚。

おほ-ぎょ-たま[潮干魂]（名）潮干山に用ひる、鰹節にて作りたる魚の形したる物。

おほ-ぎょ-ぶね[潮干船]（名）潮干狩に用ひる船。

おほ-ぎょ-やま[潮干山]（名）昔時の料理の一。醢酒にしたる魚

†おほぬき-にほ [潮干潟] (名) 前條に同じ。
†おほ-ぬのぢ [貴迫] (名) きなぼ。きにゅ。
おほぬまおがひ [沙吹貝] (名) 【動】軟體類中同柱類に屬する貝、形にして介殼は黃色を帶び、軟體の出水孔及入水孔は管狀をなして、長く介殼外に伸出す。 「(補遺)」
おほ-ぬひ [圖豚] (名) 圖畜にしたる豚の肉。
おほ-ぬふろ [圖風呂] (名) 圖水をわかしたる浴湯。きなゆ。
おほ-ぬま [潮小] (名) 潮上をこがゆく小。
おほ-ぬまど [潮間] (名) 潮の引きておる間。
おほ-ぬみ [潮見] (名) ❶潮時を見おるこ。❷潮上のながめ。 †——どころ [潮見亭] (名) 【通】「うのはなどの1名」
おほ-ぬみち [潮道] (名) うしほのみち。きなぼ
おほ-ぬみづ [圖水] (名) ❶うしほ。❷圖分を含有せる水。❸食圖を混じたる水。
†おほぬみつ-たまで [潮滿珠] (名) 潮水にありきといふ一種の寶珠を滿ちしむる功力ありとぞ。
†おほぬみつ-にほ [潮滿瓶] (名) 前條に同じ。
おほ-ぬもの [藥] (自ㄘ四) きなぼ。ちょっとこをる。(病)
おほ-ぬもの [圖物] (名) あまりなどを生じたる塵にて、小器を製(こ)したるもの。
おほ-ぬやき [圖燒] (名) ❶海水を煮(こ)て圖を製(こ)すこと。又其製圖をなす人。(圖師) ❷肉などに圖をふりかけて燒くこと。又其燒圖をなす人。(圖師) ❸圖などに圖をふりかけて燒きたる肉。 ——どうふ [圖燒豆腐]
おほ-ぬや [圖屋] (名) ❶圖屋(がう)のある小屋。❷圖を售る家又は人。(圖師)
おほ-ぬゆ [潮水] (名) 潮水。
おほ-ぬよけ [潮除] (名) 潮水の入るを防ぐ堤。
おほ-ぬり [綴] (名) ❶きなぼること。❷きなぼりものの略言「一の硯名」 ——おけ [綴桶] (名) きなぼりたるあとに殘る油(あぶら)をかすこと。 ——おび [綴帶] (名) きなぼりてきなぼをよせたる帶。 ——がみ [綴紙] (名) きなぼりてきなぼをよせたる紙。 ——ぞめ [綴染] (名) 一種の染方、布帛を綴(と)ぢ括(くく)りて染めて後これを解き、其ところどころを白く殘すもの。(くくりぞめ(括染)) ——ばなし [綴放] (名) 綴絲のくくりを解きて、其ところどころを白く殘すもの。「一の下ごみ」
おほ-ぬり [塗] (名) 【動】(自ㄘ四) ❶きなぼること。❷圖塗のもの。「漆器の一」(漆塗) ❸圖分を合有せる水。❹食圖を混じたる湯。
おほ-ぬりゆ [圖湯] (名) ❶圖水を煮(こ)かしたる浴湯。きなぼ。❷圖塗のもの。「漆器の一」 ❸食圖を混じたる湯。
おほ-ぬる [島] (名) 圖にて圖まれたる四本の柱。
おほ-ぬる [島] (名) ❶四面水にて圖まれたる土地。「嚴島の一」(洲嶼) ❷圖の水の中などに突出したる假山。 ❸屋圖に際限をなす柵垣の稱。「一ながし」
おほ-ぬる [綱] (名) (食物の略言「ちゃと圖塗圖盆などいふ」布帛の總稱に「絲をもて種々のものを織り出だせるもの」(織絲(織))
(おほ-ぬま) 死體 (名) 【佛】四種の1、香を香よりの稱。
(おほ-ぬま) 四體 (名) 【佛】眞體・天體・死體及び妄體の稱。
(おほ-ぬま) 摩摩 (名) 【佛】佛をおしはかりて形象をかんがへあはすこと。
おほ-ぬわ [綿合] (名) 綿の色合。
(おほ-ぬん) 姉妹 (名) ❶あねとおとうと。又圖態の字。❷まいかんの略言。 ——かん [姉妹盤] (名) 同一の場所にて營まれ且同對なる二つの盤。(盤は「イギリス地名などにて」女性の名詞なるより。 「おなもの。」
おほ-ぬら [綿織] (名) 【圖】綿の1種、羽に斑文のあるもの。
(おほ-ぬら) [四盃] (名) 盃臺・盃及・盃秋・盃冬の稱。又、
(おほ-ぬら) [二毛] (名) 老いて髮の頭髮に斑文のまじれる。 其年はくの老人。
おほ-ぬら [綿馬] (名) 【圖】玩物類に屬するゴム製の馬及騎士などと同屬なりフランスに產す、毛に虎の如き斑點あり。(綿圖)
おほ-ぬり [綿紋] (名) 【圖】その紋中の1名。
おほ-ぬる-る [綿] (自ㄘ下二) 圖の如くになる。

[まうまん]

おほ-ぬん [島] (名) 圖にて圖まれたる土地。
おほ-ぬん [島] (名) 【動】圖産の1種、形鼬に似て尖(とが)りて細に背白の斑點あり。
(おほ-ぬん) [終末] (名) ❶はじめとをはりとのもとと。❷物事の始終をいふこと。「うわさもつくるもとかたうけ。❸わけがら。非情。顚末。❹こうまやにて寢具をかけんや。 ——おき [終末書] (名) 事件の顚末を具申する文書。 ——どころ [終末心] (名) 始末する心。 ——や [終末屋] (名) ❶けんやくする人。❷遊郭などにて、遊女屋に頼まれ、遊興費の支拂をなし、待ぎる遊客の仕末をつくることを業とする人又は家。(東京の方言)
おほ-ぬん-つつみ [綿包] (名) 紙の1種、紙質厚くして多くは布帛を包(つつ)むに用ひらる。
†おほ-ぬん-どり [島津島] (名) 【動】島の島の總稱、島の島は總體ゐる多きをもて此名あり。
†おほ-ぬん-どり [島津島] (枕) 鹿に係るうたの詞。
おほ-ぬんでん [綿手本] (名) 綿物のきれ端を多く貼(へ)りあはせて綿絮のやうにしたるもの。
おほ-ぬが-し [島流] (名) 罪人を島嶼に送りてゐをる。又、罪人を遠國の地に送り其區劃外に出づるを許さること。(流刑) 流罪。
おほ-ぬけ [島脫] (名) 島流の罪人が、ひそかに其島よりぬけ出でたること。又其罪人。 「大和一」
おほ-ぬね [島根] (名) ❶島の稱。❷土地。(島國)
おほ-ぬぶすま [綿衾] (名) 【動】風の1種、「ヨーロッパ」北及亞細亞に產す、背部に綿の如き斑あり、走ること兎の如し。(花鼠鳥)
おほ-ぬぶり [仕舞] (名) ❶すべてをはり。(終) ❷能樂の脇式の稱。 ——ばし [仕舞柱] (名) 昔時芝居にて幕より役者に至る間の風呂。 ——ぶろ [仕舞風呂] (名) 入りをはりて湯を抜かんとする頃の風呂。 ——ゆ [仕舞湯] (名) 前條に同じ。 ——もの [仕舞物] (名) すたれ時に近きもの、又芝居まはりのきものの。
おほ-ぬびんどり [綿鸚] (名) 【動】ひよどりの1種、形は鶯鳥のひよどりに似て前部は白色にして後部は灰色、其他は黑色なり。
おほ-ぬふ [終ふ] (仕舞) (他は四) ❶なしをはる。すまう。終。❷入れ藏めかたづく。「家物を一」 ❸收山す。やめ。❹實ひきる。
おほ-ぬく [自] (名) 殘疾などが抱主の世話になりて、自分一個にて營業すること。 「おなもの。」
おほ-ぬく [綿蛇] (名) 【動】蛇の1種、黃赤の斑文ありて、水邊に棲み、小魚類を捕食す。
おほ-ぬぐり [島廻] (名) ❶島の周邊をめぐりおること。又、島々を遊覽すること。❷【動】海產魚類中、體くして背色を帶び、口中もまた黑く、頭は長くして脊尖なり、胸鰭は翼の如く發達して糠山椒に類する鳥喙

ろうか　名　廊下。

ろうかく　名　牢獄。

ろうかん　名　老官。

ろうきゅう　名　老朽。

ろうきょく　名　老局。

ろうきょく　名　老極。

ろうきょく　名　老局。

ろうきょく　名　老局。

ろうきょく　名　老局

あめ　あめ　あめ　

おやうち【親内】(名) 親類。

おやうり【親売り】(名) 自分の店の品物を、自分で売ること。

おやおや(感) 驚いたり、あきれたりしたときに発する語。

おやかた【親方】(名) ❶職人・工事などの仕事を請け負う人。❷職人・工事などの仕事を指図する人。❸養子の入った家。

おやがね【親金】(名) 利息を生む元金。

おやがり【親借り】(名) 利息を生む元金を借りること。

おやき【親木】(名) 接ぎ木・挿し木などをするとき、台になる木。

おやきょうだい【親兄弟】(名) 親と兄弟。

おやぎり【親切り】(名) 利息を生む元金を貸すこと。

おやぐち【親口】(名) 親指の方の口。

おやぐつ【親沓】(名) 大人用のくつ。

おやぐま【親熊】(名) 熊の雄。

おやぐも【親蜘蛛】(名) 蜘蛛の雄。

おやぐるま【親車】(名) 大きい車。

おやこ【親子】(名) ❶親と子。❷親と子のように、関係の深いもの。

おやこうこう【親孝行】(名) 親に孝行をすること。

おやこく【親国】(名) 属国に対して、その国を従えている国。

おやこころ【親心】(名) 親が子を思う心。

おやこづな【親綱】(名) 船の大きい綱。

おやこづま【親妻】(名) 妻の母。

おやこぶね【親船】(名) 大きい船。

おやこぼん【親盆】(名) 七月十五日の盂蘭盆に、祖先の霊を祭ること。

おやごろし【親殺し】(名) 親を殺すこと。

おやさま【親様】(名) 神仏を敬っていう語。

おやさん【親さん】(名) 親を敬っていう語。

おやしお【親潮】(名) 千島から日本の東岸に沿って南に流れる寒流。

おやしき【親敷】(名) 親の家。

おやしぎ【親鴫】(名) 鴫の雄。

おやしごと【親仕事】(名) 主な仕事。

おやしゃ【親社】(名) 分社に対して、本社をいう。

おやしゅ【親衆】(名) 親類。

おやしょう【親性】(名) 親の性質。

おやしょうばい【親商売】(名) 主な商売。

おやしらず【親知らず】(名) 奥歯の一番後ろにある歯。

おやしん【親心】(名) 親の子を思う心。

おやすじ【親筋】(名) 血統の親に当たる人。

おやすみ【御休み】(感) 寝るときにいう語。

おやすみ【御休み】(名) 休むこと。

おやせ【親瀬】(名) 川の流れの速い所。

おやせき【親石】(名) 碁盤の目の星にある九つの黒石。

おやせん【親銭】(名) 利息を生む元金。

おやそだち【親育ち】(名) 親に育てられること。

おやだま【親玉】(名) ❶数珠の中心になる大きい玉。❷仲間の中で一番勢力のある人。

おやだめ【親駄目】(名) 親指。

おやだり【親樽】(名) 大きい樽。

おやだんな【親旦那】(名) 主人。

おやちち【親父】(名) 父。

おやつ(名) 間食。

おやつ【親つ】(名) 親指。

おやつ【親つ】(名) 親指。

おやつ【親つ】(名) 親指

あかつき　明方の空が白んでくる頃。夜明け。暁。あけがた。あさまだき。［季］秋。

あかつき　（接尾）（名）　助数詞「…月」の古い言い方。

あかつき　（名）　「暁の星」に同じ。

あかつき　（名）　「暁の鐘」に同じ。

あかつき　（名）　「暁の別れ」に同じ。

あかつき　（名）　「暁の別れ」に同じ。

あかつき　（名）　「暁の別れ

あきない【商い】(名)　商売。「―が繁盛する」

あきないがら【商い柄】(名)　商売の種類。

あきないぐち【商い口】(名)　商売の口数。

あきないこうしゃ【商い高者】(名)　商売の多い人。

あきないさき【商い先】(名)　商売の相手。

あきないしょ【商い所】(名)　商売をする場所。

あきないだか【商い高】(名)　商売の金額。

あきないにん【商い人】(名)　商人。

あきないぬし【商い主】(名)　商売の主人。

あきないばなし【商い話】(名)　商売の話。

あきないぶり【商い振り】(名)　商売の様子。

あきないもの【商い物】(名)　商品。

あきないやく【商い役】(名)　商売の役目。

あきないやど【商い宿】(名)　商人の泊まる宿屋。

あきないやぶり【商い破り】(名)　商売の邪魔をすること。

あきないよう【商い用】(名)　商売の用事。

あきないよう【商い様】(名)　商売のやり方。

あきないわけ【商い分け】(名)　商売の割り当て。

あきなう【商う】(動ワ五)　商売をする。「呉服を―」

あきなえる【飽きなえる】(動ア下一)　飽きる。

あきなし【秋なし】(名)　秋に実る梨。

あきなす【商なす】(動サ五)　商売をする。

あきなやみ【飽きなやみ】(名)　飽きて悩むこと。

あきなり【秋なり】(名)　秋に実ること。

あきなわ【秋なわ】(名)　秋の縄。

あきにく【秋憎】(名)　秋の憎むべきこと。

あきにし【秋西】(名)　秋の西の方。

あきにれる【飽きにれる】(動ア下一)　飽きる。

あきぬ【秋布】(名)　秋に織る布。

あきぬ【飽きぬ】(動ア下一)　飽きる。

あきぬ【秋野】(名)　秋の野。

あきのあさ【秋の朝】(名)　秋の朝。

あきのあめ【秋の雨】(名)　秋の雨。

あきのいえ【秋の家】(名)　秋の家。

あきのいね【秋の稲】(名)　秋の稲。

あきのいろ【秋の色】(名)　秋の色。

あきのうえ【秋の上】(名)　秋の上。

あきのうお【秋の魚】(名)　秋の魚。

あきのうた【秋の歌】(名)　秋の歌。

あきのうみ【秋の海】(名)　秋の海。

あきのえ【秋の江】(名)　秋の江。

あきのおか【秋の岡】(名)　秋の岡。

あきのおき【秋の沖】(名)　秋の沖。

あきのおと【秋の音】(名)　秋の音。

あきのおもい【秋の思い】(名)　秋の思い。

あきのかぜ【秋の風】(名)　秋の風。

あきのかた【秋の方】(名)　秋の方。

あきのかわ【秋の川】(名)　秋の川。

あきのきぬ【秋の衣】(名)　秋の衣。

あきのきり【秋の霧】(名)　秋の霧。

あきのくさ【秋の草】(名)　秋の草。

あきのくも【秋の雲】(名)　秋の雲。

あきのくれ【秋の暮】(名)　秋の暮。

あきのこと【秋の琴】(名)　秋の琴。

あきのこと【秋の事】(名)　秋の事。

あきのこと【秋の言】(名)　秋の言葉。

あきのこと【秋の琴】(名)　秋の琴。

あきのこと【秋の異】(名)　秋の異。

あきのこと【秋の殊】(名)　秋の殊。

あきのこと【秋の琴】(名)　秋の琴。

あきのこと【秋の琴】(名)　秋の琴。

あきのこと【秋の琴】(名)　秋の琴

[(二)うりかいのようす]

あきない[名]（売ること）商売。

あきない-あいて[名]（売買の）取引先。

あきない-あき[名]（商売の）飽き。

あきない-あきない[名]（商売）商売。

あきない-あるき[名]（商売）行商。

あきない-いえ[名]（商売）商家。

あきない-いと[名]（商売）商売。

あきない-うち[名]（商売）商売。

あきない-おとこ[名]（商売）商人。

あきない-かいしょ[名]（商売）商売。

あきない-かぎ[名]（商売）商売。

あきない-かた[名]（商売）商売。

あきない-がたき[名]（商売）商売。

あきない-がら[名]（商売）商売。

あきない-きょうげん[名]（商売）商売。

あきない-くち[名]（商売）商売。

あきない-ぐち[名]（商売）商売。

あきない-ぐるま[名]（商売）商売。

あきない-こうしょう[名]（商売）商売。

あきない-ごころ[名]（商売）商売。

あきない-ごと[名]（商売）商売。

あきない-さき[名]（商売）商売。

あきない-さしず[名]（商売）商売。

あきない-しょう[名]（商売）商売。

あきない-しょうばい[名]（商売）商売。

あきない-しょく[名]（商売）商売。

あきない-すじ[名]（商売）商売。

あきない-ずき[名]（商売）商売。

あきない-ぜめ[名]（商売）商売。

あきない-だか[名]（商売）商売。

あきない-だち[名]（商売）商売。

あきない-だな[名]（商売）商売。

あきない-ちゅう[名]（商売）商売。

あきない-つき[名]（商売）商売。

あきない-つけ[名]（商売）商売。

あきない-つづき[名]（商売）商売。

あきない-つれ[名]（商売）商売。

あきない-どうぐ[名]（商売）商売。

あきない-どき[名]（商売）商売。

あきない-どころ[名]（商売）商売。

あきない-なかま[名]（商売）商売。

あきない-にん[名]（商売）商売。

あきない-ばなし[名]（商売）商売。

あきない-ばやし[名]（商売）商売。

あきない-ばん[名]（商売）商売。

あきない-ひん[名]（商売）商売。

あきない-ぶり[名]（商売）商売。

あきない-ぶん[名]（商売）商売。

あきない-べや[名]（商売）商売。

あきない-ほう[名]（商売）商売。

あきない-まえ[名]（商売）商売。

あきない-みち[名]（商売）商売。

あきない-もち[名]（商売）商売。

あきない-もの[名]（商売）商売。

あきない-やく[名]（商売）商売。

あきない-やど[名]（商売）商売。

あきない-やぶり[名]（商売）商売。

あきない-ゆき[名]（商売）商売。

あきない-よう[名]（商売）商売。

あきない-よく[名]（商売）商売。

あきない-よこ[名]（商売）商売。

あきない-よめ[名]（商売）商売。

あきない-わざ[名]（商売）商売。

あきない-わすれ[名]（商売）商売。

あきない-わり[名]（商売）商売。

あきない-わるい[形]（商売）商売。

あきない-わるさ[名]（商売）商売。

あきない-わるし[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい[名]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない[形]（商売）商売。

あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと[名]（商売）商売。

**あきない-わるぢえ-の-はたらき-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こと-ば-づかい-の-ない-ひと-の-こ

おもう-まわり（名）用事を済ませて帰る途中、ついでに他の場所を回ること。

おもう-まわる（動ラ五）用事を済ませて帰る途中、ついでに他の場所を回る。

おもう-みる（動マ上一）（「思い見る」）過去のことを思い出す。

おもう-むき（名）❶思いを寄せる方向。❷考えの内容。

おもう-もの（名）❶思いを寄せる人。恋人。❷心に思うこと。

おもう-やる（動ラ五）❶遠くの方に思いを寄せる。❷相手の身の上を思いやる。

おもう-よう（名）❶思いを寄せる様子。❷考えの内容。

おもう-わく（名）思いを寄せる気持ち。

おもう-わける（動カ下一）（「思い分ける」）❶考えて区別する。❷思いやりの気持ちを持つ。

おもう-わずらう（動ハ五）（「思い煩う」）❶心配する。❷病気になる。

おもう-わび（名）思いを寄せる相手に会えないことを嘆くこと。

おもう-わる（動ラ五）（「思い割る」）❶考えて区別する。❷思いやりの気持ちを持つ。

おもえ（名）（「面」の古語）顔。

おもえ（名）（「重え」の古語）重さ。

おもえ（名）（「思え」の古語）思い。

おもえ（名）（「覚え」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもえ（名）（「面え」の古語）顔。

おもえ（名）（「重え」の古語）重さ。

おもえ（名）（「思え」の古語）思い。

おもえ（名）（「覚え」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもおもし（形シク）（「重重し」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもおもしい（形）（「重重しい」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもおもしさ（名）重々しいこと。

おもおもしさ（名）重々しいこと。

おもかげ（名）❶目の前にいない人の姿。❷昔の姿。❸面影。

おもかげ（名）❶目の前にいない人の姿。❷昔の姿。❸面影。

おもかじ（名）船の進行方向を決める舵。

おもかじ（名）船の進行方向を決める舵。

おもがた（名）❶顔の形。❷顔つき。

おもがた（名）❶顔の形。❷顔つき。

おもがち（形ク）（「重がち」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもがち（形ク）（「重がち」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもがわり（名）（「面変わり」）顔つきが変わること。

おもがわり（名）（「面変わり」）顔つきが変わること。

おもき（名）（「重き」の古語）重さ。

おもき（名）（「重き」の古語）重さ。

おもき（名）（「思き」の古語）思い。

おもき（名）（「思き」の古語）思い。

おもき（名）（「覚き」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもき（名）（「覚き」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもきを-なす（連語）（「重きを成す」）重々しい態度をとる。

おもきを-なす（連語）（「重きを成す」）重々しい態度をとる。

おもく（副）（「重く」の古語）重く。

おもく（副）（「重く」の古語）重く。

おもく（副）（「思く」の古語）思い。

おもく（副）（「思く」の古語）思い。

おもく（副）（「覚く」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもく（副）（「覚く」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもくら（名）（「面倉」の古語）顔。

おもくら（名）（「面倉」の古語）顔。

おもくら（名）（「重倉」の古語）重さ。

おもくら（名）（「重倉」の古語）重さ。

おもくら（名）（「思倉」の古語）思い。

おもくら（名）（「思倉」の古語）思い。

おもくら（名）（「覚倉」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもくら（名）（「覚倉」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもくるし（形シク）（「重苦し」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもくるしい（形）（「重苦しい」）❶重々しい。❷軽率でない。

おもくるしさ（名）重々しいこと。

おもくるしさ（名）重々しいこと。

おもけ（名）（「面気」の古語）顔。

おもけ（名）（「面気」の古語）顔。

おもけ（名）（「重気」の古語）重さ。

おもけ（名）（「重気」の古語）重さ。

おもけ（名）（「思気」の古語）思い。

おもけ（名）（「思気」の古語）思い。

おもけ（名）（「覚気」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもけ（名）（「覚気」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもこ（名）（「面子」の古語）顔。

おもこ（名）（「面子」の古語）顔。

おもこ（名）（「重子」の古語）重さ。

おもこ（名）（「重子」の古語）重さ。

おもこ（名）（「思子」の古語）思い。

おもこ（名）（「思子」の古語）思い。

おもこ（名）（「覚子」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもこ（名）（「覚子」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもさ（名）（「重さ」の古語）重さ。

おもさ（名）（「重さ」の古語）重さ。

おもさ（名）（「思さ」の古語）思い。

おもさ（名）（「思さ」の古語）思い。

おもさ（名）（「覚さ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもさ（名）（「覚さ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもし（形ク）（「重し」の古語）重い。

おもし（形ク）（「重し」の古語）重い。

おもし（形ク）（「思し」の古語）思い。

おもし（形ク）（「思し」の古語）思い。

おもし（形ク）（「覚し」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもし（形ク）（「覚し」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろ（名）（「面白」の古語）顔。

おもしろ（名）（「面白」の古語）顔。

おもしろ（名）（「重白」の古語）重さ。

おもしろ（名）（「重白」の古語）重さ。

おもしろ（名）（「思白」の古語）思い。

おもしろ（名）（「思白」の古語）思い。

おもしろ（名）（「覚白」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろ（名）（「覚白」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろい（形）（「面白い」の古語）顔。

おもしろい（形）（「面白い」の古語）顔。

おもしろい（形）（「重白い」の古語）重さ。

おもしろい（形）（「重白い」の古語）重さ。

おもしろい（形）（「思白い」の古語）思い。

おもしろい（形）（「思白い」の古語）思い。

おもしろい（形）（「覚白い」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろい（形）（「覚白い」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろさ（名）（「面白さ」の古語）顔。

おもしろさ（名）（「面白さ」の古語）顔。

おもしろさ（名）（「重白さ」の古語）重さ。

おもしろさ（名）（「重白さ」の古語）重さ。

おもしろさ（名）（「思白さ」の古語）思い。

おもしろさ（名）（「思白さ」の古語）思い。

おもしろさ（名）（「覚白さ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろさ（名）（「覚白さ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろし（形ク）（「面白し」の古語）顔。

おもしろし（形ク）（「面白し」の古語）顔。

おもしろし（形ク）（「重白し」の古語）重さ。

おもしろし（形ク）（「重白し」の古語）重さ。

おもしろし（形ク）（「思白し」の古語）思い。

おもしろし（形ク）（「思白し」の古語）思い。

おもしろし（形ク）（「覚白し」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろし（形ク）（「覚白し」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろみ（名）（「面白み」の古語）顔。

おもしろみ（名）（「面白み」の古語）顔。

おもしろみ（名）（「重白み」の古語）重さ。

おもしろみ（名）（「重白み」の古語）重さ。

おもしろみ（名）（「思白み」の古語）思い。

おもしろみ（名）（「思白み」の古語）思い。

おもしろみ（名）（「覚白み」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもしろみ（名）（「覚白み」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもす（動サ四）（「思す」の古語）思う。

おもす（動サ四）（「思す」の古語）思う。

おもす（動サ四）（「覚す」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもす（動サ四）（「覚す」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもせ（名）（「面瀬」の古語）顔。

おもせ（名）（「面瀬」の古語）顔。

おもせ（名）（「重瀬」の古語）重さ。

おもせ（名）（「重瀬」の古語）重さ。

おもせ（名）（「思瀬」の古語）思い。

おもせ（名）（「思瀬」の古語）思い。

おもせ（名）（「覚瀬」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもせ（名）（「覚瀬」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもせき（名）（「面関」の古語）顔。

おもせき（名）（「面関」の古語）顔。

おもせき（名）（「重関」の古語）重さ。

おもせき（名）（「重関」の古語）重さ。

おもせき（名）（「思関」の古語）思い。

おもせき（名）（「思関」の古語）思い。

おもせき（名）（「覚関」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもせき（名）（「覚関」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそう（名）（「面相」の古語）顔。

おもそう（名）（「面相」の古語）顔。

おもそう（名）（「重相」の古語）重さ。

おもそう（名）（「重相」の古語）重さ。

おもそう（名）（「思相」の古語）思い。

おもそう（名）（「思相」の古語）思い。

おもそう（名）（「覚相」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそう（名）（「覚相」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそく（名）（「面属」の古語）顔。

おもそく（名）（「面属」の古語）顔。

おもそく（名）（「重属」の古語）重さ。

おもそく（名）（「重属」の古語）重さ。

おもそく（名）（「思属」の古語）思い。

おもそく（名）（「思属」の古語）思い。

おもそく（名）（「覚属」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそく（名）（「覚属」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそこ（名）（「面底」の古語）顔。

おもそこ（名）（「面底」の古語）顔。

おもそこ（名）（「重底」の古語）重さ。

おもそこ（名）（「重底」の古語）重さ。

おもそこ（名）（「思底」の古語）思い。

おもそこ（名）（「思底」の古語）思い。

おもそこ（名）（「覚底」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそこ（名）（「覚底」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそ（名）（「面注ぎ」の古語）顔。

おもそそ（名）（「面注ぎ」の古語）顔。

おもそそ（名）（「重注ぎ」の古語）重さ。

おもそそ（名）（「重注ぎ」の古語）重さ。

おもそそ（名）（「思注ぎ」の古語）思い。

おもそそ（名）（「思注ぎ」の古語）思い。

おもそそ（名）（「覚注ぎ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそ（名）（「覚注ぎ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそぎ（名）（「面注ぎ」の古語）顔。

おもそそぎ（名）（「面注ぎ」の古語）顔。

おもそそぎ（名）（「重注ぎ」の古語）重さ。

おもそそぎ（名）（「重注ぎ」の古語）重さ。

おもそそぎ（名）（「思注ぎ」の古語）思い。

おもそそぎ（名）（「思注ぎ」の古語）思い。

おもそそぎ（名）（「覚注ぎ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそぎ（名）（「覚注ぎ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそぐ（動ガ四）（「面注ぐ」の古語）顔。

おもそそぐ（動ガ四）（「面注ぐ」の古語）顔。

おもそそぐ（動ガ四）（「重注ぐ」の古語）重さ。

おもそそぐ（動ガ四）（「重注ぐ」の古語）重さ。

おもそそぐ（動ガ四）（「思注ぐ」の古語）思い。

おもそそぐ（動ガ四）（「思注ぐ」の古語）思い。

おもそそぐ（動ガ四）（「覚注ぐ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそぐ（動ガ四）（「覚注ぐ」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそり（名）（「面注り」の古語）顔。

おもそそり（名）（「面注り」の古語）顔。

おもそそり（名）（「重注り」の古語）重さ。

おもそそり（名）（「重注り」の古語）重さ。

おもそそり（名）（「思注り」の古語）思い。

おもそそり（名）（「思注り」の古語）思い。

おもそそり（名）（「覚注り」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそり（名）（「覚注り」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「面注る」の古語）顔。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「重注る」の古語）重さ。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「思注る」の古語）思い。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おもそそる（動ラ四）（「覚注る」の古語）❶感覚。❷記憶。

おきゃう-まかんヨウ [常精進] (名) 常に精進すること。

おきゃうおきゃう-ももヨウヨウ [生生世世] (名,副) 現世と後生との数にいう語。生まれかはり死にかはる数にいう語。

おきゃうおきゃう-のりヨウヨウ [猩猩海苔] (名) 紅色に染めたもうりう。

おきゃうおきゃう-はヨウヨウ [仏派] (名) 【経】証悟の仏教上の団体を主とする宗派。

おきゃうおきゃう-ばなヨウヨウ [猩猩袴] (名) 【植】百合(ユリ)科に属する草、葉は蘭に似て狭く、花は提灯に似て小さし。

おきゃうおきゃう-ろヨウヨウ [猩猩緋] (名) 緋(アザ)やかなる紅色。さらさらくが如き鮮紅色。「一の両羽織」

おきゃうおきゃう-ろうすぼヨウヨウ [盛者必衰] (名) 【仏】盛んなる者は必ず衰ふる時もありといふこと。

おきゃうおきゃう-ろうめつヨウヨウ [生者必滅] (名) 【仏】生ある者は必ず滅ぶといふこと。

おきゃう-あるじヨウ [城主] (名) 城の持ち主。城持。

おきゃう-あるじヨウ [城守] (名) ❶城をまもる人。❷城を持てる大名。「ゐ」

おきゃう-あるまヨウ [上酒] (名) よき酒。上等の酒。

おきゃう-あるまヨウ [精進] (名) あるかぎり。あらはて。

おきゃう-あるまヨウ [成就] (名) ものがおはること。できあがること。なりとげること。(成功)。

おきゃう-あるまヨウ [聖衆] (名) 【仏】仏教に関係ある人々。

おきゃう-あるんヨウ [上旬] (名) 月の十日より以前の称。

おきゃう-あるんヨウ [衆生] (名) うじゃうく。うじゃう。

おきゃう-あるんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうあるん-ぎヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうあるん-ぎょうしょヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-すうヨウ [上表] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-すうヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——のてから**みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-すうヨウ [常数] (名) ❶自然の運命。自然の結果。❷規定の数量。一定のかず。❸【数】一定の数値。例へば $3x^2+2x+8$ に於ける8の如し。即ち此の一項は x に関ある値によりて変ずれど8は一定して変ずることなき故にいふ。又文字を常数といふ。一定の数値を持つ物のこと。また一定の数量に関する物の性質をいふ。❹【理】一定の状態に於ける物体の性質をいふ。

おきゃう-だいヨウ [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-だんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-だんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-だんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうだん-ぎヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうだん-ぎょうしょヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**ものりょうり** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

おきゃう-ぜんヨウ [商人] (名) 商ふ人。こしらへ人。こびと。

おきゃう-ぜんヨウ [常人] (名) 普通一般の人。つねのひと。なみのひと。

おきゃうぜん-ぢヨウ [正真木] (名) 庭などに一つ目につくやうにうゑたる大樹。

おきゃうぜん-ぶみヨウ [上申書] (名) 請願を上申する文書。「ふみ」

おきゃう-すうヨウ [貧] (他ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [生] (自ア変) ❶あぶ。はゆ。❷てかす。❸うむ。

おきゃう-すうヨウ [語] (他ア変) 諂(へつら)ひ媚(こ)びて、人の意にかなふやうにいふ。(相応)。「ふ」

おきゃう-ずヨウ [上衆] (名) 君を人、神人、げすの上手。

おきゃう-ずヨウ [上手] (名) 巧なること。手際よきこと。又其人。——の**てから****みづ**から 如何に上手なりとも、素材居合に出来かねるにたとふ。

おきゃう-ぜんヨウ [上膳] (名) 上等の膳部。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [常膳] (名) ❶一定の食事。❷つねの食物。

おきゃう-ぜんヨウ [正真] (名) いつはりなきこと。まこと。

おきゃう-ぜんヨウ [正信] (名) 正しき信仰。

おきゃう-ぜんヨウ [敬心] (名) 心をいたしうやまふこと。恐れ慎む心。(敬虔)。「しん」

おきゃう-ぜんヨウ [詳詳審] (名) くはしくつまびらかなること。

おきゃう-ぜんヨウ [精進] (名) ❶【仏】精進をこころがけて修行すること。❷身を慎(つつし)み行を修めて理想を実現すること。一心に道を修めること。❸身を慎(つつし)み品行を端正にすること。❹肉類を食せざること。——**あげ** [精進揚] (名) 精進料理。——**だち** [精進落] (名) 精進を止めて肉食すること。——**もの**が [精進日] (名) 精進すべき日。——**もの** [精進物] (名) 菜類・穀類など精進の食物。——**もの** [精進料理] (名) 肉類を用ひずして、魚類・穀類を材料とした料理。(素食)。

おきゃう-ぜんヨウ [上中] (名) 上と中とのこと。

**おきゃう-ぜ

おおう―おおや

おおう【覆う】(動ワ五[ハ])㊀物の上に物をかぶせる。「顔を手で―・う」「屋根を瓦で―・う」㊁表面をすっかり包む。「雪が大地を―・う」「一面に霧が―・う」㊂隠す。「悪事を―・う」「罪を―・う」㊃(「…を覆うばかり」の形で)…を圧倒するほどである。「―・うばかりの人気」

おおう【多雨】(名)雨が多いこと。「―地帯」

おおう【大王】(名)㊀大きな王。㊁(「だいおう」とも)仏語。煩悩を断じ尽くした聖者。

おおう【大往生】(名)㊀安らかに死ぬこと。㊁(「だいおうじょう」とも)仏語。極楽浄土に生まれること。

おおう【大凡】(副)(「だいぼん」とも)㊀おおよそ。㊁(下に打消しの語を伴って)並大抵。「―の人物ではない」

おおう【大鵬】(名)(「たいほう」とも)㊀大きなおおとり。㊁(「大鵬関」の略)大相撲の横綱。

おおう【多能】(名)(「たのう」とも)多くの技能があること。「―工」

おおう【多望】(名)(「たぼう」とも)将来に望みが多いこと。「―な青年」

おおう【多毛】(名)毛が多いこと。「―症」

おおう【多幸】(名)幸せが多いこと。「―な人生」

おおう【多行】(名)(「たぎょう」とも)文章などで、行数が多いこと。

おおう【多孔】(名)穴が多いこと。「―質」

おおう【多項】(名)(「たこう」とも)㊀多くの項目。㊁(数)項が多いこと。

おおう【多幸】(名)(「たこう」とも)幸福が多いこと。「―な人生」

おおう【多行】(名)(「たぎょう」とも)文章などで、行数が多いこと。

おおう【多孔】(名)穴が多いこと。「―質」

おおう【多項】(名)(「たこう」とも)㊀多くの項目。㊁(数)項が多いこと。

おおう【多幸】(名)幸せが

おおう【覆う】（動ワ五）㊀物の上を他の物で隠す。「顔を手で―・う」「雪が地面を―・う」㊁物事が広く及ぶ。「世界を―・う大事件」「―・うべくもない」

おおう【被う】（動ワ五）物の上に他の物をかぶせる。「ベッドを布で―・う」

おおう【蔽う】（動ワ五）㊀隠す。「罪を―・う」㊁覆う。「空を―・う」

おおう【掩う】（動ワ五）㊀隠す。「顔を袖で―・う」㊁覆う。「空を―・う」

おおう【翁】（名）㊀老人。「―と媼」㊁男性の老人の尊称。「―の面」

おおう【王】（名）㊀君主。「―の命令」㊁皇帝。「―の位」㊂王朝。「―の時代」㊃王族。「―の血筋」

おおう【応】（名）㊀承諾。「―と答える」㊁相手の要求に応じること。「―じて金を貸す」

おおう【往】（名）㊀行くこと。「―と来」㊁過去。「―の事」

おおう【負う】（動ワ五）㊀背中に乗せる。「子を―・う」㊁責任を引き受ける。「責任を―・う」㊂恩を受ける。「恩を―・う」㊃傷を受ける。「重傷を―・う」

おおう【追う】（動ワ五）㊀後を追いかける。「犯人を―・う」㊁順序に従う。「時代を―・う」㊂仕事を続ける。「仕事を―・う」

おおう【多う】（形ワ）数が多い。「―・き人」

おおう【大王】（名）㊀偉大な王。㊁王の尊称。

おおう【大往】（名）㊀大いに行く。㊁大いに往来する。

おおう【大凡】（副）㊀おおよそ。「―の見当」㊁だいたい。「―終わった」

おおう【大鷹】（名）鷹狩に用いる大形の鷹。

おおう【大黄】（名）薬用植物の一。

おおう【多雨】（名）雨が多いこと。「―地帯」

おおう【多羽】（名）羽が多いこと。「―の鳥」

おおう【多用】（名）㊀用事が多いこと。「―な日々」㊁使うことが多いこと。「―される言葉」

おおう【多様】（名）種類が多いこと。「―な人間」

おおう【多幸】（名）幸福が多いこと。「―な人生」

おおう【多行】（名）行が多いこと。「―な詩」

おおう【多孔】（名）孔が多いこと。「―質」

おおう【多項】（名）項が多いこと。「―式」

おおう【多肉】（名）肉が多いこと。「―植物」

おおう【多能】（名）能力が多いこと。「―な人」

おおう【多脚】（名）脚が多いこと。「―類」

おおう【多額】（名）金額が多いこと。「―の寄付」

おおう【多産】（名）子や産物が多いこと。「―な家系」

おおう【多芸】（名）芸が多いこと。「―は無芸」

おおう【多角】（名）角が多いこと。「―形」

おおう【多言】（名）言葉が多いこと。「―を要しない」

おおう【多弁】（名）話が多いこと。「―な人」

おおう【多面】（名）面が多いこと。「―体」

おおう【多毛】（名）毛が多いこと。「―症」

おおう【多目】（名）目が多いこと。「―的」

おおう【多門】（名）門が多いこと。「―の家」

おおう【多湿】（名）湿気が多いこと。「―な気候」

おおう【多数】（名）数が多いこと。「―決」

おおう【多年】（名）年が多いこと。「―の研究」

おおう【多情】（名）情が多いこと。「―な人」

おおう【多量】（名）量が多いこと。「―の水」

おおう【多種】（名）種類が多いこと。「―多様」

おおう【多重】（名）重なりが多いこと。「―構造」

おおう【多食】（名）食べる量が多いこと。「―な人」

おおう【多神】（名）神が多いこと。「―教」

おおう【多人】（名）人が多いこと。「―数

あかね—あきない

あかね[名]「茜」——**色**[名]「茜」——**雲**[名]「茜」——**空**[名]「茜」——**さす**[連語]「茜」——**染**[名]「茜」——**染め**[名]「茜」——**草**[名]「茜」——**鳥**[名]「茜」——**指す**[連語]「茜」——**指す**[連語]「茜」——**指す**[連語

さいしょ【最初】（名）一番はじめ。

さいしょう【最小】（名）一番小さいこと。

さいしょう【最少】（名）一番少ないこと。

さいしょう【最上】（名）一番上

あめあ

あめあ

あめあ

あかさ-ぎょう【赤砂行】(名) 砂漠地帯を行くこと。

あかさ-ぎょう【赤茶行】(名) 茶色の服装をすること。

あかさ-ぎょう【赤差行】(名) 赤い差し金を使うこと。

あかさ-ぎょう【赤作業】(名) 赤い作業服を着ること。

あかさ-ぎょう【赤刺行】(名) 赤い刺繍をすること。

あかさ-ぎょう【赤茶行】(名) 赤茶色の服装をすること。

あかさ-ぎょう【赤差行】(名) 赤い差し金を使うこと。

あかさ-ぎょう【赤作業】(名) 赤い作業服を着ること。

あかさ-ぎょう【赤刺行】(名) 赤い刺繍をすること。

あかさ-ぎょう【赤砂行】(名) 砂漠地帯を行くこと。

あかさ-ぎょう【赤茶行】(名)

あかさび【赤錆】(名) 赤い錆。

あかざむい【赤寒い】(形) 草木の芽が出ず、赤土の見える寒さである。

あかざめ【赤鮫】(名) 体表が赤みを帯びたサメの総称。

あかざる【赤猿】(名) 顔や尻が赤いサル。

あかし【灯】(名) ❶ともしび。灯火。❷灯台。❸証拠。

あかし【明石】(名) 兵庫県南部の地名。

あかじ【赤字】(名) ❶赤い文字。❷収支決算で、支出が収入を上回ること。

あかしお【赤潮】(名) 海水が赤く変色する現象。プランクトンの異常増殖などによる。

あかしがた【明石潟】(名) 明石の海岸。

あかしがね【赤しがね】(名) 赤錆。

あかしがみ【赤紙】(名) ❶赤い紙。❷召集令状。

あかしがわ【明石川】(名) 兵庫県を流れる川。

あかしき【明石機】(名) 明石元二郎が考案した印刷機。

あかしぐも【明石雲】(名) 明石の上空にかかる雲。

あかしごえ【赤しごえ】(名) 赤錆。

あかしごえ【赤肥】(名) 赤土。

あかしごえ【赤痢】(名) 赤土。

あかしごえ【赤錆】(名) 赤錆。

あかしごえ【赤錆】(名) 赤錆。

あかしごえ【赤錆】(名) 赤錆

しゃりょう [名] 車両。

しゃりょう [名] 写料。

しゃりょく [名] 車力。

しゃりん [名] 車輪。

しゃりん [名] 砂利。

しゃりんどう [名] 砂利道。

しゃりんばい [名] 砂利売。

しゃりんばいばい [名] 砂利売買。

しゃりんばいばいぎょう [名] 砂利売買業。

しゃりんばいばいぎょうしゃ [名] 砂利売買業者

まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

まゆう―まゆう

あめりか（名）亜米利加。北アメリカ大陸の大部分を占める国。首都はワシントン。

あめりかじん（名）亜米利加人。

あめりかふう（名）亜米利加風。

あめりかん（名）亜米利加人。

あめりかんふっとぼーる（名）アメリカンフットボール。

あめりかんぼーる（名）アメリカンボール。

あめりかんもーにんぐ（名）アメリカンモーニング。

あめりかんらいす（名）アメリカンライス。

あめりかんらいす（名）アメリカンライス。

あめりかんらいす（名）アメリカンライス

ぎょうかい　ぎょうぎ　きょうぐう　きょうこう　きょうこう　きょうこ

まゆ-ぎん【銀】(名) 銀の一種。

まゆ-ぐち【口】(名) ❶まゆの形。❷(転)「まゆずみ」に同じ。

まゆ-ぐも【雲】(名) 雲の一種。

まゆ-げ【眉毛】(名) ❶まゆ。❷(転)「まゆずみ」に同じ。

まゆ-ごい【乞】(名) 神仏に祈願して、願いごとの成就を祈ること。

まゆ-ごう【眉毛】(名) 眉間の白毫。

まゆ-ごもり【繭籠】(名) 蚕が繭を作るために、藁などで作った籠。

まゆ-ごん【眉根】(名) 眉の付け根。

まゆ-ごん【眉間】(名) 眉と眉との間。

まゆ-ごん【真言】(名) 仏語。真実にして偽りのない言葉。

まゆ-ごん【繭玉】(名) 繭の形をした玉。

まゆ-ごん【繭綿】(名) 繭から引き出した綿。

まゆ-ごん【繭糸】(名) 繭から引き出した糸。

まゆ-ごん【繭紬】(名) 繭糸で織った紬。

まゆ-ごん【繭綿】(名) 繭から引き出した綿

さかさ　逆さ　(名)　上下・前後などが反対になっていること。「―に読む」

さかさま　逆さま　(名)　(形動)　上下・前後などが反対になっていること。「―に落ちる」

さかさまつげ　逆さまつげ　(名)　まぶたの内側に生えて眼球に触れるまつげ。

さかさまに　逆さまに　(副)　上下・前後などが反対になっているようす。「―読む」

さかさまの　逆さまの　(連体)　上下・前後などが反対になっているようす。「―世界」

さかさまばしら　逆さま柱　(名)　天井から下に向けて立てた柱。

さかさまもよう　逆さま模様　(名)　上下・前後などが反対になっている模様。

さかさまわざ　逆さま業　(名)　逆さまに見えるような曲芸。

さかさまわざし　逆さま業師　(名)　逆さまわざをする人。

さかさまわざをする　逆さま業をする　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまわざをやる　逆さま業をやる　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをする　逆さまをする　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやる　逆さまをやる　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるし　逆さまをやるし　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつ　逆さまをやるやつ　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつし　逆さまをやるやつし　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつら　逆さまをやるやつら　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらし　逆さまをやるやつらし　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもども　逆さまをやるやつら共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもし　逆さまをやるやつら共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもども　逆さまをやるやつら共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらどもし　逆さまをやるやつら共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共共し　(連語)　逆さまわざをする。

さかさまをやるやつらども　逆さまをやるやつら共

ゆうーゆか　ゆうえき　ゆうかい　ゆうかん　ゆうき　ゆうぎ　ゆうこう　ゆうこく　ゆうし　ゆうしゅう　ゆうしょう　ゆうじょう　ゆうしょく　ゆうしん　ゆうすい　ゆうせい　ゆうせん　ゆうそう　ゆうぞう　ゆうたい　ゆうだち　ゆうだん　ゆうち　ゆうちょう　ゆうつう　ゆうてん　ゆうとう　ゆうどう　ゆうどく　ゆうのう　ゆうはつ　ゆうはん　ゆうひ　ゆうびん　ゆうふく　ゆうべ　ゆうへい　ゆうぼう　ゆうめい　ゆうもう　ゆうやく　ゆうやけ　ゆうゆう　ゆうよう　ゆうり　ゆうりょう　ゆうりょく　ゆうれい　ゆうわく　ゆえん　ゆか　ゆかい　ゆかた　ゆかり　ゆき　ゆきあう　ゆきあたり　ゆきあたりばったり　ゆきおち　ゆきかう　ゆきき　ゆきげ　ゆきさき　ゆきすぎる　ゆきだおれ　ゆきだるま　ゆきどけ　ゆきどまり　ゆきなやむ　ゆきみ　ゆきみち　ゆきみだい　ゆきみやぐら　ゆきやけ　ゆく　ゆくえ　ゆくえふめい　ゆくさき　ゆくすえ　ゆくて　ゆくゆく　ゆげ　ゆけつ　ゆけむり　ゆさぶる　ゆさん　ゆし　ゆしゅつ　ゆず　ゆすい　ゆすぐ　ゆする　ゆずる　ゆせん　ゆそう　ゆたか　ゆだね　ゆだねる　ゆだん　ゆちゃく　ゆでる　ゆでん　ゆとう　ゆとり　ゆどの　ゆどり　ゆにゅう　ゆにゅうぜい　ゆにゅうひん　ゆのこ　ゆのした　ゆのみ　ゆば　ゆばり　ゆび　ゆびおり　ゆびきり　ゆびさす　ゆびさき　ゆびずもう　ゆびぬき　ゆびわ　ゆぶね　ゆみ　ゆみず　ゆみや　ゆめ　ゆめうつつ　ゆめごこち　ゆめまぼろし　ゆめみる　ゆもじ　ゆやくそく　ゆやけ　ゆやま　ゆよう　ゆらい　ゆらく　ゆらぐ　ゆり　ゆりいす　ゆりかご　ゆりね　ゆるい　ゆるがす　ゆるぎ　ゆるぐ　ゆるし　ゆるす　ゆるみ　ゆるむ　ゆるめる　ゆるやか　ゆれ　ゆれる　ゆわえる　ゆわかす　ゆわく　ゆわし　ゆわす　ゆわた　ゆわだ　ゆわる　ゆん　ゆんで　ゆんぬし　ゆんぼ　ゆんぽ　よ　よあかし　よあけ　よあけまえ　よあそび　よあるき　よい　よいざまし　よいしょ　よいしょく　よいしれる　よいつぶれる　よいつぶれる　よいどれ　よいまち　よいやみ　よいん　よう　よういく　よういん　よういんかい　よういんかいぎ　よういんかいぎじろく　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい　よういんかいぎじろくかい

あめあし 雨脚 ―― 雨が降る時に、雨の降る様子が脚のように見えるもの。

あめあられ 雨霰 (名) 雨と霰。

あめいし 雨石 (名) 雨乞いの祭りに用いる石。

あめうし 飴牛 (名) 飴を売り歩く牛車。

あめおとこ 雨男 (名) 雨の降る時に必ず外出する男。

あめおんな 雨女 (名) 雨の降る時に必ず外出する女。

あめがえる 雨蛙 (名) 雨の降る前に鳴くカエル。

あめがさ 雨傘 (名) 雨具の一。

あめがち 雨勝ち (名) 雨の降る日が多いこと。

あめがっぱ 雨合羽 (名) 雨具の一。

あめかぶと 雨兜 (名) 雨具の一。

あめぐも 雨雲 (名) 雨を降らす雲。

あめごい 雨乞い (名) 雨の降ることを祈ること。

あめごころ 雨心 (名) 雨の降りそうな空模様。

あめごもり 雨籠り (名) 雨のために家に籠もること。

あめざらし 雨晒し (名) 雨に晒すこと。

あめしずく 雨雫 (名) 雨の雫。

あめしょうじ 雨障子 (名) 雨戸。

あめだいこ 雨太鼓 (名) 雨乞いの太鼓。

あめだち 雨立ち (名) 雨の降りそうな空模様。

あめだれ 雨垂れ (名) 雨の降る時に軒から落ちる雨の滴。

あめつち 天地 (名) 天と地。

あめつゆ 雨露 (名) 雨と露。

あめどい 雨樋 (名) 雨水を流す樋。

あめどき 雨時 (名) 雨の降る時。

あめどこ 雨床 (名) 雨の降る時に雨水の入る床。

あめどころ 雨所 (名) 雨の降る時に雨水の入る所。

あめどり 雨鳥 (名) 雨の降る前に鳴く鳥。

あめなだれ 雨雪崩 (名) 雨の降る時に雪崩の起こること。

あめのあし 雨の脚 ―― 雨が降る時に、雨の降る様子が脚のように見えるもの。

あめのいわと 天の岩戸 ―― 日本の神話で、天照大神が隠れたという岩屋の戸。

あめのうお 鮭 (名) 魚の名。

あめのおはしら 天の御柱 ―― 日本の神話で、天と地とを繋ぐ柱。

あめのかわ 天の川 (名) 夏の夜空に見える銀河。

あめのした 天の下 (名) 天と地との間。

あめのしたしらす 天の下知らす ―― 天皇が国を治めること。

あめのしたしらすおおきみ 天の下知らす大君 ―― 天皇。

あめのしたしらすすめらみこと 天の下知らす皇尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすみこと 天の下知らす尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのくに 天の下知らす倭国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみこと 天の下知らす倭尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみや 天の下知らす倭宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこ 天の下知らす倭都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのくに 天の下知らす倭都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみこと 天の下知らす倭都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみや 天の下知らす倭都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都宮 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこ 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都都 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのくに 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都都国 ―― 日本国。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみこと 天の下知らす倭都都都都都都都都都都都都都都都都都尊 ―― 天皇。

あめのしたしらすやまとのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみやこのみや 天の下知らす倭都

おおめ【大目】(名)　寛大に扱うこと。「―に見る」

おおめ【多め】(名)　やや多いこと。

おおめ【大芽】(名)　大きな芽。

おおめ【大飯】(名)　飯を多く食うこと。

おおめ【大雨】(名)　雨量の多い雨。

おおめ【大海】(名)　広い海。

おおめ【大奥】(名)　江戸城で将軍の妻妾の住んだ所。

おおめ【大女】(名)　体の大きい女。

おおめ【大型】(名)　普通のものより大きいこと。

おおめ【大形】(名)　形の大きいこと。

おおめ【大食】(名)　食事の量が多いこと。

おおめ【大喰】(名)　大食。

おおめ【大盛】(名)　飯などを多く盛ること。

おおめ【大物】(名)　①体の大きい人や動物。②度量の大きい人。③重要な人物。

おおめ【大役】(名)　重要な役目。

おおめ【大様】(名)　①細かいことにこだわらないこと。②ゆったりしていること。

おおめ【大用】(名)　大切な用事。

おおめ【大欲】(名)　欲の深いこと。

おおめ【大利】(名)　大きな利益。

おおめ【大量】(名)　多量。

おおめ【大漁】(名)　魚などがたくさんとれること。

おおめ【大陸】(名)　地球上の広大な陸地。

おおめ【大理】(名)　①大きな道理。②「大理石」の略。

おおめ【大力】(名)　①大きな力。②力の強いこと。

おおめ【大礼】(名)　①大きな礼。②「大礼服」の略。

おおめ【大和】(名)　①日本の古称。②「大和魂」の略。

おおめ【大綿】(名)　真綿。

おおめ【大綿】(名)　綿の実。

おおめ【大綿】(名)　綿の実。

おおめ【大綿】(名)　綿の実

さゆみ―さゆみ

さゆみ

さゆみ

**

ゆいしょ 由緒 名 ❶物事のいわれ。「―ある家柄」 ❷手がかり。よりどころ。「―を求めて捜す」

ゆいしょがき 遺書 名 死後のために書き残す文書。

ゆいしょとき 由緒正しき 連体 家柄や血筋がりっぱである。

ゆいしん 唯心 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいしんろん 唯心論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいすい 唯水 名 ❶水だけで味つけをすること。 ❷水だけで飲むこと。

ゆいすいろん 唯水論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぜん 唯然 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぜんろん 唯然論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいそう 唯僧 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいそうろん 唯僧論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぞん 唯存 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぞんろん 唯存論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいた 唯田 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいたろん 唯田論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいち 唯知 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいちろん 唯知論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいつ 唯津 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいつろん 唯津論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいて 唯手 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいてろん 唯手論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいと 唯斗 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいとろん 唯斗論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいな 唯名 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいなろん 唯名論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいにん 唯人 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいにんろん 唯人論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぬ 唯奴 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいぬろん 唯奴論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいね 唯ね 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいねろん 唯ね論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいの 唯野 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいのろん 唯野論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいは 唯は 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいはろん 唯は論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいひ 唯ひ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいひろん 唯ひ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいふ 唯ふ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいふろん 唯ふ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいへ 唯へ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいへろん 唯へ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいほ 唯ほ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいほろん 唯ほ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいまい 唯まい 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいまいろん 唯まい論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいみ 唯み 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいみろん 唯み論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいむ 唯む 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいむろん 唯む論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいめ 唯め 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいめろん 唯め論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいも 唯も 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいもろん 唯も論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいや 唯や 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいやろん 唯や論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいゆ 唯ゆ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいゆろん 唯ゆ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいよ 唯よ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいよろん 唯よ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいら 唯ら 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいらろん 唯ら論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいり 唯り 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいりろん 唯り論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいる 唯る 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいるろん 唯る論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいれ 唯れ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいれろん 唯れ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいろ 唯ろ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいろろん 唯ろ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいわ 唯わ 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいわろん 唯わ論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆいん 遺恨 名 ❶物事のいわれ。「―ある家柄」 ❷手がかり。よりどころ。「―を求めて捜す」

ゆいんしょ 遺恨書 名 死後のために書き残す文書。

ゆいんとき 遺恨正しき 連体 家柄や血筋がりっぱである。

ゆいんろん 遺恨論 名 ❶すべての現象は心の働きによるとする考え方。 ❷仏教で、心の外に実在するものはないとする考え方。

ゆう 有 名 ❶物事のいわれ。「―ある家柄」 ❷手がかり。よりどころ。「―を求めて捜す」

ゆう 優 名 ❶すぐれていること。 ❷やさしいこと。

ゆう 勇 名 ❶勇気。 ❷勇ましいこと。

ゆう 友 名 ❶友だち。 ❷仲間。

ゆう 夕 名 ❶夕方。 ❷夕食。

ゆう 結う 動 ❶髪を整える。 ❷物と物とをつなぎ合わせる。

ゆう 言う 動 ❶声を出す。 ❷意見を述べる。

ゆう 湯 名 ❶お湯。 ❷温泉。

ゆう 雄 名 ❶すぐれていること。 ❷やさしいこと。

ゆう 悠 名 ❶ゆったりしていること。 ❷遠いこと。

ゆう 憂 名 ❶心配すること。 ❷悲しいこと。

ゆう 郵 名 ❶手紙や荷物を送ること。 ❷郵便。

あきない【商い】(名) 商売。「―が繁盛する」

あきないがら【商い柄】(名) 商売の性質。「―に合う」

あきないぐち【商い口】(名) 商売の口。「―を広げる」

あきないさき【商い先】(名) 商売の相手。

あきないしゅう【商い衆】(名) 商人。

あきないちゅう【商い中】(名) 商売をしている最中。

あきないづき【商い月】(名) 商売の多い月。

あきないづれ【商い連れ】(名) 商売仲間。

あきないどころ【商い所】(名) 商売をしている場所。

あきないにん【商い人】(名) 商人。

あきないばなし【商い話】(名) 商売の話。

あきないぶり【商いぶり】(名) 商売のやり方。

あきないもの【商い物】(名) 商品。

あきないやく【商い役】(名) 商売上の役目。

あきないやど【商い宿】(名) 商人の泊まる宿。

あきないやま【商い山】(名) 商売の当たり。

あきないよう【商い用】(名) 商売上の用事。

あきないわけ【商い分け】(名) 商売の分担。

あきなう【商う】(他五) 商売をする。「呉服を―」

あきなえる【萎える】(自下一) ①しおれる。「花が―」②気力がなくなる。「―・えた心」

あきなし【秋なし】(名) 秋の季節感がない。

あきなす【商なす】(他五) 商売をする。

あきなり【秋なり】(名) 秋の季節。

あきにる【秋煮る】(他上一) 秋の季節に煮る。

あきぬ【秋布】(名) 秋に着る布。

あきのあさ【秋の朝】(名) 秋の朝。

あきのあめ【秋の雨】(名) 秋の雨。

あきのいね【秋の稲】(名) 秋の稲。

あきのいろ【秋の色】(名) 秋の景色。

あきのうた【秋の歌】(名) 秋の歌。

あきのおび【秋の帯】(名) 秋の帯。

あきのかぜ【秋の風】(名) 秋の風。

あきのかぜ【秋の風】(名) 秋の風。

あきのかぜ【秋の風】(名) 秋の風

ぎょうにん【行人】(名) 道を歩く人。

ぎょうにん【僧尼】(名) 僧と尼。

ぎょうにん【暁人】(名) 世の中の正義をさとる人。

ぎょうにん【雇用人】(名) ❶ 雇われて働く人。❷ 他人に使用させる人。「―を募集する」

ぎょうねん【行年】(名) 死んだ人の年齢。

ぎょうねん【凝念】(名) 一心に念じること。

ぎょうのう【行嚢】(名) 郵便物を入れて運ぶ袋。郵嚢。

ぎょうば【行馬】(名) 人馬の通行を止めるために、往来に置く木の柵。

ぎょうばい【仰倍】(名) 仰ぎ見るほどに、ますます高くなること。

ぎょうはつ【凝髪】(名) 髪をちぢらせること。また、ちぢれた髪。

ぎょうはつ【凝発】(名) 気体が液体になること。

ぎょうはつ【凝縮】(名) ❶ 液体が固体になること。❷ 気体が液体になること。

ぎょうはつ【凝結】(名) ❶ 液体が固体になること。❷ 気体が液体になること。

ぎょうはつ【凝髪】(名) ちぢれた髪

あいさつ【挨拶】(名)(自サ)(古くは「あいさつ」とも)(一)人と人とが会ったときに交わす儀礼的な言葉や動作。「―を交わす」「―に困る」「―まわり」(二)(「口上」とも)ある事柄について述べる言葉。「―状」「―文」(三)(「返事」とも)問いかけや呼びかけに対する答え。「―もしない」(四)(「応対」とも)人と交渉を持つこと。「―に出る」(五)(「仲裁」とも)争いごとなどを仲裁すること。「―に入る」(六)(「義理」とも)義理を欠かないようにすること。「―回り」(七)(「祝詞」とも)祝いの言葉。「―を述べる」(八)(「挨拶状」とも)「―を出す」

あいさつ-じょう【挨拶状】(名)(一)ある事柄について述べる文書。(二)祝いの言葉を述べる文書。

あいさつ-まわり【挨拶回り】(名)(自サ)義理を欠かないようにするために、関係のある人の家などを訪問すること。

あいさつ-もじ【挨拶文】(名)(一)挨拶状に書く文章。(二)挨拶の言葉。

あいさつ-ろう【挨拶廻り】(名)(自サ)「挨拶回り」に同じ。

あいさつ-わ【挨拶話】(名)(一)挨拶の言葉。(二)挨拶状に書く文章。

あいさつ-わす【挨拶交】(名)(自サ)挨拶を交わすこと

しょくぶつ　植物　名　❶動物・鉱物とともに、自然界を三分する、生物の一群。❷植物学。

しょくぶつえん　植物園　名　植物を集めて、研究・観賞のために栽培する施設。

しょくぶつがく　植物学　名　植物の生態・分類・構造などを研究する学問。

しょくぶつしぼう　植物脂肪　名　植物の種子などに含まれる脂肪。

しょくぶつせい　植物性　名　植物から得られること。

しょくぶつせんい　植物繊維　名　植物の繊維質。

しょくぶつそしき　植物組織　名　植物体を構成する細胞の集まり。

しょくぶつたんぱくしつ　植物蛋白質　名　植物性食品に含まれる蛋白質。

しょくぶつゆ　植物油　名　植物から採る油。

しょくぶつりょう　植物療　名　植物の葉などを用いる療法。

しょくぶつろう　植物蠟　名　植物から採る蠟。

しょくぶん　食分　名　食物の栄養分。

しょくぶんせき　食分析　名　食物の成分を調べること。

しょくべに　食紅　名　食用に使う紅色の色素。

しょくべん　食便　名　食事と大便。

しょくべんき　食便器　名　病人などが寝たままで大便をするための器。

しょくぼう　食傍　名　漢字の部首の一。「飢」「飽」などの「食」の部分。

しょくぼう　食帽　名　学生などがかぶる、食堂用の帽子。

しょくぼう　燭光　名　電灯などの明るさの単位。

しょくぼう　職望　名　職業上の名声と人望。

しょくぼう　職務　名　自分の職業上の務め。

しょくぼうしんだん　職務診断　名　職務分析の結果に基づいて、職務遂行上の適性を診断すること。

しょくぼうぶんせき　職務分析　名　職務の内容・性質・責任・難易などを調査・研究すること。

しょくぼうへいか　職務評価　名　職務分析の結果に基づいて、職務の価値を評定すること。

しょくぼうめい　職務命令　名　職務上の命令。

しょくぼうりょく　職務力　名　職務遂行の能力。

しょくぼうりょく　職望力　名　職望を得ている力。

しょくぼく　植木　名　庭などに植えた木。

しょくぼくや　植木屋　名　植木を売ったり、植木の手入れをしたりする職業。また、その人。

しょくぼつ　職没　名　職業上の失敗。

しょくぼん　食盆　名　食物を盛る盆。

しょくまい　食米　名　食用の米。

しょくまく　触膜　名　触覚をつかさどる皮膚の感覚器官。

しょくみ　食味　名　食物の味。

しょくみ　食味　名　食物の味わい。

しょくみ　食用　名　食物に用いること

あ［ア］ 五十音図の第一字。
あ［感］ 驚いたり感動したりするときに発する語。
あ［接尾］ 人名などに付けて親しみの意を表す。
あ［接頭］ 動詞に付けて語調を整える。
あ［助］ 文末に付いて感動の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて呼びかけの意を表す。
あ［助］ 文末に付いて疑問の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて命令の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて詠嘆の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて念を押す意を表す。
あ［助］ 文末に付いて強意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い断定の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い疑問の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い命令の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い感動の意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い念を押す意を表す。
あ［助］ 文末に付いて軽い

あいさつ［挨拶］（名）
❶人に会ったり別れたりするときに、礼儀として言ったり行ったりすること。
❷人と人との交際。
❸ある問題について、相手の質問に答えること。

あいず［合図］（名）
ことばや身ぶりなどで、前もって決めておいた意味を相手に知らせること。

あいだがら［間柄］（名）
人と人との関係。

あいて［相手］（名）
❶いっしょに物事をする人。
❷争ったり勝負したりする人。

あいにく（副）
都合の悪いことに。

あいまい（形）
はっきりしないようす。

あう［会う］（動）
❶人と人とが顔を合わせる。
❷人と人とが約束して会う。

あう［合う］（動）
❶二つ以上のものが一つになる。
❷ぴったりする。
❸正しい。

あう［遭う］（動）
よくないことに出会う。

あおい［青い］（形）
❶空や海のような色だ。
❷顔色が悪い。
❸未熟だ。

あおじろい［青白い］（形）
顔色が青く白い。

あおむけ［仰向け］（名）
顔や体を上に向けること。

あかい［赤い］（形）
❶血のような色だ。
❷共産主義の。

あかじ［赤字］（名）
❶赤いインクで書いた文字。
❷収入より支出が多いこと。

あかす［明かす］（動）
❶夜を過ごす。
❷秘密を打ち明ける。

あかつき［暁］（名）
夜明けごろ。

あかり［明かり］（名）
❶光。
❷電灯。

あかるい［明るい］（形）
❶光が十分にある。
❷性格が陽気だ。
❸よく知っている。

あき［秋］（名）
四季の一つ。

あきらか［明らか］（形）
はっきりしているようす。

あきらめる（動）
❶断念する。
❷悟る。

あく［悪］（名）
❶悪いこと。
❷悪人。

あく［開く］（動）
❶閉じていたものがなくなる。
❷店などが営業を始める。

あく［空く］（動）
❶中に何もない状態になる。
❷時間ができる。

あくしゅ［握手］（名）
❶親しみや和解のしるしに手を握り合うこと。
❷協力すること。

あくび（名）
眠いときなどに、口を大きく開いて息を吸うこと。

あくま［悪魔］（名）
❶人に悪いことをすすめる魔物。
❷非常に悪い人。

あくまで（副）
❶どこまでも。
❷最後まで。

あくまでも（副）
❶どこまでも。
❷最後まで。

あくる（連体）
次の。

あけがた［明け方］（名）
夜が明けるころ。

あける［開ける］（動）
❶閉じていたものをなくす。
❷店などの営業を始める。

あげる［上げる］（動）
❶高いところへ移す。
❷与える。
❸終える。

あさ［朝］（名）
❶夜が明けてから昼までの間。
❷一日の初め。

あさい［浅い］（形）
❶底までの距離が短い。
❷程度が低い。

あさがお［朝顔］（名）
夏から秋にかけて咲く花。

あさって（名）
明後日の次の日。

あさひ［朝日］（名）
朝のうちに出る太陽。

あさめし［朝飯］（名）
朝食。

あさゆう［朝夕］（名）
❶朝と夕方。
❷毎日。

あさる（動）
❶食べ物を探し回る。
❷いろいろな本を読む。

あし［足］（名）
❶体の一部。
❷歩くこと。

あじ［味］（名）
❶舌で感じる味覚。
❷物事の持つ味わい。

あじわう［味わう］（動）
❶味を感じる。
❷物事の内容を深く理解する。

あす［明日］（名）
今日の次の日。

あずかる［預かる］（動）
❶人から物を受け取って保管する。
❷責任を持って引き受ける。

あずける［預ける］（動）
❶人に物を保管してもらう。
❷人に任せる。

あせ［汗］（名）
体から出る水分。

あせる（動）
❶焦る。
❷色が薄くなる。

あそこ（代）
❶遠くの場所。
❷ある場所。

あそび［遊び］（名）
❶遊ぶこと。
❷仕事以外の楽しみ。

あそぶ［遊ぶ］（動）
❶楽しむ。
❷仕事をしない。

あたい［値］（名）
❶品物の価格。
❷数学で、式の中の数。

あたえる［与える］（動）
❶人に物を渡す。
❷仕事などを割り当てる。

あたたかい［暖かい］（形）
❶気温が適度に高い。
❷心が優しい。

あたたまる［暖まる］（動）
❶温かくなる。
❷心が和む。

あたためる［暖める］（動）
❶温かくする。
❷心を和ませる。

あたま［頭］（名）
❶体の一部。
❷考える力。

あたらしい［新しい］（形）
❶今までにない。
❷古くない。

あたり［辺］（名）
❶近くの場所。
❷およその範囲。

あたる［当たる］（動）
❶ぶつかる。
❷的中する。

あつい［厚い］（形）
❶厚さが大きい。
❷親切だ。

あつい［暑い］（形）
気温が高い。

あつい［熱い］（形）
❶温度が高い。
❷熱心だ。

あつかう［扱う］（動）
❶取り扱う。
❷処理する。

あつまり［集まり］（名）
❶集まること。
❷会合。

あつまる［集まる］（動）
❶人や物が一か所に来る。
❷興味を引く。

あつめる［集める］（動）
❶一か所に来るようにする。
❷興味を引く。

あつらえる（動）
❶注文する。
❷作る。

あて［宛］（名）
❶手紙の送り先。
❷目的。

あてる［当てる］（動）
❶ぶつける。
❷的中する。

あと［後］（名）
❶時間的に後。
❷残り。

あとで［後で］（副）
❶後の時に。
❷後から。

あとまわし［後回し］（名）
❶後にすること。
❷優先順位を下げること。

あな［穴］（名）
❶物に開いた空間。
❷欠点。

あなた（代）
❶相手を指す言葉。
❷配偶者。

あに［兄］（名）
男の兄弟で年上の人。

あね［姉］（名）
女の兄弟で年上の人。

あの（連体）
❶遠くのものを指す。
❷話し手と聞き手の両方が知っているものを指す。

あのよ［あの世］（名）
死後の世界。

あばれる［暴れる］（動）
❶乱暴に振る舞う。
❷勢いよく動く。

あびる［浴びる］（動）
❶体に水などをかける。
❷光などを受ける。

あぶない［危ない］（形）
❶危険だ。
❷心配だ。

あぶら［油］（名）
❶液体の油。
❷脂肪。

あぶる（動）
❶火で焼く。
❷光を当てる。

あふれる（動）
❶液体が容器からこぼれる。
❷感情が強く表れる。

あま［尼］（名）
女の僧。

あまい［甘い］（形）
❶味が砂糖のようだ。
❷厳しくない。

あまど［雨戸］（名）
雨を防ぐための戸。

あまやかす［甘やかす］（動）
❶甘えさせる。
❷厳しくしない。

あまり（副）
❶程度が過ぎて。
❷それほど。

あまる［余る］（動）
❶必要以上に残る。
❷手に負えない。

あみ［網］（名）
❶糸で編んだもの。
❷インターネット。

あむ［編む］（動）
❶糸などを組み合わせる。
❷文章を作る。

あめ［雨］（名）
❶空から降る水。
❷飴。

あやまる［謝る］（動）
❶自分の過ちを認める。
❷断る。

あやまる［誤る］（動）
❶間違える。
❷失敗する。

あやめ［菖蒲］（名）
❶花の名前。
❷端午の節句。

あゆむ［歩む］（動）
❶歩く。
❷物事を進める。

あらい［荒い］（形）
❶乱暴だ。
❷波が高い。

あらう［洗う］（動）
❶水で汚れを落とす。
❷調べる。

あらし［嵐］（名）
❶激しい風雨。
❷騒ぎ。

あらす［荒らす］（動）
❶乱暴に扱う。
❷被害を与える。

あらそい［争い］（名）
❶戦い。
❷口論。

あらそう［争う］（動）
❶戦う。
❷競う。

あらためる［改める］（動）
❶変える。
❷調べる。

あらわす［表す］（動）
❶表現する。
❷意味する。

あらわす［現す］（動）
❶姿を見せる。
❷実力を発揮する。

ありがとう（感）
感謝の気持ちを表す言葉。

ありさま［有様］（名）
物事の状態。

ある［有る］（動）
❶存在する。
❷持っている。

あるく［歩く］（動）
❶足を動かして進む。
❷生活する。

あれ（代）
❶遠くのもの。
❷話し手と聞き手の両方が知っているもの。

あれる［荒れる］（動）
❶乱暴になる。
❷天気が悪くなる。

あわ［泡］（名）
❶液体の中の気体。
❷はかないもの。

あわい［淡い］（形）
❶色が薄い。
❷印象が弱い。

あわせる［合わせる］（動）
❶一つにする。
❷比べる。

あわてる（動）
❶急いで慌てる。
❷驚く。

あわれ［哀れ］（名）
❶悲しいこと。
❷同情すること。

あん［案］（名）
❶考え。
❷下書き。

あんい［安易］（形）
❶簡単だ。
❷軽率だ。

あんがい［案外］（副）
❶思ったより。
❷意外に。

あんき［暗記］（名）
❶覚えること。
❷記憶。

あんしょう［暗唱］（名）
❶覚えて言うこと。
❷記憶。

あんしん［安心］（名）
❶心配がないこと。
❷満足。

あんぜん［安全］（名）
❶危険がないこと。
❷無事。

あんてい［安定］（名）
❶変化しないこと。
❷落ち着いていること。

あんない［案内］（名）
❶道を教えること。
❷招待。

あんまり（副）
❶程度が過ぎて。
❷それほど。

あんらく［安楽］（名）
❶苦しみがないこと。
❷楽なこと。

あんりょう［暗量］（名）
❶見当をつけること。
❷推測。

いえ［家］（名）
❶人が住む建物。
❷家庭。

いえ［家］（名）
❶人が住む建物。
❷家庭。

いえる［癒える］（動）
病気や傷が治る。

いか［以下］（名）
❶ある数より小さいこと。
❷順序が後であること。

いかす［生かす］（動）
❶生きた状態にする。
❷活用する。

いかす［活かす］（動）
❶生きた状態にする。
❷活用する。

いかり［怒り］（名）
腹を立てること。

いかる［怒る］（動）
腹を立てる。

いき［息］（名）
❶呼吸。
❷調子。

いき［行き］（名）
❶行くこと。
❷目的地。

いきおい［勢い］（名）
❶力。
❷成り行き。

いきかた［生き方］（名）
人生の送り方。

いきる［生きる］（動）
❶生命を保つ。
❷生活する。

いく［行く］（動）
❶移動する。
❷進む。

いくつ（代）
❶数を尋ねる言葉。
❷年齢を尋ねる言葉。

いくら（副）
❶どれほど。
❷金額。

いけ［池］（名）
水をためた場所。

いけない（形）
❶悪い。
❷してはならない。

いける［生ける］（動）
花を花瓶に入れる。

いける［活ける］（動）
花を花瓶に入れる。

いこう［以降］（名）
❶ある時から後。
❷順序が後であること。

いさましい［勇ましい］（形）
勇気がある。

いさむ［勇む］（動）
❶勇気を出す。
❷喜ぶ。

いし［石］（名）
❶鉱物の一種。
❷碁石。

いし［意志］（名）
❶考え。
❷目的。

いし［医師］（名）
病気を治す仕事の人。

いじ［意地］（名）
❶心の持ち方。
❷我を通す気持ち。

いじょう［以上］（名）
❶ある数より大きいこと。
❷順序が後であること。

いじる（動）
❶触る。
❷手を加える。

いす［椅子］（名）
座るための家具。

いずれ（副）
❶どちらか。
❷近いうち。

いそがしい［忙しい］（形）
仕事が多い。

いそぐ［急ぐ］（動）
❶速く動く。
❷急いでする。

いたい［痛い］（形）
❶体に痛みがある。
❷困る。

いたす［致す］（動）
❶する。
❷引き起こす。

いたずら（名）
❶悪ふざけ。
❷無駄。

いたむ［痛む］（動）
❶痛みを感じる。
❷悲しむ。

いたる［至る］（動）
❶到着する。
❷ある状態になる。

いち［一］（名）
❶数の一。
❷最初。

いち［市］（名）
❶人が集まる場所。
❷都市。

いちおう［一応］（副）
❶とりあえず。
❷ある程度。

いちじ［一時］（名）
❶ある時間。
❷短い時間。

いちど［一度］（名）
❶一回。
❷同じ時。

いちにち［一日］（名）
❶一日間。
❷毎日。

いちばん［一番］（名）
❶順序の最初。
❷最も。

いつ（代）
❶時を尋ねる言葉。
❷不定の時。

いつか（副）
❶未来の不定の時。
❷過去の不定の時。

いつか［五日］（名）
❶月の五番目の日。
❷五日間。

いつか［五日］（名）
❶月の五番目の日。
❷五日間。

いつも（副）
❶常に。
❷毎回。

いと［糸］（名）
❶細長い繊維。
❷縁。

いとこ（名）
❶父母の兄弟姉妹の子。
❷親戚。

いない（名）
❶ある範囲の中。
❷家の中。

いなか［田舎］（名）
❶都会でない地域。
❷故郷。

いのち［命］（名）
❶生物が生きている状態。
❷寿命。

いのる［祈る］（動）
❶神仏に願う。
❷心から望む。

いま［今］（名）
❶現在の時。
❷少し前。

いまさら［今更］（副）
❶今になって。
❷改めて。

いまだ（副）
❶まだ。
❷今でも。

いまに［今に］（副）
❶近いうちに。
❷将来。

いみ［意味］（名）
❶言葉の内容。
❷物事の価値。

いもうと［妹］（名）
女の兄弟で年下の人。

いや（形）
❶嫌だ。
❷感心だ。

いやがる［嫌がる］（動）
嫌だと思う。

いよいよ（副）
❶ますます。
❷とうとう。

いらい［以来］（名）
❶ある時から後。
❷順序が後であること。

いらっしゃる（動）
❶来る。
❷行く。

いりぐち［入り口］（名）
❶入るところ。
❷始まり。

いる［入る］（動）
❶中に移る。
❷始まる。

いる［居る］（動）
❶存在する。
❷住む。

いる［要る］（動）
必要だ。

いれる［入れる］（動）
❶中に移す。
❷受け入れる。

いろ［色］（名）
❶目で見える色。
❷顔色。

いろいろ［色々］（形）
❶種類が多いこと。
❷様々なこと。

いわ［岩］（名）
❶大きな石。
❷岩石。

いわう［祝う］（動）
❶喜ぶ。
❷祝福する。

いわく（名）
❶言い分。
❷事情。

いわば［言わば］（副）
❶例えて言うと。
❷ほぼ。

いわゆる［所謂］（連体）
❶世間で言う。
❷有名な。

いん［院］（名）
❶建物。
❷学校。

いんが［因果］（名）
❶原因と結果。
❷運命。

いんさつ［印刷］（名）
❶文字や絵を紙に写すこと。
❷大量に複製すること。

いんしょう［印象］（名）
❶心に残る感じ。
❷見た感じ。

いんしょく［飲食］（名）
❶飲むことと食べること。
❷生活。

いんせき［隕石］（名）
❶宇宙から落ちる石。
❷流星。

いんたい［引退］（名）
❶仕事を辞めること。
❷退職。

いんよう［引用］（名）
❶他の文章を使うこと。
❷例として挙げること。

うえ［上］（名）
❶高い位置。
❷目上の人。

うえる［飢える］（動）
❶食べ物がなくて苦しむ。
❷強く望む。

うえる［植える］（動）
❶植物を土に入れる。
❷教育する。

うお［魚］（名）
❶水中の動物。
❷食用の魚。

うかがう［伺う］（動）
❶聞く。
❷訪問する。

うかぶ［浮かぶ］（動）
❶水面に出る。
❷思い出す。

うかべる［浮かべる］（動）
❶水面に出す。
❷思い出す。

うけとる［受け取る］（動）
❶受ける。
❷理解する。

うけとる［受取る］（動）
❶受ける。
❷理解する。

うけもち［受け持ち］（名）
❶担当すること。
❷担当者。

うごかす［動かす］（動）
❶動くようにする。
❷影響を与える。

うごく［動く］（動）
❶位置が変わる。
❷活動する。

うしなう［失う］（動）
❶なくす。
❷死なせる。

うしろ［後ろ］（名）
❶後方。
❷裏側。

うすい［薄い］（形）
❶厚さが小さい。
❷濃度が低い。

うすめる［薄める］（動）
❶濃度を低くする。
❷弱める。

うそ（名）
❶事実でないこと。
❷冗談。

うた［歌］（名）
❶歌うもの。
❷和歌。

うたう［歌う］（動）
❶歌を声に出す。
❷詩を作る。

うたがう［疑う］（動）
❶疑いを持つ。
❷信じない。

うたがい［疑い］（名）
❶疑うこと。
❷容疑。

うち［内］（名）
❶内側。
❷家庭。

うちあわせ［打ち合わせ］（名）
❶相談すること。
❷準備。

うちあわせる［打ち合わせる］（動）
❶相談する。
❷準備する。

うちがわ［内側］（名）
❶内部。
❷仲間。

うつ［打つ］（動）
❶叩く。
❷攻撃する。

うつ［撃つ］（動）
❶銃を発射する。
❷攻撃する。

うつす［写す］（動）
❶複製する。
❷書き取る。

うつす［移す］（動）
❶場所を変える。
❷感染させる。

うつす［映す］（動）
❶光を当てる。
❷反射させる。

うつる［移る］（動）
❶場所が変わる。
❷感染する。

うつる［映る］（動）
❶光が当たる。
❷見える。

うで［腕］（名）
❶体の一部。
❷技術。

うどん（名）
小麦粉で作った麺。

うなぎ［鰻］（名）
❶魚の一種。
❷食用の魚。

うまい（形）
❶味がよい。
❷上手だ。

うまれ［生まれ］（名）
❶生まれること。
❷出身。

うまれる［生まれる］（動）
❶誕生する。
❷発生する。

うみ［海］（名）
❶広い水域。
❷多量。

うむ［生む］（動）
❶産む。
❷作り出す。

うむ［産む］（動）
子を体から出す。

うめ［梅］（名）
❶植物の一種。
❷酸っぱい食べ物。

うめる［埋める］（動）
❶穴を土で満たす。
❷補う。

うら［裏］（名）
❶反対側。
❷隠れた事情。

うらがえす［裏返す］（動）
❶裏側にする。
❷逆にする。

うらぎり［裏切り］（名）
❶裏切ること。
❷背信。

うらぎる［裏切る］（動）
❶信頼を破る。
❷期待に反する。

うらない［占い］（名）
❶占うこと。
❷予測。

うらなう［占う］（動）
❶吉凶を判断する。
❷予測する。

うらやましい［羨ましい］（形）
❶羨ましく思う。
❷良い状態だ。

うらやむ［羨む］（動）
❶羨ましく思う。
❷良い状態だ。

うりあげ［売り上げ］（名）
❶商品を売ること。
❷売上金。

うりきれ［売り切れ］（名）
❶全部売れること。
❷在庫がないこと。

うる［売る］（動）
❶商品を渡す。
❷裏切る。

うるさい（形）
❶騒がしい。
❷面倒だ。

うるし［漆］（名）
❶植物の一種。
❷塗料。

うるむ（動）
❶涙で目がぼやける。
❷水分を含む。

うれしい［嬉しい］（形）
喜ばしい。

うれる［売れる］（動）
❶商品が買われる。
❷有名になる。

うわ［上］（名）
❶高い位置。
❷目上の人。

うわぎ［上着］（名）
❶上に着る服。
❷外套。

うわさ［噂］（名）
❶人の話。
❷評判。

うん［運］（名）
❶幸運。
❷運命。

うんこう［運行］（名）
❶決まった道を進むこと。
❷交通機関の動き。

うんざり（副）
❶嫌になること。
❷飽きること。

うんちん［運賃］（名）
❶運送の料金。
❷乗り物の料金。

うんてん［運転］（名）
❶機械を動かすこと。
❷車を動かすこと。

うんどう［運動］（名）
❶体を動かすこと。
❷社会的な活動。

うんめい［運命］（名）
❶人生の巡り合わせ。
❷宿命。

え［絵］（名）
❶描いたもの。
❷映像。

えいが［映画］（名）
❶動く映像。
❷娯楽。

えいきょう［影響］（名）
❶他に及ぼす力。
❷作用。

えいご［英語］（名）
❶言語の一つ。
❷国際語。

えいせい［衛生］（名）
❶健康を守ること。
❷清潔。

えいぶん［英文］（名）
❶英語の文章。
❷英語。

えいよう［栄養］（名）
❶生物が成長に必要な物質。
❷食べ物の成分。

えがく［描く］（動）
❶絵を作る。
❷思い浮かべる。

えき［駅］（名）
❶乗り降りする場所。
❷交通の拠点。

えき［液］（名）
❶液体。
❷薬。

えきたい［液体］（名）
❶液状の物質。
❷水分。

えさ［餌］（名）
❶動物の食べ物。
❷誘い。

えだ［枝］（名）
❶木の一部。
❷分かれたもの。

えだ［枝］（名）
❶木の一部。
❷分かれたもの。

えだん［演壇］（名）
❶講演する場所。
❷教壇。

えだん［壇］（名）
❶講演する場所。
❷教壇。

えだん［段］（名）
❶階段。
❷段落。

えだん［段］（名）
❶階段。
❷段落。

えだん［段］（名）
❶階段。
❷段落

ふりょく　[名]　助力。

ふりょく　[名]　助力。

ふりょく　[名]　助力。

しらかは　しらくも　しらさぎ　しらしぼり　しらす　しらすか　しらすぼし　しらすやき　しらたき　しらたま　しらつち　しらつつじ　しらつゆ　しらとり　しらなみ　しらぬひ　しらぬひのうみ　しらぬひのくに　しらぬひのつくし　しらぬひのつくしのみち　しらぬひのつくしのみやこ　しらぬひのつくしのをさ　しらぬひのつくしをさ　しらぬひのつくしをさのみこと　しらぬひのつくしをさのみこともち　しらぬひのつくしをさのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさのやかた　しらぬひのつくしをさやかた　しらぬひのつくしをさやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともち　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたのみこともちのやかた　しらぬひのつくしをさやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかたやかた

あらふ［白面］（名）酒を飲まずにあるときのこと。
☆あらふ（ハ）［洗ふ］（他、は下二）［合］（自、は四）互に事をなしあふ。「言ひ—」「恥ぢ—」
あらふ（ハ）［調］（他、は下二）㊀音律の調子を合はす。㊁かなづ、奏す。「琴を—」。㊂照らし合はせて考ふ。點檢す。㊃罪狀を詮議す。罪人を糺問す。㊄捜索す。たづぬ。さがす。㊅研究す。せんぎす。
あらふぢ［白藤］（名）㊀［植］「あらふぢに同じ。㊁かされの色目、表は薄紫にして裏の濃紫なるもの。
あらべ［調］（名）㊀音律の調子。音調。㊁かなづること、奏すること。㊂照合。點檢。㊃詮議。糺問。㊄捜索。又、研究。㊅「あらべいと」の略言。——**いと**［調絲］（名）紡錘（つむ）にかけて絲繰（くり）車の周圍にまとひたる絲。
あらまし［調］（名）機械の車輪の周圍にまとひたる革。主動たる車輪の廻轉につれて、他の車輪に動力を與ふるもの。——**のを**［調緒］（名）鼓の兩面の緒にかけて胴に引き寄せ調（ととの）ふる紐（ひも）。鼓を擊（う）つ時、手にてこれを緊（しめ）又は緩（ゆる）めて調子を取る。——**やく**［調役］（名）取調の役目。（一——る（他）「あらぶの訛。
あらほし［白點］（名）兜（かぶと）に打つ色の白き鋲。
あらぼし［白乾］（名）肉又は菜などを其儘乾（ほ）したるもの。ナマボシ。
あらまほすすむじ［白］（他、き四）あらわやうにす。
あらまゆみ［白眞弓］（名）白木にてつくりたる弓。
あらまゆみ［白眞弓］（枕）「引く」に懸る。「射る」に冠らする詞。
あらみ［蝮］（名）《白眞弓の約言》［動］有鱗類に屬する小形の毘蟲、腦角短くして五節より成り、胸部は大にして七節乃至九節あり、腹節一個より成りて內方に彎曲せる一個の爪あり、十分の生長を遂（と）げたる者には、三回の脫皮をなす、全體灰白色にして、哺乳動物に寄生し、其血液を吸收す。種類多し。ささ。（虱）。
あらむ［白］（自、ま四）㊀白くなる。あかるくなる。㊁褪（あ）す。さむ。㊂負けかゝる。
☆あらむ（ム）［調］（他、ま下二）［あらふに同じ。［七。
あらむし［白蟲］（名）［動］あらみに同じ。
あらめし［白藻］（名）赤小豆を加へずして白く炊（かし）きたる強飯。こはめし。
あらめ［白眼］（名）あらめに同じ。
あらめ［白藻］（名）あごのりを曝（さら）して白くしたる魚肉。
あらやき［白燒］（名）魚肉などを何もつけずにやくこと。又、其燒方にしたる魚肉。
あらゆ［白湯］（名）さゆ。
あらゆき［白雪］（名）ゆき。
☆あらゆふ（ユ）［白木綿］（名）白木綿を浪にたとへいふ語。——**はな**［白木綿花］（名）白木綿を用ひてつくりたる花。
あらら［白］（名）白くしてあざやかなること。
あらん［紫蘭］（名）［植］蘭科に屬する草、葉は濶（ひろ）くして長く、夏の頃花開く、花は通常紅紫色を呈し、長き花莖の上部に總狀に排列す。莖は一個あり、觀賞用として栽培せらる。（朱蘭、白及）。
あり［尻］（名）㊀腰の後方の下、肉の多く滿ちたる所。おさらひ。ゆつ。㊁うしろ。あと。のち。すえ。（後）。㊂器物の地面に附く所。㊃物事の餘波。とばちり。㊄物事の結局。をさまり。㊅すえ。はし。㊆（つゝみかくしたる本性又は事柄。「——が**あれもい**たちものかひぐしきにいふ。「——が**かるい**たちものの氣もちなるにいふ。又、女の浮氣なるにいふ。「——が**すわらぬ**一處にもちつきて居らず。「——が**すわる**一處にもちつきて居る。「——が**われる**惡事のたくらみなどの露顯するにいふ。「——に**あく**妻の夫をなほざりにするにいふ。「——に**つく**他の配下となる。又、他の後に從ひ行く。「——に**ほをかく**逃早くにげ出すにいふ。「——を**ぬぐふ**結末をつける。「——を**はしよる**あとりからげをなす。又、切りあげて短くする。「——を**わる**惡事のたくみなどを露顯せさす。
あり［至理］（名）至極尊もなる道理。
あり［私利］（名）自分一己の利益。
あり［支離］（名）つがひめのはなれいと、又、わかれてばらばらになること。「一滅裂」。
あり［事理］（名）㊀物事のすぢみち又は道理。ことわけ。㊁なすわざと其道理と。
ありあし［後足］（名）あとあし。
ありあて［尻當］（名）單衣などの尻にあたる處の裏につくる切地。
ありあひ（ア）［知合］（活名）知り合ふこと。又其人。
ありあふ（ア）［知合］（自、は四）互に相知る。まじはる。ちかづく。
ありうり［支流］（名）㊀えだがは。支川。㊁分家又は分派。わかれ。
ありぎぬ［白綾］（名）黒染（くろぞめ）の衣を着てゐる人の社會。即ち僧侶の社會。
ありうり［時流］（名）㊀當時の普通一般のものごと。當時の風潮。
ありうらごと［後言］（名）かげごと。かげくち。
ありうちとげ［臀打上］（名）兩脚を投げ出だして坐すること。（俗語）。
ありうちみだ（ダ）［臀打上］（自、か下二）ありうたげをなす。
ありうらど［知人］（名）《ありびとの音便》まじはりて知れる人。ありあひ。
ありうま［尻馬］（名）㊀人の騎（の）りたる馬の後に騎ること。㊁人の後に附きて物事をすること。
ありおし［尻押］（名）うしろより助勢すること。かげにて煽動すること。又、其人。
ありかも［尻重］（名）赤痢・白痢の古言。
ありがも［尻重］（名）たちものの不活潑なること。
ありがい（名）［蝦］「ありがき」の音便。
ありがき（名）《尻懸（かけ）の轉》馬具の名。もしかけの一部分にして、尾より鞍にかくる組紐。
ありがほ（ガ）［知顏］（名）知りて居るふう。
ありがら（ガ）［尻柄］（名）衣の裾（ス）をまくりて、其端を帶にはさむこと。
ありがる［尻輕］（名）㊀たちもの活潑なること。㊁女の淫氣なること。
ありき［白力］（名）㊀自身一己の力。みづからのちから。㊁［佛］自己の作行福によりて、往生得脫すること。他力の對。——**ゆう**［自力宗］（名）［佛］自力を旨とする宗派。即ち禪宗の如く、自己の往生得脫は自己の作行修福によるとなすもの。
ありきれ［尻切］（名）㊀口廣くして尻の方の狹くなること。㊁始め盛りにして終りの衰ふること。

［きがり虫］

［やざり虫］

ありぎり［尻切］（名）㊀當時の風潮。
☆ありうとと［後言］（名）かげごと。かげくち。
☆ありうちとげ［臀打上］（名）兩脚を投げ出だして坐すること。（俗語）。
☆ありうちみだ（ダ）［臀打上］（自、か下二）ありうたげをなす。
☆ありうらど［知人］（名）《ありびとの音便》まじはりて知れる人。ありあひ。
ありうま［尻馬］（名）㊀人の騎（の）りたる馬の後に騎ること。㊁人の後に附きて物事をすること。
☆ありおし［尻押］（名）うしろより助勢すること。かげにて煽動すること。又、其人。
☆ありかも［尻重］（名）赤痢・白痢の古言。
☆ありがも［尻重］（名）たちものの不活潑なること。
ありがい（名）［蝦］「ありがき」の音便。
ありがき（名）《尻懸（かけ）の轉》馬具の名。もしかけの一部分にして、尾より鞍にかくる組紐。
ありがほ（ガ）［知顏］（名）知りて居るふう。
☆ありがら（ガ）［尻柄］（名）衣の裾（ス）をまくりて、其端を帶にはさむこと。
☆ありがる［尻輕］（名）㊀たちもの活潑なること。
ありき［白力］（名）㊀自身一己の力。みづからのちから。㊁［佛］自己の作行福によりて、往生得脫すること。他力の對。——**☆ありき**（ユ）［自力宗］（名）［佛］自力を旨とする宗派。即ち禪宗の如く、自己の往生得脫は自己の作行修福によるとなすもの。
☆ありきれ［尻切］（名）㊀口廣くして尻の方の狹くなること。㊁始め盛りにして終りの衰ふること。
ありぎり［尻切］（名）㊀［蝉］物事の長つゞきせぬこと。——**とんぼ**［尻切蜻蛉］（名）物事の長つゞきせぬ性質の人にいふ語。——**てん**［尻切半纏］（名）俗かに尻の上迄とゞくこと。（一引く。ひく。㊁恭敬する。さがる。㊂官を辭す。野に下る。「功成り身—」。㊃讓遜す。へりくだる。
ありぎれ［尻切］（名）㊀尻のきれてあること。又、其もの。㊁きれざうりに略言。——**ざうり**（ザウ）［尻切半纏］（名）俗かに尻の上迄とゞくこと。（一引く。ひく。㊁恭敬する。さがる。㊂官を辭す。野に下る。「功成り身—」。㊃讓遜す。へりくだる。
ありぐ（グ）［退］（自、か四）後退の義。㊀あと（引作方の短かき草履。あしかけ。
☆ありぐつ（ヅ）［草履］（名）㊀草履。
☆ありくべ（ベ）［注連］（名）「ありくめなは」に同じ。
☆ありくめなは（ハ）［注連］（名）神前に引きたる繩。なひたる藁の索りをふさの如く所々に下げ垂らしたるもの。ありくべなは。
ありくらい（ク）**くわんれん**（ン）［尻暗觀音］（名）《六觀音の緣日は十八日より配當して二十三日迄の間にあり、其の緣日の尻は暗夜なり、故にいふ》。㊁觀音の稱。㊂愚を仇に返（へ）して後を顧（かへり）みざること。
ありげ［尻毛］（名）尻に生じたる毛。——**さぬ**（ヌ）［尻附］（名）㊀ありのやうす。㊁他の配下につくこと。他の後につき從ふこと。
ありっぱね［尻跳］（名）尻の方のあがること。
ありっぽ［尻方］（名）㊀ありの方。㊁尻毛又は尾。㊂はし。すえ。「言葉の—」。㊃つゝみかくしたる本性又は事柄。
ありとり［尻取］（名）二人以上のものが、順次に前の人のいひしことばの尻を頭とせることばをいひあふこと。例へば、一人が「ひと」といへば、次の人が「とり」といひ、又其次の人が「りんご」といふが如きこれなり。——**もんく**［尻取文句］（名）尻取にいふ文句。

あおぞら　**あおむし**

あおぞら　[名]　青空。

あおだいしょう　[名]　青大将。

あおだいしょう　[名]　青大将。

あおだいしょう　[名]　青大将

あらわ―あろう

あらわ・す【表す】〔他五〕❶内部にあるものを外に出す。❷表現する。❸数量などを示す。❹書き記す。❺現す。

あらわ・す【現す】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【著す】〔他五〕書物を書いて世に出す。

あらわ・す【顕す】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【露す】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【露わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【顕わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【露わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【著わす】〔他五〕書物を書いて世に出す。

あらわ・す【現わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【表わす】〔他五〕❶内部にあるものを外に出す。❷表現する。❸数量などを示す。❹書き記す。❺現す。

あらわ・す【著わす】〔他五〕書物を書いて世に出す。

あらわ・す【顕わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表す。

あらわ・す【露わす】〔他五〕❶隠れていたものを見えるようにする。❷表面に出す。❸表現する。❹表

ぜつ-れい【絶嶺】(名) 高く険しい山の頂。

ぜつ-ろん【絶倫】(名) 人間業とは思われないほど、すぐれていること。

ぜつ-ろん【絶論】(名) 全く新しい説。

ぜつ-わ【絶和】(名) 夫婦の縁を絶つこと。

せつ【切】(名) ❶物事の大事な点。「要の一」❷(仏)仏教の教理。❸(仏)仏教の経典。

せつ【折】(名) ❶折ること。❷折ったもの。❸(仏)仏教の経典。

せつ【拙】(名) ❶へたなこと。❷自分の事を謙遜していう語。

せつ【節】(名) ❶ふし。❷区切り。❸時候。❹礼儀。❺みさお。❻音楽の調子。❼(仏)仏教の経典。

せつ【説】(名) ❶説くこと。❷説明。❸意見。❹学問上の主義。❺(仏)仏教の経典。

せつ【雪】(名) ❶ゆき。❷白いもの。❸清いもの。❹(仏)仏教の経典。

せつ【摂】(名) ❶とること。❷治めること。❸(仏)仏教の経典。

せつ【接】(名) ❶つぐこと。❷近づくこと。❸(仏)仏教の経典。

せつ【設】(名) ❶もうけること。❷(仏)仏教の経典。

せつ【窃】(名) ❶ぬすむこと。❷(仏)仏教の経典。

せつ【節】(名) ❶ふし。❷区切り。❸時候。❹礼儀。❺みさお。❻音楽の調子。❼(仏)仏教の経典。

せつ【説】(名) ❶説くこと。❷説明。❸意見。❹学問上の主義。❺(仏)仏教の経典。

せつ【雪】(名) ❶ゆき。❷白いもの。❸清いもの。❹(仏)仏教の経典。

せつ【摂】(名) ❶とること。❷治めること。❸(仏)仏教の経典。

せつ【接】(名) ❶つぐこと。❷近づくこと。❸(仏)仏教の経典。

せつ【設】(名) ❶もうけること。❷(仏)仏教の経典。

せつ【窃】(名) ❶ぬすむこと。❷(仏)仏教の経典。

せつ-あい【切愛】(名) 切に愛すること。

せつ-あい【接合】(名) 接して合すること。

せつ-あい【接愛】(名) 親しみ愛すること。

せつ-あい【摂受】(名) (仏)仏教の教理を受け入れること。

せつ-あい【雪合】(名) 雪合戦。

せつ-あい【雪愛】(名) 雪のように清く愛すること。

せつ-あい【雪哀】(名) 雪のように清く哀れなこと。

せつ-あい【雪藹】(名) 雪のように清く藹々たること

(まんーかん)[意識](名) 主上のみうからをはじめ奉る。「おひうごくぐ。

(まんーかん)[感想](名) よろひうごかすぐ。又よろこびうごくぐ。

(まんーかん)[心肝](名) まんうごかんうごく。

(まんーかん)[新刊](名) 書物をあらたに刊行すること。又あらたに刊行せられたる書物。——せきりょう(ショウ)[新刊紹介](名) 新刊の書物を新聞又は雑誌などにて世に紹介すること。

(まんーがん)[感嘆](名) まことにたふとぶこと。

(まんーがん)[心眼](名) 物事を観察又は判断する心のはたらき。「むまこ。

(まんーかん)[悪寒](名) 甚しく寒きこと。ひどいさむさ。

(まんーかん-と)[漢国](副) ひどく寒さのために。

(まんーき)[神器](名) ❶御位をまつるのに用ゐる御宝。❷御位より引き継ぐべきもの。❸天子の位。❹国家をさゝえる大権。❺三種神器の略。❻精神。「一不乱」

(まんーき)[心気](名) こゝろもち。こゝろ。

(まんーき)[心気](名) ❶病物を組成する原素。「細胞」。❷不思議なる霊気。❸身体又は精神の動力。「一を養ふ」。❹こゝろ。こゝろ。

(まんーき)[新機](名) 国家をうごかす活動。変化極りなきはたらき。「一一転」。

(まんーき)[心機](名) 心のはたらき。心のうごき。

(まんーき)[感想](名) おもひあぐ。はなやぐ。

(まんーき)[新規](名) あたらしきこと。

(まんーき)[神祇](名) くしきこと。不思議なること。

(まんーき)[新気](名) 新しくおこりうごくこと。

(まんーき)[神鬼](名) ❶かみとおにと。❷のたまふ。

(まんーきゅう)[緩急](名) 事態にものをおもむきある。

(まんーきゅう)[深宮](名) おく深き宮殿。

(まんーきゅう)[禁宮](名) みたまや。おたまや。

(まんーきょ)[新居](名) あらたに転居したる住居。

(まんーきょ)[着席](名) 精神の虚耗より生ずといふ病症の名称。

(まんーきょう)[心向](名) こゝろむき。「向」

(まんーきょく)[新曲](名) あらたに作られたる歌曲。

(まんーきょく)[心曲](名) 心中のいちぢるしきゆうづう。

(まんーきり)[心切](名) 懇切のこゝろもちを切なる用事。「したる気風。

(まんーきり)[新切](名) 甘酸にして軽く日に数ぐ。

(まんーきょう)[風気機](名) 【地】熱風寒暖の日に、温度又は湿度の関係より、大気の密度が屢々相異なるとき、光線の屈折并に雲山の起るおだやかなる現象の物体の影が、海上にては空中に於ては雲にて、海上に現ずるものゝ、もと実物にて、海上に現ずるものを見て、屢々(しばしば)の世(よ)く気の作用なりといふ。「る。

(まんーきん)[度機](名) 天子の御心。おはかこゝろ。

(まんーきん)[黄金](名) おうごん。「一不換紙」。

(まんーきん)[親近](名) ❶したしみちかづくこと。❷こんぎん。おもだち。❸かよう。えんだんをもとめおもむくこと。

(まんーきん)[慎謹](名) つゝしみ。

(まんーきん)[寄金](名) ゆはしきみね。

(まんーきん)[神吟](名) うめくこと。うたふこと。

(まんーく)[辛苦](名) くるしみ。なんぎ。ぬんぱい。

(まんーく)[試紅](名) 頬にさす紅色。(唐語)。

(まんーく)[神供](名) 神の供物。

(まんーく)[俳句](名) 小説の名。七・七・七・五の四句より成るもの。

(まんーぐ)[振起](名) ❶ふるひおこすこと。おこりふるはすること。❷ふるひおこすこと。おこりふるふこと。

(まんーぐ)[振気](名) 勢気をふるひおこすこと。

(まんーぐ)[新春](名) 新年の祝賀。あらたまの年のいはひ。「それのたまこと。

(まんーぐ)[辛気](名) 心のはたらきをつかさどること。又はそのはたらき。

(まんーぐ)[信誠](名) 信をまもり誠を行ふこと。りあまかまこと。こゝろのたゝしきこと。

(まんーぐ)[感応](名) まことにこゝろにつうじ。(唐語)。

(まんーぐ)[信疑](名) 信ずると疑ふと。又信ずべきことは信じ疑はしきこと。

(まんーぐ)[審識](名) つまびらかに討論すること。又これをさだめて師識すること。

(まんーぐ)[真誠](名) まことの忠誠。

(まんーぐ)[新誠](名) ❶あたらしき忠誠。❷【仏】仏菩薩にて(根来(ねごろ))の修業の所成を讃美するもの。古語の約。

(まんーぐ)[心水](名) ❶心の約。こゝろ。❷一中心となりて其物事の活動を支持するもの。

(まんーぐ)[人気](名) ❶世間一般の盛情又は風習。「一のかわいい所」。❷其土地一般の気象又は風習。「一のおだやかな所」。

(まんーぐ)[仁義](名) ❶仁愛と義理と。おはれみとうるはしきこと。仁と義と。❷人生の履行せざるべからざる諸種の徳義。「まつるぐ。

(まんーぐ)[神祇](名) 天神地祇及国神の汎称。「一を尊ぶ」。

(まんーぐ)[雅楽](名) はなやか。又ふくりゅう。

(まんーぐゎう)[新着](名) ❶あたらしきこと。❷太閤豊臣秀吉の別名。

(まんーぐゎう)[派教](名) ものごとのおこりたつるところ。(唐語)。

(まんーぐゎう)[振起](名) ❶ふるひおこすこと。おこりふるふこと。

(まんーぐゎう)[振気](名) 勢気をふるひおこすこと。

(まんーぐゎう)[新暦](名) 新年の祝賀。あらたまの年のいはひ。「それのたまこと。

(まんーぐゎう)[辛気](名) 心のはたらきをつかさどること。又はそのはたらき。

(まんーぐゎう)[信誠](名) 信をまもり誠を行ふこと。りあまかまこと。こゝろのたゝしきこと。

(まんーぐゎう)[感応](名) まことにこゝろにつうじ。(唐語)。

(まんーぐゎう)[信疑](名) 信ずると疑ふと。又信ずべきことは信じ疑はしきこと。

(まんーぐゎう)[審識](名) つまびらかに討論すること。又これをさだめて師識すること。

(まんーぐゎう)[真誠](名) まことの忠誠。

(まんーぐゎう)[新誠](名) ❶あたらしき忠誠。❷【仏】仏菩薩にて(根来(ねごろ))の修業の所成を讃美するもの。古語の約。

(まんーぐゎう)[心水](名) ❶心の約。こゝろ。❷一中心となりて其物事の活動を支持するもの。

(まんーぐゎう)[人気](名) ❶世間一般の盛情又は風習。「一のかわいい所」。❷其土地一般の気象又は風習。「一のおだやかな所」。

(まんーぐゎう)[仁義](名) ❶仁愛と義理と。おはれみとうるはしきこと。仁と義と。❷人生の履行せざるべからざる諸種の徳義。「まつるぐ。

(まんーぐゎう)[神祇](名) 天神地祇及国神の汎称。「一を尊ぶ」。

(まんーぐゎう)[雅楽](名) はなやか。又ふくりゅう。

(まんーぐゎう)[新着](名) ❶あたらしきこと。❷太閤豊臣秀吉の別名。

(まんーぐゎう)[派教](名) ものごとのおこりたつるところ。(唐語)。

(まんーぐゎう)[真空](名) ❶他物はいふ迄もなく、空気さへも存在せざる空間。❷【物】宇宙の実相は空なりとする仏教の哲理。❸【理】空気をぬきたる物手巻、陰極線又は「エックス」光線等の実験に用ふるもの。

(まんーぐゎう)[神通](名) ❶不思議なる出来事。❷時代又は方処を問はざる人と精神の相一致すること。

(まんーぐゎう)[神宮](名) ❶神の宮殿。かみのみや。しろ。❷伊勢の太神宮。——ちょう(チョウ)[神宮司庁](名) 伊勢太神宮に附属して、其神部をつかさどる所。

(まんーぐゎ)[心火](名) 火の燃(も)ゆるが如く烈しくおこりたつ恋慾又は怨憤の性。「の変化。

(まんーぐゎ)[神化](名) 不思議なる変化。又自然。

(まんーぐゎ)[進化—Evolution](名) ❶万物の発達に伴ひて漸次に変化すること。❷外界の影響と内部の機能とにより、世代を経過するに従ひて、もと同一物なりしものが漸次に其の状態を異にすること。❸【花】異種の物質が相化合すること。

(まんーぐゎう)[親和](名) ❶親しみ和(やわ)ぐこと。❷

(まんーぐゎう)[殴欧](名) ふるへなぐること。

(まんーぐゎう)[人和](名) 衆人の心の和合すること。「地利は一に如かず」

(まんーぐゎい)[神怪](名) 不思議なること。又其現象。

(まんーぐゎい)[心外](名) ❶一心の外。「一無事」。❷おもひのほか。意外。❸意外のことのために心をいたすこと。「一に存ずる。「ほか。

(まんーぐゎい)[身外](名) からだのほか。自己のより成るもの。

(まんーくう)[真空](名) ❶他物はいふ迄もなく、空気さへも存在せざる空間。❷【物】宇宙の実相は空なりとする仏教の哲理。❸【理】空気をぬきたる物手巻、陰極線又は「エックス」光線等の実験に用ふるもの。

(まんーくわい)[神通](名) ❶不思議なる出来事。❷時代又は方処を問はざる人と精神の相一致すること。

(まんーぐう)[神宮](名) ❶神の宮殿。かみのみや。しろ。❷伊勢の太神宮。——ちょう(チョウ)[神宮司庁](名) 伊勢太神宮に附属して、其神部をつかさどる所。

(まんーくわ)[心火](名) 火の燃(も)ゆるが如く烈しくおこりたつ恋慾又は怨憤の性。「の変化。

(まんーくわ)[神化](名) 不思議なる変化。又自然。

(まんーくわ)[進化—Evolution](名) ❶万物の発達に伴ひて漸次に変化すること。❷外界の影響と内部の機能とにより、世代を経過するに従ひて、もと同一物なりしものが漸次に其の状態を異にすること。❸【花】異種の物質が相化合すること。

(まんーくわい)[親和](名) ❶親しみ和(やわ)ぐこと。❷

(まんーぐゎい)[殴欧](名) ふるへなぐること。

(まんーぐゎい)[人和](名) 衆人の心の和合すること。

(まんーぐゎい)[神怪](名) 不思議なること。又其現象。

(まんーぐゎい)[心外](名) ❶一心の外。「一無事」。❷おもひのほか。意外。❸意外のことのために心をいたすこと。「一に存ずる。「ほか。

(まんーぐゎい)[身外](名) からだのほか。自己のより成るもの。

(まんーくわい)[機灰](名) もえきれはひと。

(おんーくわい)[人外](名) 「にんがい」に同じ。

(まんーくわいらく)[人楽](名) 現世を統治し給ふ天命を申し奉る詞。「一百十五代」

(まんーくわりょく)[親和力](名) 【化】異種なる物質の相化合せんとする作用。

(まんーくわろん)[進化論—Evolution](名) 西暦一千八百五十八年「イギリス」国の博物学者ダーウィンの創説にして、世界の生物は千変万化(せんぺんばんか)して其数種皆相異なれども、原始に遡(さかのぼ)れば、皆な其個別々に創造せられたるものにあらずして、皆な其種族を一にし極めて簡単なる原始生物より起り、一方に進化したるものは植物となり、又其植物も動物も数多の類に分岐して、今日の状態となれりといふ。

(まんーぐん)[神官](名) かんぬし。

(まんーぐんぐわん)[心願](名) 心の中に神仏などに願を立つること。「世の中。

(まんーぐんぐわん)[人寰](名) 俗人の住まふる区域。

(まんーぐんくん)[神君](名) 功徳偉大なる祖先の敬称。

(まんーぐんくん)[進亜](名) 亜将を進むること。

(まんーぐんくん)[人君](名) きみ。君主。

(まんーぐんくん)[仁君](名) 仁徳ある君主。

(まんーげ)[新家](名) そうげ。ぶんげ。ぶんたく。

(まんーげ)[信解](名) 【仏】信仰により教法を会得すること。

(まんーげい)[深閨](名) 婦人の寝室。「一の感。

(まんーげいい)[神遊](名) かみのあそび。

(まんーげいいい)[真景](名) 実際のけしき。

(まんーげいいい)[親兄](名) 自分の兄。

あんない【案内】(名)　知らない人を導いて目的地へ連れて行くこと。「―を乞う」「―人」

あんない【案内】(名)　催しなどの知らせ。「―状」「―を出す」

あんない【案内】(名)　ある事柄について知っていること。「―に通じる」

あんない【案内】(名)　家の中へ入ること。「―を請う」

あんない【案内】(名)　家の中の様子。「―を知り尽くした泥棒」

あんない【案内】(名)　物事の様子。「―を聞く」

あんない【案内】(名)　(古)　女性。

あんない【案内】(名)　(古)　情交。

あんない【案内】(名)　(古)　妻。

あんない【案内】(名)　(古)　妾。

あんない【案内】(名)　(古)　遊女。

あんない【案内】(名)　(古)　男女の交わり。

あんない【案内】(名)　(古)　男女の仲。

あんない【案内】(名)　(古)　男女の仲を取り持つこと。

あんない【案内】(名)　(古)　男女の仲を取り持つ人

あ 〔感〕 ❶驚いたり感動したりしたときに発する声。「―、美しい」 ❷呼びかけたり注意を引いたりするときに発する声。「―、危ない」 ❸思い当たったときに発する声。「―、そうだった」 ❹相手の言葉を聞き返すときに発する声。「―、何だって」 ❺念を押すときに発する声。「―、分かったね」 ❻相手の言葉を肯定するときに発する声。「―、いいとも」 ❼不満・反発などの気持ちを表すときに発する声。「―、いやだ」 ❽あくびをするときに発する声。

あ 〔接尾〕 ❶人を表す語に付いて、軽い親しみの気持ちを表す。「太郎―」 ❷呼びかけの語に付いて、軽い親しみの気持ちを表す。「おい―」

あ 〔接頭〕 ❶動詞に付いて、その動作が相手に対して行われることを表す。「―呼ぶ」「―待つ」 ❷動詞に付いて、その動作が自分に対して行われることを表す。「―教える」「―聞く」

ぎんせかい【銀世界】(名) 雪が降り積もって一面白くなった景色。

ぎんせん【銀線】(名) 銀の線。

ぎんせん【銀銭】(名) 銀貨。

ぎんせん【銀泉】(名) 鉱泉の一種で、炭酸水素ナトリウムを含むもの。

ぎんぞう【銀像】(名) 銀製の像。

ぎんそう【銀装】(名) 銀で装飾すること。

ぎんそう【銀箱】(名) 銀製の箱。

ぎんそう【銀槽】(名) 銀メッキをするための槽。

ぎんそう【銀燭】(名) 銀製の燭台。

ぎんぞめ【銀染め】(名) 銀で染めること。

ぎんだい【銀台】(名) 銀製の台。

ぎんだい【銀代】(名) 銀貨で支払う代金。

ぎんだか【銀高】(名) 銀貨の総額。

ぎんだこ【銀蛸】(名) 体が銀色をしたタコ。

ぎんだち【銀太刀】(名) 銀で飾った太刀。

ぎんだら【銀鱈】(名) 体が銀色をしたタラ。

ぎんだら【銀鱈】(名) 体が銀色をしたタラ。

ぎんたん【銀炭】(名) 銀を含む鉱石。

ぎんだんす【銀箪笥】(名) 銀製の箪笥。

ぎんち【銀地】(名) 銀色の地。

ぎんちゃ【銀茶】(名) 銀色がかった茶色。

ぎんちゃく【銀着】(名) 銀メッキ。

ぎんちゃく【銀着】(名) 銀メッキ。

ぎんちゃく【銀着】(名) 銀メッキ

あんざ—あんぜ

暗雑（名）暗くて雑然としていること。「―な部屋」

暗殺（名）ひそかに人を殺すこと。「―を企てる」

暗算（名）筆算・珠算などによらず、頭の中で計算すること。

暗示（名）❶それとなく示すこと。また、その内容。「―にかかる」❷催眠状態にある者に対して、言語・動作などによって、ある観念を与えること。

暗室（名）❶光を遮断した室。写真の現像などに用いる。❷暗い部屋。

暗写（名）文字などを見ないで書き写すこと。

暗唱（名）書物などを見ないで声に出して言うこと。「詩を―する」

暗証（名）❶秘密にしておく合言葉。❷銀行などで、預金者が自分であることを証明するために用いる秘密の番号。

暗礁（名）❶海面下に隠れている岩礁。❷物事を進めていく上での障害。「―に乗り上げる」

暗色（名）暗い感じの色。黒・紺など。

暗愁（名）暗く沈んだ愁い。

暗渠（名）地下に設けた水路。

暗転（名）❶舞台の照明を消して暗くすること。❷物事の状態が急に悪い方へ変わること。「景気が―する」

暗闘（名）表面に現れない争い。

暗闇（名）真っ暗なこと。また、その場所。

暗然（形動タリ）悲しみに沈むさま。

暗中（名）❶暗いこと。また、その場所。❷物事の内情がはっきりしないこと。「―に飛躍する」

暗中模索（名）❶暗闇の中で手探りすること。❷手がかりのないまま、いろいろと探し求めること。

暗澹（形動タリ）❶暗くて先の見通しがつかないさま。「―たる前途」❷悲しみに沈むさま。

暗調（名）❶暗い感じの調子。❷短調。

暗闘（名）表面に現れない争い。

暗転（名）❶舞台の照明を消して暗くすること。❷物事の状態が急に悪い方へ変わること。

暗唱（名）書物などを見ないで声に出して言うこと。

暗殺（名）ひそかに人を殺すこと。

暗雑（名）暗くて雑然としていること。

暗算（名）筆算・珠算などによらず、頭の中で計算すること。

暗示（名）❶それとなく示すこと。また、その内容。❷催眠状態にある者に対して、言語・動作などによって、ある観念を与えること。

暗室（名）❶光を遮断した室。写真の現像などに用いる。❷暗い部屋。

暗写（名）文字などを見ないで書き写すこと。

暗証（名）❶秘密にしておく合言葉。❷銀行などで、預金者が自分であることを証明するために用いる秘密の番号。

暗礁（名）❶海面下に隠れている岩礁。❷物事を進めていく上での障害。

暗色（名）暗い感じの色。黒・紺など。

暗愁（名）暗く沈んだ愁い。

暗渠（名）地下に設けた水路。

暗転（名）❶舞台の照明を消して暗くすること。❷物事の状態が急に悪い方へ変わること。

暗闘（名）表面に現れない争い。

暗闇（名）真っ暗なこと。また、その場所。

暗然（形動タリ）悲しみに沈むさま。

暗中（名）❶暗いこと。また、その場所。❷物事の内情がはっきりしないこと。

暗中模索（名）❶暗闇の中で手探りすること。❷手がかりのないまま、いろいろと探し求めること。

暗澹（形動タリ）❶暗くて先の見通しがつかないさま。❷悲しみに沈むさま。

暗調（名）❶暗い感じの調子。❷短調